

第67回 OKITEN 沖展

絵 画 ————— FINE ARTS

版 画 ————— PRINT

彫 刻 ————— SCULPTURE

グラフィックデザイン — GRAPHIC DESIGN

書 芸 ————— CALLIGRAPHY

写 真 ————— PHOTO GRAPH

工 芸 ————— HANDICRAFTS

(陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸)

●2015年3月21日(土)～4月5日(日)

午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)

※最終日は午後5時までの入場となります。

●浦添市民体育館

第67回 OKITEN

2015年

沖展

第67回「沖展」

春を彩る“美の祭典”第67回「沖展」が開幕いたしました。

「沖展」は、戦後の荒廃のなか「郷土再建には文化復興が県民の支えになる」という考え方に立ち、美術関係者の賛同を得て、1949年7月、沖縄タイムス創刊1周年を記念して開かれたのが最初でした。

第39回展までは、春休みの期間に壺屋小学校など小中学校の校舎を借りて、会場を転々と変えてきたことから「ジブシー展」と呼ばれてきました。

第40回展から浦添市・浦添市教育委員会の深いご理解ご協力のもと、浦添市民体育館を会場に開催、以後安定的に運営し、現在に至っております。「沖展」の趣旨に賛同いただき長年にわたりご支援、ご協力をいただいております浦添市、浦添市教育委員会をはじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

「沖展」は質・量ともに県内最大の美術・工芸公募展として、郷土文化を象徴する総合美術展へと発展を続けております。これもひとえに会員、準会員の皆様の郷土の文化振興への使命感に基づくご協力や応募者の皆様の努力によるものだと思います。作品の質的レベルアップは、人間国宝、現代の名工、新進気鋭の美術工芸家にいたるまで国内外に通用する人材が「沖展」から育まれてきたことでもおわかりだと思います。

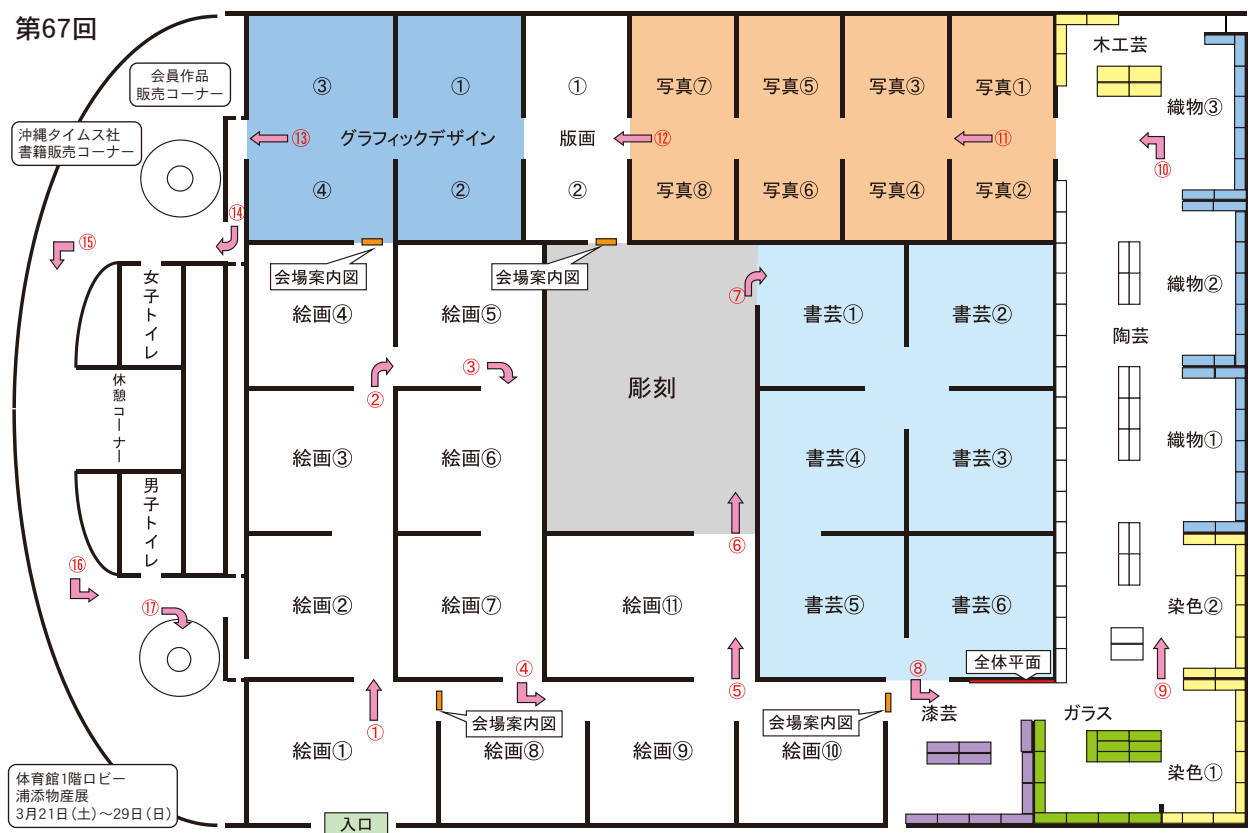
今回の展示数は、一般応募作1,017点のなかから入賞・入選した584点の作品と、沖展会員・準会員の作品を合わせた825点となっております。

来場者の皆様にとって、沖展が新しい価値、異なる価値との出会いを促し、芸術の風に触れる機会になれば幸いです。

最後に、沖展の運営に尽力されました各部門の会員・準会員の皆様、会場の提供など多大なご協力を頂きました浦添市をはじめ、浦添市教育委員会、浦添市民体育館、浦添市てだこホールの皆さま、「沖展」の趣旨に賛同いただき、ご支援を賜りました協賛企業、後援団体など関係各位に心より御礼申し上げます。

沖縄タイムス社

沖展会場案内図



第67回「沖展」審査結果

部 門	一 般 応 募								準 会 員				会 員			総 合 計	
	応募点数(人数)	冲展賞	奨励賞	浦添市長賞	うるま市長賞	沖縄教育出版賞	入 選	計	応募点数(人数)	準会員賞	他展示数	計	会員点数(人数)	特別展示	計	(総展示数)	(総人数)
絵 画	163点 (163人)	1	3	1	1	0	94	100点 (100人)	16点 (16人)	2	14	16点	31点 (31人)	1	32点	148点 (148人)	
版 画	21点 (16人)	0	2	1	1	1	7	12点 (12人)	6点 (4人)	1	5	6点	8点 (8人)		8点	26点 (24人)	
彫 刻	20点 (18人)	1	2	1	1	0	7	12点 (12人)	4点 (3人)	1	3	4点	14点 (14人)		14点	30点 (29人)	
グラフィックデザイン	63点 (53人)	1	3	1	1	1	29	36点 (32人)	5点 (4人)	1	4	5点	14点 (11人)		14点	55点 (47人)	
書 芸	275点 (275人)	1	4	1	1	1	175	183点 (183人)	30点 (30人)	2	28	30点	36点 (36人)	1	37点	250点 (250人)	
写 真	301点 (178人)	1	3	1	1	0	89	95点 (79人)	8点 (8人)	2	6	8点	12点 (12人)		12点	115点 (99人)	
工 芸	陶 芸	74点 (56人)	1	2	1	1	0	46	51点 (45人)	4点 (4人)	1	3	4点	12点 (12人)		12点	67点 (61人)
	漆 芸	8点 (7人)	0	1	1	1	0	5	8点 (7人)	3点 (3人)	1	2	3点	8点 (7人)		8点	19点 (17人)
	染 色	15点 (15人)	0	1	1	1	0	12	15点 (15人)	1点 (1人)	1	0	1点	5点 (5人)		5点	21点 (21人)
	織 物	26点 (24人)	1	2	1	1	0	19	24点 (22人)	3点 (3人)	1	2	3点	11点 (11人)		11点	38点 (36人)
	ガラス	40点 (32人)	1	2	1	1	0	33	38点 (30人)	2点 (2人)	1	1	2点	4点 (3人)		4点	44点 (35人)
	木工芸	11点 (10人)	1	3	1	1	0	4	10点 (9人)	0点 (0人)	0	0	0点	2点 (2人)		2点	12点 (11人)
合 計	1017点 (847人)	9	28	12	12	3	520	584点 (546人)	82点 (78人)	14	68	82点	157点 (152人)	2	159点	825点 (778人)	

第 67 回「沖展」の日程

■会 期:2015年3月21日(土)～4月5日(日)午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)※最終日は入場は午後5時まで

■会 場:浦添市民体育館

●開会式 3月21日(土) 午前9時30分 浦添市民体育館入り口

●表彰式 3月22日(日) 午後4時30分 浦添市てだこホール大ホール

●合同祝賀会 3月22日(日) 午後6時00分 浦添市てだこホール市民交流室

●閉会式 4月 5日(日) 午後6時00分 浦添市民体育館1階沖展事務局

第 38 回「沖展」うるま市選抜展

■会 期:2015年4月9日(木)～4月15日(水)午前10時～午後6時

■会 場:うるま市具志川総合体育館(入場無料)

第67回「沖展」併催イベント

日 程		作品解説会 場所:浦添市民体育館 展示会場内	併催事業 場所:体育館下の階ロビー・屋外イベント会場・浦添市てだこホール	
3月21日	(土)			
3月22日	(日)	【漆芸】午前11時 【陶芸】午後1時 【織物】午後2時	■第67回「沖展」表彰式・合同祝賀会 16:30～浦添市てだこホール(大ホール・市民交流室)	『沖縄タイムス出版物販売』
3月23日	(月)			『沖展会員作品チャリティー販売』
3月24日	(火)			■期間:3/21(土)～4/5(日)
3月25日	(水)	【写真】午後2時		■会場:体育館特設会場
3月26日	(木)	【絵画】午後1時 【版画】午後2時		
3月27日	(金)			『浦添物産展』
3月28日	(土)	【木工芸】午後1時 【グラフィックデザイン】午後2時		■期間:3/21(土)～3/29(日)
3月29日	(日)	【染色】午前11時 【彫刻】午後1時	■「陶芸教室(ろくろ体験・面シーサーづくり)」 14:00～16:00 屋外イベント会場	■会場:体育館1階ロビー
3月30日	(月)			
3月31日	(火)			
4月1日	(水)	【写真】午後2時		
4月2日	(木)			
4月3日	(金)			
4月4日	(土)			
4月5日	(日)			

(注)上記日程は都合により変更場合があります。「屋外イベント」は荒天時には中止する場合があります。

FOR YOUR HAPPY TIME

Orion

FOR YOUR HAPPY TIME



Orion

ORION DRAFT BEER'S CLEAR MILD TASTE IS
WIDELY LOVED AS AN OKINAWAN ORIGINAL.

DRAFT BEER



沖縄には沖縄の
ビールがある。

ORION DRAFT BEER



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。オリオンビール株式会社
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。あきかんはリサイクル

沖縄教育出版は、第67回『沖展』を応援いたします。

e-no



イーノ
クレンジング水

紫外線の強い
沖縄だから
生まれた真粧品



イーノ
プレミアム ローション

ちゃ〜げんき

究極の発酵食品「玄米酵素」



国産玄米 有機・特別栽培

+

沖縄県産素材



黒麹もろみ末



パパイヤエキス

 沖縄教育出版

真粧品事業部 e-no
TEL:0120-430-960

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 1-2-24
TEL:098-866-4779 FAX:098-867-6677
営業時間 午前 9:00～午後 8:45 (日曜は休館)

健康食品事業部 ちゃ〜げんき
TEL:0120-430-890

沖縄の暮らしと共に50余年 株式会社 大川



大川家具
グループ

OH
KA
WA

家具とインテリアの大型専門店
THE GRACE

maxplus
HOME FURNISHINGS STORE

アウトレット家具の
TODAY O!K

不要になった家具を安く高く売っちゃおう
中古家具代行販売



元「家具のO!K」の場所、沖縄市泡瀬 国道329号沿い



食べるだけの健康方法。
金芽米 守礼
無洗米



沖縄食糧株式会社

沖縄食糧

検索



6つのホテルで
それぞれの過ごし方…
かりゆしホテルズは、
最高のおもてなしで
皆様をお迎えします。

-宿泊予約-
リザーベーション
センター沖縄
月~土 9:30~18:00
098-868-2161



SPA RESORT EXES
〒904-0401 沖縄県恩納村名嘉真ヤーシ原2592-40
TEL 098-967-5000 (代)

OKINAWA
BEACH RESORT OCEAN SPA
KARIYUSHI



沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ
〒904-0401 沖縄県恩納村名嘉真ヤーシ原2591-1
TEL 098-967-8731 (代)

OKINAWA
URBAN RESORT NAHA
KARIYUSHI



沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
〒900-0016 沖縄県那覇市前島3-25-1
TEL 098-860-2111 (代)

OKINAWA
RYUKYU HOTEL NAHA
KARIYUSHI



沖縄かりゆし琉球ホテル・ナハ
〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1-11-5
TEL 098-866-0786 (代)

OKINAWA
HOTEL ISHIGAKIJIMA
CLUB
KARIYUSHI



かりゆし倶楽部ホテル石垣島
〒907-0243 沖縄県石垣島宮良923-1
TEL 0980-86-8001 (代)



KARIYUSHI LCH.Izumizaki 県庁前
〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1-11-8
TEL 098-866-1200 (代)

目 次

絵画部門	8
版画部門	26
彫刻部門	33
グラフィックデザイン部門	41
書道部門	51
写真部門	78
工芸部門（陶芸）	91
工芸部門（漆芸）	101
工芸部門（染色）	107
工芸部門（織物）	112
工芸部門（ガラス）	120
工芸部門（木工芸）	126
物故会員・略歴	132
沖展のあゆみ	133
会員・準会員名簿	151
沖展会則	156
広告	

※会員、準会員、入賞、入選氏名は 50 音順。

絵画部門

総評一与久田 健一（会員）

今回の一般応募点数は163点、準会員応募点数は16点。まずは一般応募者の作品から審査に入る。作者が仕上げるまでに要した時間、そのプロセスの中でのいろんな思い、人的、物的環境等、いろんなことが審査する側にも伝わってくる。

作品ジャンルとしては、具象、抽象、コンテンポラリーアート等、絵の具も油彩、水彩、アクリル、鉛筆、水墨等多彩であった。それらの内入賞した数点からはじめに講評する。

沖展賞・北山さんの「2014」は、鮮やかな色彩がうまく響き合い画面構成も大胆でメリハリがあり心地よい。赤、青、黄緑の明度差が絶妙にハモっている。

奨励賞・砂川さんの「欲望埋海」は、燃えるような鮮やかな色彩と重厚なマチエールに特徴がある。この作品もその独特な表現を生かし沖縄の今を見事に描いている。同じく奨励賞・小波津健さんの「アルバイシン（スペイン）」は、小波津さんの優れた技法と感性で描きあげ、特に街並みの色や形に個性が光っている。独特な画面構成と筆触も力強くユニークである。

準会員賞・宮里昌信さんの「ムイヌシー（森の精）」は、宮里さん独自の紙を溶かした素材による作品である。微妙に変化する色彩とテクスチャーが醸し出す雰囲気は見る人を暫し惹きつけるものがある。

審査して毎年思うことだが、沖展は入選すること自体が他の公募展に比べ厳しいものがあるように思う。今回も僅かな差で入選入賞を逸した作品があった。悔しさをバネにして来年も頑張っ

会員作品

涼	赤	嶺	正	則
世果報	安	次	富	長
Traces	池	原	優	子
祝福される三世代の家族(3)	稲	嶺	成	祚
アーマン世(太古)	ウ	エ	チ	ヒ
「古宇利」	浦	崎	彦	志
響	浦	添		健
火の鳥	大	城		讓
風景の中で	大	浜	英	治
赤い地平線 15 - 80	喜	久	村	徳
カンカーまつりとアブシバレー	喜	友	名	朝
マルセイユ	金	城		進
喧嘩天国	金	城	幸	也
翔（しょう）	具	志	恒	勇
浸食	具	志	堅	誓
潮流のラビリンス	佐	久	本	伸
相	佐	久	本	米
時間と空間(立体と平面のコラボ)	城	間	喜	宏
追憶「うむい」	新	垣	正	一
緑雨	砂	川	喜	代
南風の記憶 2015	高	島	彦	志
Wind scape	知	念	秀	幸
回帰	鎮	西	公	子
常しえの住処を探す	当	山		進
「証明写真」	中	島	イ	ソ
景(15)	比	嘉	武	史
青い目の女たち	比	嘉	良	二
丘の街、夕景	安	元	賢	治
インサイドアウト	山	内	盛	博
ジュゴンの海・アーサの頃	屋	良	朝	春
無何有の郷を考える	与	久	田	健

準会員賞

インド世界遺産の石窟寺院	伊	波	則	雄
ムイヌシー（森の精）	宮	里	昌	信

準会員作品

寒日（II）	赤	嶺	広	和
娘たちの団らん	伊	川	は	る
風のある島へ「良く来たね!いらっやい」	岸	本	ノ	ブ
白鳥	新	城	弘	市
ヌーナタルムンガ	知	念	盛	一
あがたぬくがた	仲	松	清	隆
割り切れない点～秩序から無秩序へ～	並	里	幸	太
回帰	橋	本	弘	徳
草木の譜	平	川	宗	信
島の風	松	田	盛	吉
なかよし	宮	里	昌	健

HAZAMA——山 川 さやか
こく——山 城 政 子
HARATORI——山 田 武

沖展賞

2014——北 山 千雅子

奨励賞

想い(365日)——金 城 恵美子
アルバイシ(スペイン)——小波津 健
欲望埋海——砂 川 恵 光

浦添市長賞

虫たちのプレリウド 2015——喜屋武 信 子

うるま市長賞

伝・巡——仲 程 悦 子

一般入選作品

浚渫船——赤 嶺 慎 次
初夏——赤 嶺 美代子
泊港——東 光 二
後戻りできない創造物——新 垣 龍 子
望——伊 藝 勝 絵
春の嵐——伊 芸 匠 志
慟哭の島Ⅱ——池 原 菊 江
石缸(いしばし)——石 川 哲 子
陽春——石 川 豊 子
呼応——石 原 美智子
すずらん——稲 富 民 子
The rainy day of shuri——今 村 紀 子
調べに集うバレリーナたち——伊 禮 青 勝
波濤(冬)——伊 禮 芙紗子
刻印(engraved mark)——上 田 達 大
豊海——上 原 成 美
記憶の風景 2015——上 原 はま子
異次元の怪しい曼珠沙華——大 倉 頼 子
炎舞——大 城 勝 美
老い逝く時——大 城 信 利
階段のある風景——大 城 春 信
瀑布・ナイアガラ——大 城 喜 満
浜木綿——奥 浦 光 子
「刻」とき——親 川 浩
里の小径——親 泊 光 子
兆Ⅱ——我 謝 弘 行
木麻黄のある風景——我那覇 絹 子
2014の舞香花——我 部 よしみ

作業船溜り(浦添埠頭)——亀 浜 勇 吉
私のいもうと——華 山 聖 作
Kibou——宜 保 朝 子
遺る(のこる)——金 城 清 子
千鶴(センカク)——金 城 節 子
廃船・ひとつの面——金 城 英 男
緑の山羊——釘 本 成 行
霧の森——具 志 喜 三
歌——具 志 堅 古 秀
enishi——源 河 秀 美
魂のいぶき——小橋川 邦 子
穏やかな一日——崎 原 ミツ子
辺野古の怒る地層——座 覇 政 秀
五本の赤い杭——サンリー・ ヨンツォー
潮騒——重 田 照 吉
Black wind——島 袋 孝 勇
冬の岬——下 地 正 宏
午後のひととき——下 地 りえこ
内なる声——城 間 幸 子
いにしへの散歩道——砂 川 秀 勝
浜千鳥——添 石 良 健
晃輝——平 良 江美子
水路——高 江 洲 陽 子
彩憶 2015 - No4——高 野 生 優
ファンタジー——嵩 原 武 子
つなぎあう力——玉 城 久美子
珊瑚礁——玉 城 照 政
消えない記憶——玉 木 義 勝
壁の詩——玉 寄 貞 子
岩礁から見える風景——知 念 賢 祐
蒴葱の包容——知 花 竜 也
農みち、キャベツ畑の有る眺め——津波古 政 廣
500 LACANS——鶴 見 伸 弘
蒼紋——當 山 武 弘
ミットナイトブルー——渡 久 地 美智子
紅芙蓉——富 村 千賀子
礎(Ⅲ)——豊 元 節 子
つながる 15 - うたかた——仲 座 包 子
アヤミ・ハヴィル——仲 宗 根 市 子
水走る——仲 宗 根 勇 吉
五色沼——名 嘉 地 タカエ
島の夏——仲 間 英 子
道は、子供の遊び場所——仲 本 潤一郎
未来に残したい沖縄遺産——西 平 賀 雄 二
岬の引潮——根 路 銘 恵
ひととき——比 嘉 政 榮
new town——比 嘉 孝 博
樹Ⅲ——比 嘉 博

出番を前に——富 名 腰 進
夏の訪れ——古 堅 久 子
煌世命——ほ の あかり
華——真 栄 田 茂 子
天照——真 喜 屋 武
『樹』——真 志 喜 幸 子
廻り生く——又 吉 園 子
たゆたふ——松 ゆき子
黙——松 田 利 男
レッドジンジャー——宮 城 貴 子
伊集の花さくふるさと——宮 城 紀 男
碎石場(E)——宮 城 弘 弘
シブイ畑——宮 城 良 真
私のメルヘンから・・・PART65——宮 里 ユキ子
ストラスブールの街から——宮 良 修
ちんだみ——山 城 道 子
盛夏——山 城 光 子
「トンネルを抜けたら」——與 那 覇 勉

特別展示

かたぶい——奥 原 崇 典



常しえの住処を探す (130.3×193.9) 当山 進 (会員)



回帰 (200×200) 鎮西 公子 (会員)



喧嘩天国 (180×180) 金城 幸也 (会員)



南風の記憶 2015 (120×120) 高島 彦志 (会員)



赤い地平線 15 - 80 (110×143) 喜久村 徳男 (会員)



カンカーまつりとアブシバレー (180×123)
喜友名 朝紀 (会員)



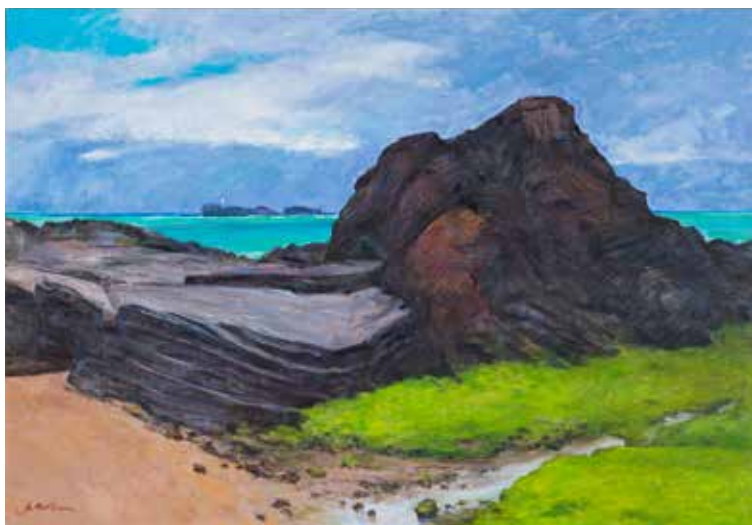
浸食 (115×148) 具志堅 誓謹 (会員)



青い目の女たち (210×210) 比嘉 良二 (会員)



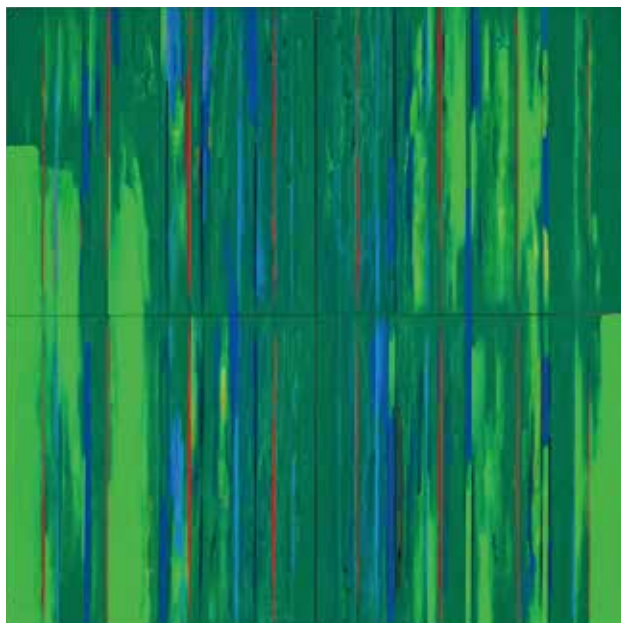
相 (196.5×164.5) 佐久本 米子 (会員)



ジュゴンの海・アーサの頃 (132×162) 屋良 朝春 (会員)



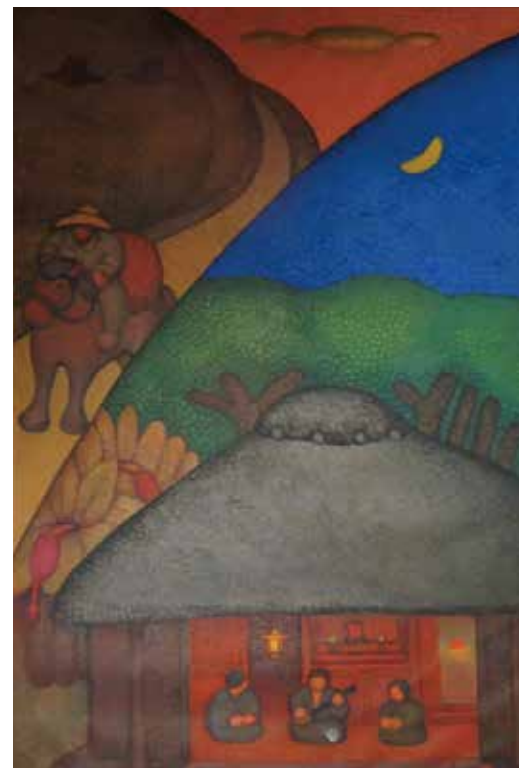
インサイドアウト (130×184×50) 山内 盛博 (会員)



緑雨 (182×182) 砂川 喜代 (会員)



「古宇利」(130×162) 浦崎 彦志 (会員)



追憶「うむい」(200×145)
新垣 正一 (会員)



潮流のラビリンス (162×130) 佐久本 伸光 (会員)



祝福される三世代の家族 (3) (130×160)
稲嶺 成祚 (会員)



マルセイユ (146×210) 金城 進 (会員)



「証明写真」 (174×142) 中島 イソ子 (会員)



涼 (148×180) 赤嶺 正則 (会員)



風景の中で (90×150) 大浜 英治 (会員)



アーマン世 (太古) (135×162) ウエチ ヒロ (会員)



色彩は褐色系を主調とし確かな描写力と冴えたタッチによって密度のこい作品になっている。明るい色は施していないが、寺院内部は暗くないし適当な明るさを保ちどっしりとした作品に敬服する。

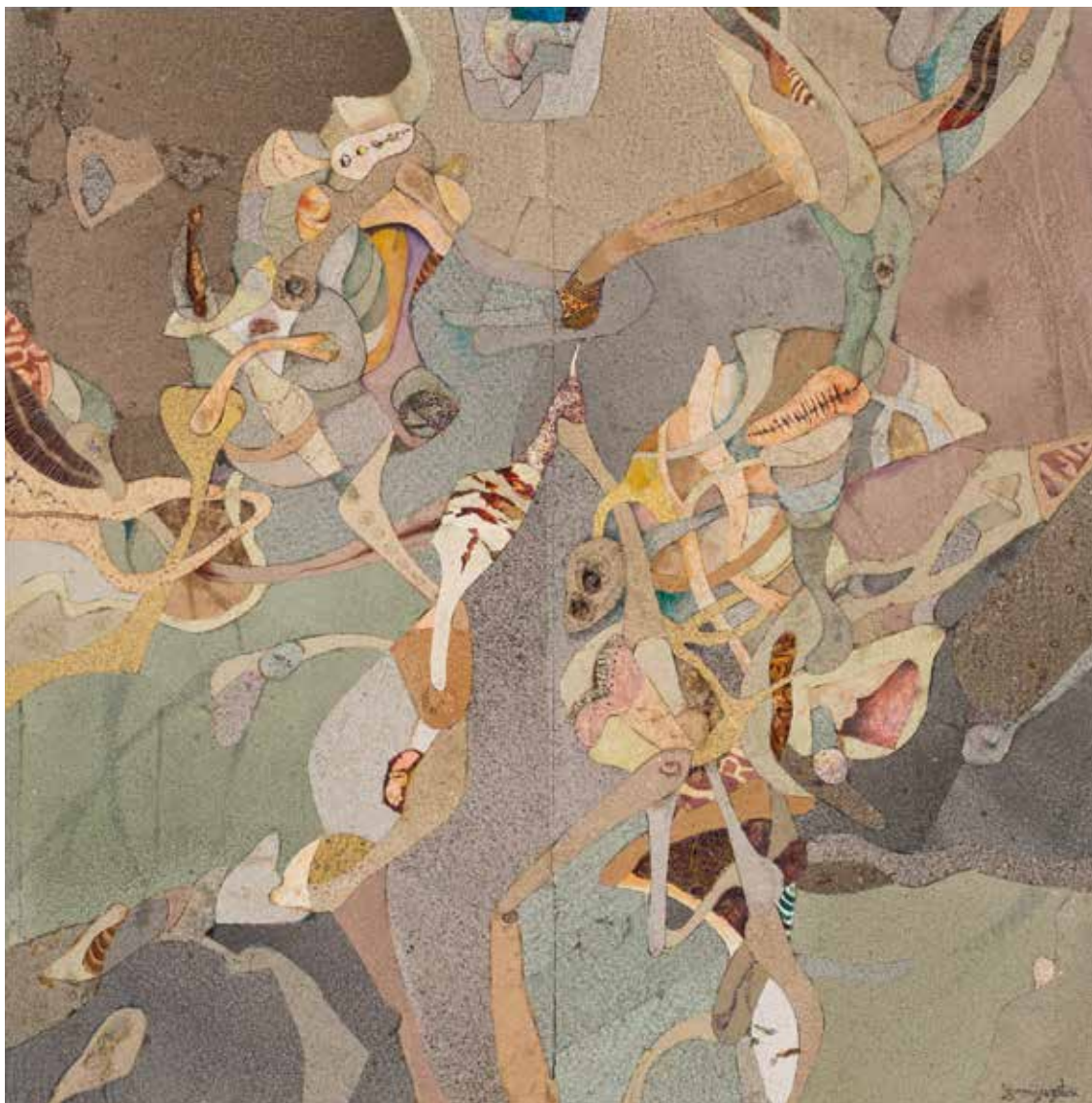
太い大きな柱は整然としてフォルムを強調して重厚な塗りで効果を出し屋外からのやわらかな光線が差し込み鮮度のある作品にしている。作品全体から受ける感じは、かすかな陰影の変化を表現し、太古の響きがあり生命の存在感が感じられる。技法としてグラシ（透明な絵の具をかけて下の色の重なりで色調をつくる）して、色調が冴えて画面を整えている。また大きな画面から細部に至るまで丹念に精密に描き作品全体をうまくまとめあげている。

伊波氏は2013年・2014年に沖展賞を連続受賞し、さらに今回は準会員賞を受賞するという榮譽に輝いた。その実績を大いにたたえたい。

評—浦添 健（会員）

準会員賞

ムイヌシー（森の精）（183×183）宮里 昌信（準会員）



「様式は芸術の表層（皮層）的特徴であるどころか、認識の最も深い基盤である。画家などは、自らの独創の様式（美）を勝ち取るために苦労している」と著名な評論家が言っている。

宮里昌信さんは沖展賞を二年連続で受賞し、一年おいて、二年連続して準会員賞を取り、今年会員に推挙された。近年、希にみる最速の快挙は目を見張るものがある。2011年に転機がおとずれたようだ。素材の紙を水で溶かし、凝固させながら、あたかもセメント壁面のような独特のマチェールに線を刻み、グレーの色調をベースに微妙な色彩をもつ得体の知れないアメーバ的形態の物質を描いている。饒舌な画面のパターンは今回の作品まで五年を経ながら進化してきた。昌信さんは独創の様式を勝ち取ったのである。今、最も脂が乗っている力量のある認識の深い作家であることは間違いない。

これから沖展の指導者として、共に若い才能ある作家を育てていこうではないか。

評—城間 喜宏（会員）



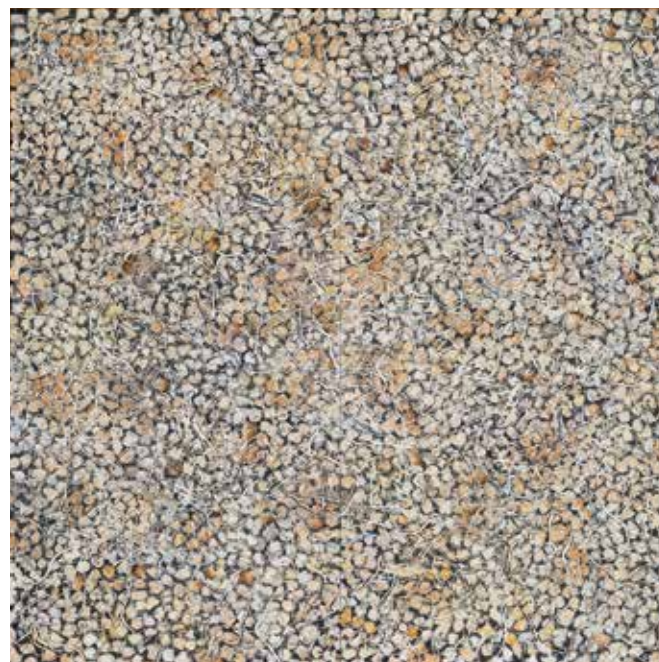
割り切れない点 ~秩序から無秩序へ~ (210×210)
並里 幸太 (準会員)



あがたぬくがた (199×167) 仲松 清隆 (準会員)



寒日 (II) (176×208) 赤嶺 広和 (準会員)



草木の譜 (185×185) 平川 宗信 (準会員)



ヌーナタルムンガ (167×191) 知念 盛一 (準会員)



こく (195×163) 山城 政子 (準会員)



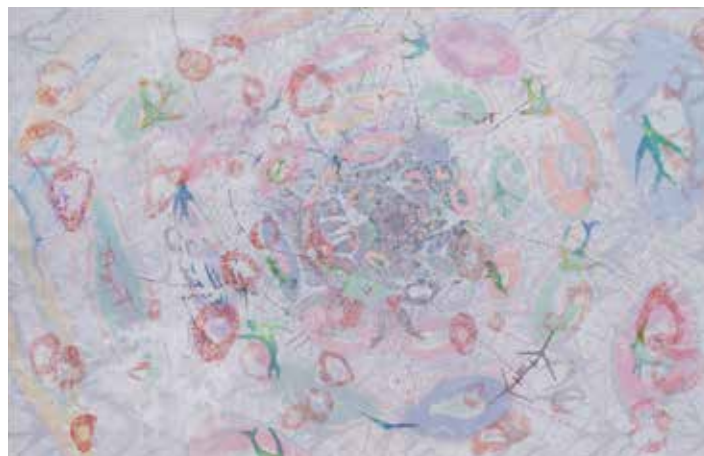
白鳥 (62×77) 新城 弘市郎 (準会員)



なかよし (196×164) 宮里 昌健 (準会員)



娘たちの団らん (130×162) 伊川 はるよし (準会員)



HAZAMA (128×196) 山川 さやか (準会員)



回帰 (130×162) 橋本 弘徳 (準会員)



HARATORI (167×210) 山田 武 (準会員)



島の風 (189×203) 松田 盛吉 (準会員)



風のある島へ
「良く来たね！いらっしゃい」
(187×95)
岸本 ノブヨ (準会員)

沖展賞

2014 (196×162) 北山 千雅子



北山さんの作品はインパクトを与えるものがあり印象に残った。
象徴的な赤い透明な有機体が画面の無機質な物体を覆いかぶさるように流動しうごめく様は、作者の深層の世界を暗示しているように見える。
今回の作品で特筆すべきは従来のモノクロ調の表現からの脱皮であろう。象徴的な赤、青、黄の色と形のせめぎあいには緊張感を孕み、時間と空間の広がり の獲得に成功している。そこには作者の内的象徴の表現の世界があり、存在感のある作品となった。
今後とも新たな表現の世界へ向けて活躍されることを期待したい。

評—大浜 英治（会員）



奨励賞

想い (365日) (184×186) 金城 恵美子

一見絵のタイトルと描かれた画面がかみ合っていないように思った。「想い」とは心の内面の有機的なものをイメージするが、描かれた画面からは無機的または即物的なものが見えてくるからである。しかし(365日)という数字に着目したとき、作者にはこの一年にかけ「想い」を目の前の作品として結実させたいという強い意志があり「想い (365日)」というタイトルを使ったのだと考え納得した。

画面は直線と曲線そして素材の特性を生かしたアンフォルムな形が錯綜し複雑に入り組んだ構図になっている。今にも崩壊しそうな画面を支えているのはモノトーンの色彩である。多様な素材と技法は消化の途中で提示された感もありまとめるのに苦労しているようにも見えるが破綻寸前の緊張感がこの作品の魅力とも言えるだろう。

タイトルと画面との齟齬、そして画面自体の不協和音は400年来虐げられ、我々の主体性に刻印、積層されてきた歴史に感応した証のようだ。

評—山内 盛博 (会員)

奨励賞

欲望埋海 (186×188)
砂川 恵光

いつもユニークで個性的な力作を、沖展に出品していただき、ありがとう。詩的で難解な題名がいつもついてるのだが、自分はこの作品をみて、ヒエロニムス・ボッシュの「悦楽の園」という作品や、ピーター・ブリューゲルの「狂女グリート」等の作品を思い出した。古典のクラシックが現代的な解釈を受けてロック調、ポップ調に再生したイメージを受けた。卵があつたり、骸骨や手榴弾らしきもの、またひびわれた筒のようなものは作者のこだわりがあるのだろう。おそらく「怨念」「怒り」「反戦」といったところが本人の重要なテーマだろうが、自分はむしろ「誕生」「死」「再生」といった言葉が画面から湧き出してくるのを感じる。その大きな情熱と勇気はわれわれ出品者にとっても大きな励ましでもある。重要なマチエールと高い集中力で支えられたこの作品。いい絵だと思う。

評—金城 幸也 (会員)





奨励賞

アルバイシン (スペイン) (182×153)

小波津 健

俯瞰的視点でとらえた中世の名残を留める家並。この作品の絵画造形としての成功要因は何よりも、制作初期構成における風景の切り取りの度合と、縦長画面への組み入れの、思い切りのよさにあろう。

加えて、赤褐色の屋根の連なりや、軒や窓のうちそとの陰影がかもす視覚的リズム感。その隙間を縦に貫く路地の深い空間性と、暗色による線的構成の効果。さらに、白壁の光の当て（選び取り）具合の絶妙さが、同系色画面をより引きしめて輝かせる。

具象抽象を問わず推された30点余の賞候補作品の中でも、終始存在感を示していた本作品。風景を絵画素材としながら、力強い造形構築へと変換し成り立たせたインパクトある作品に、久々に触れた思いがある。

浅い入選歴のうえの急速な到達。それがフロックとならぬためにも、その旺盛な探究心を今後もゆるめず、制作し続けることを希望し、期待と受賞への贅辞としたい。

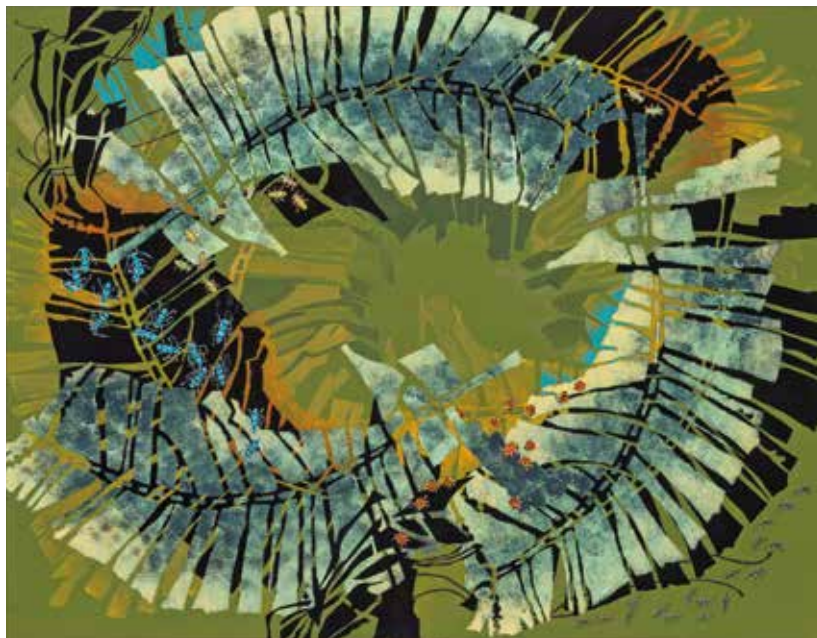
評—大城 譲（会員）

浦添市長賞

虫たちのプレリュード 2015 (119×152)

喜屋武 信子

大作の多い受賞作品の中で控えめながら存在感のある作品。7回目の出品で初受賞おめでとう。芭蕉の「葉」を題材にしながら芭蕉の葉の描写に終わらないところを評価したい。芭蕉の葉の様相を探り、咀嚼、自問し、対話する。染み出るアート性を背に、葛藤、迷いの時空世界から喜屋武信子の創作スタンス（姿勢）が伝わってくる。葉の裂け目を幾重にも重ね画面の収まり具合が絵を大きく見せる。リズムカルにデフォルメ（変形）された円状の流れも心地いい。その隙間から夏風の感触すら聞こえてくる。全体に色調もいい。バックのダークグリーンが全体を落ち着かせ黒い葉が引き締めている。黒の裂け目から暖色系の切れ葉のチラツキ具合は生命感を強くしてくれた。精深にして生あり。期待したい。一言「虫にコダワリがあるのか、虫の扱いに要注意。過ぎると虫に食われてしまう」



評—喜久村 徳男（会員）



うるま市長賞

伝・巡 (193×190)

仲程 悦子

心象性の強い、イメージで構成された空間が広がる。

作品のベースは、黒からグレーに至るトーンのフォルムが水墨画のようで画面を魅了する。表面は、活き活きと伸びやかなドローイングが、視覚的世界を描きながら聴覚的なイメージをもつ不思議な感性を紡いでいる。

現代アートのテーマのひとつに「様式の変革と改革」があるが、空間の広がりや線を生かした彩式によるドローイングは、あらゆる層の人々へメッセージを伝えるコンセプトをもつ。①変わり続ける②あらゆるものと関係を結ぶ③永遠に続くことである。

仲程さんの受賞作品には、見る側の、その人なりに解釈できる問いかけがあり、それを発見する楽しみがある。一人一人が違う楽しみかたができること。大胆な表現とデリケートな感性は、現代アートの作品として強く発信してくる。

彩色されたドローイングは共鳴し、その形成された色彩からは音楽的な感興さえ覚え、柔らかな表情の線だが求心力があり見入ってしまう。

次の展開が注目される作家である。

評—知念 秀幸（会員）

版画部門

総評—比嘉 良徳（会員）

今回の版画部門の一般の応募点数は21点で、昨年より6点の増である。審査会場には木版画や石膏版画、シルクスクリーン、デジタルプリント等多様な技法の作品が出品された。中には絵画や写真に属するのではないと思われる特異な作品もあったが、今回はシルクスクリーンの出品が6点と多かった。

審査は過半数以上の挙手で入選や各賞が決定された。その結果、奨励賞には池城安武さんの赤と黒を明快に使用した「やいまどうんち」と、大城有紀子さんの花模様が配された落ち着いた色調の「ボタニカル」のシルクスクリーン2点が決まった。

準会員応募6点から準会員賞には座間味良吉さんの「慈愛」（木版画）が決まった。座間味さんは、長年家族をテーマに釘打ち技法で制作を続けてきた。今回も計算された構図に親子像が巧みに構成され、限定した色で落ち着いた独自の作風に仕上げている。そこに、創作活動に対する作者のゆるぎない姿勢を垣間見ることができる。

残念なことに今回も多く多くの支持を得るような独創的な作品がなく、沖展賞の該当者は出なかったが、次回の奮闘を大いに期待したい。

また、毎回指摘されることではあるが紙質や額装、サイン等にも気を配りたいものである。

多種多様な作品に対峙し、我々審査員も切磋琢磨、自己研鑽を積みながら、審査に臨まなければならない。気を引き締めて、次回の出品作品を楽しみに待ちたい。

会員作品

COLOR- 赤の記憶—— 赤 嶺 雅
シーサー—— 新 崎 竜 哉
「時のいろ」—— 大 久 保 彰
心景—— 神 山 泰 治
花火—— 友 利 直
形象—— 仲 元 清 輝
景象'15 - C - 2—— 比 嘉 良 徳
2015 - 1—— 前 田 栄

準会員賞

慈愛—— 座間味 良 吉

準会員作品

カルストの杜—— 新屋敷 孝 雄
アコックロウ—— 仲 本 和 子
スイミング—— 保志門 繁
秋—— 保志門 繁
球技—— 保志門 繁

奨励賞

やいまどうんち—— 池 城 安 武
ボタニカル—— 大 城 有 紀 子

浦添市長賞

Window Scenery (ウィンドウシナリ)—— 比 嘉 れもん

うるま市長賞

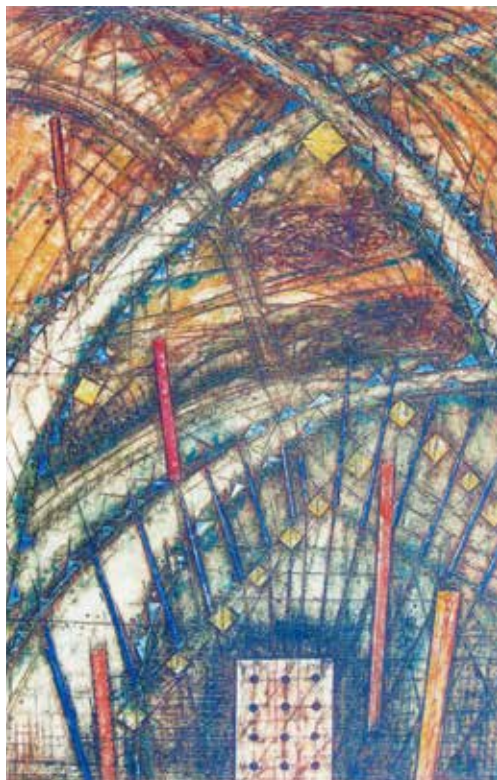
監視—あなたは見てる、あなたは見られて— 座喜味 盛 亮

沖縄教育出版賞

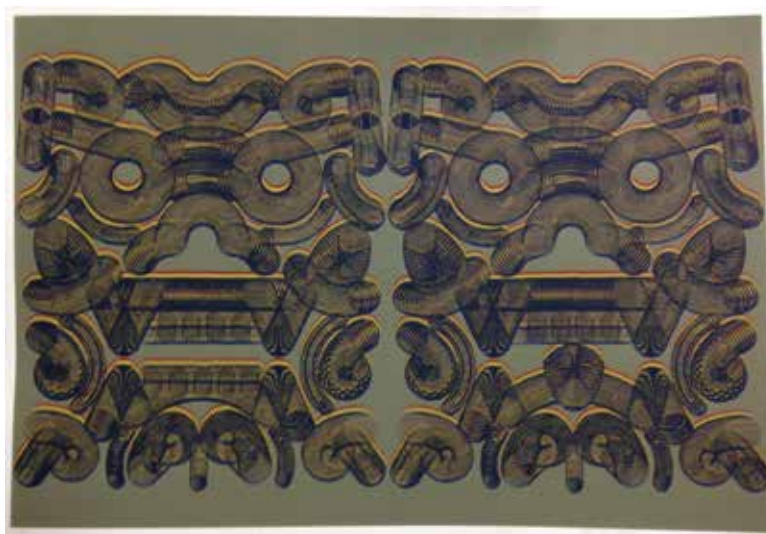
Lessen one two three—— 金 城 由季乃

一般入選作品

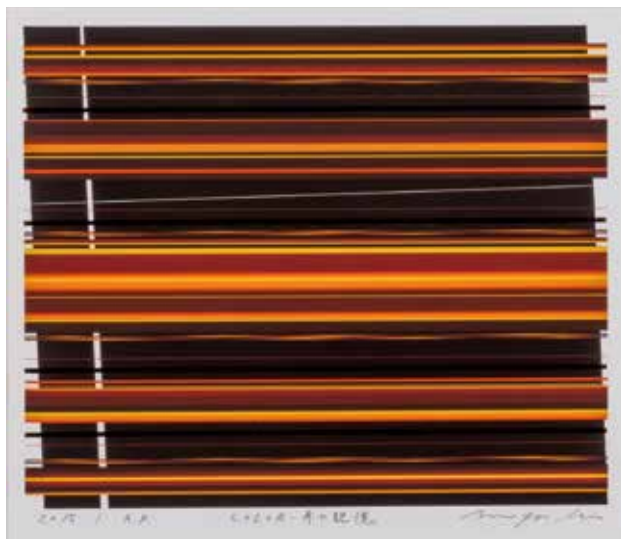
「Ryukyu Soul」—— 大 山 朝 之
1945 OKINAWA—— 川 平 勝 也
殺処分ゼロ！ 犬は家族—— 島 澤 喜 芳
Landscape 島の時間—— 平 川 良 栄
うたたね—— 松 嶋 玲 奈
遺跡—— 座 覇 政 秀
河口浅春—— 久 場 貫 夫



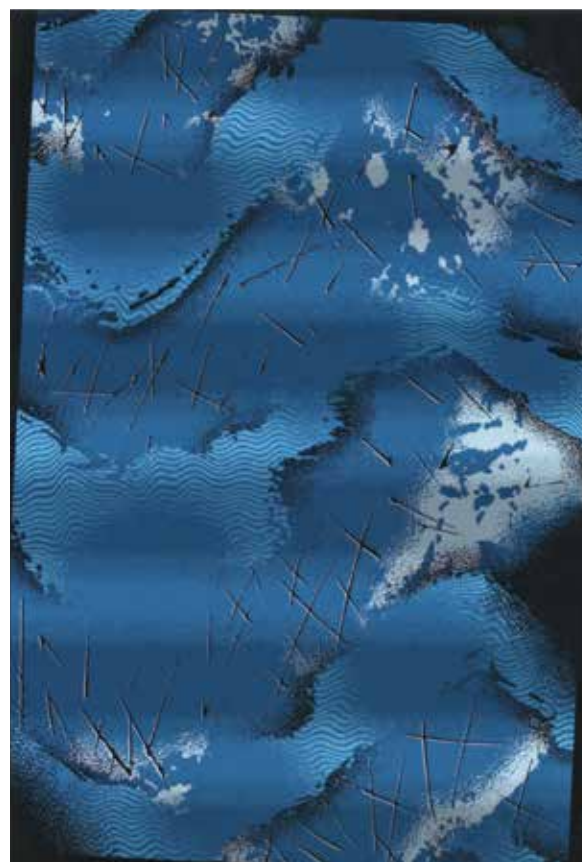
景象 '15 - C - 2 (90×58)
比嘉 良徳 (会員)



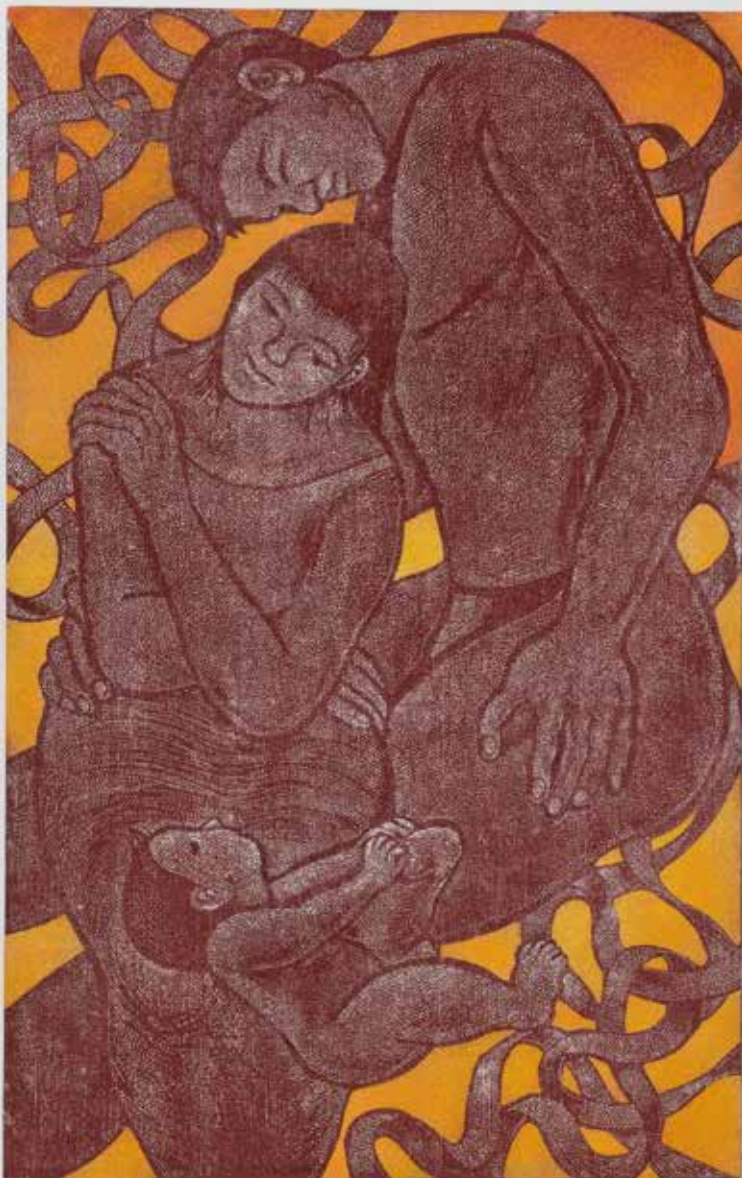
シーサー (61×89) 新崎 竜哉 (会員)



COLOR- 赤の記憶 (27.3×34.5) 赤嶺 雅 (会員)



「時のいろ」(70×47) 大久保 彰 (会員)



準会員賞

慈愛 (95×60)

座間味 良吉 (準会員)

座間味良吉さんは、木版で釘彫りによる表現技法を駆使して制作をし、沖展で数々の賞を受けてきた。今回の作品もその技法を踏襲している。作者が長年取り組んでいるテーマは「人間愛」「命の尊さ」等の人の心情を画面に表出させた一連の作である。この「慈愛」の作品は、人体の組みポーズによって構成され、複雑に絡まった帯状の物体が三次元的に表現されている。特に成人の男女と子供との三人の配置に工夫がなされ、それぞれのポーズは実にリアリティーがあり、登場させた人間の個々の感情をも伝えている。またグラデーションによるバックに人物像の輪郭線が力強く、そしてリズムカルに処理され、質感、量感が強調されている。密度が高く画面に動きを持たせたインパクトのある秀作である。

一昨年準会員賞を受賞し、今年再度の受賞で会員に推挙された。誠にうれしい限りである。独自の表現で木版画に真摯に取り組む姿勢に脱帽する。

今後の活躍を大いに期待したい。

評一神山 泰治 (会員)



アコウクロウ (100×63)
仲本 和子 (準会員)



秋 (79×61.4) 保志門 繁 (準会員)



カルストの杜 (65×130) 新屋敷 孝雄 (準会員)



奨励賞

ボタニカル (80×80) 大城 有紀子

春の息吹きを感じる作品である。さわやかな色調がよどみない、こちよいい気分にくれる。

重ねた色の美しさは孔版の醍醐味で日本画、洋画では表現できない特色がある。近年、素材とアートの関りを問題視する面がある。創造的で斬新な作品は伝統や技法を重視することも必要であるが、教わるというよりも、自分で実際に経験しないと理解できない。

これから、ひとりの作家として、壁に直面したり、いろいろ苦しみ悩むことも多々ある。孔版以外の版式（平版、凸版、凹版）も体験することにより、より深い作品ができる。テキスタイルも熟知しているので、その接点において、斬新な作品を期待する。

評—仲本 清輝（会員）

奨励賞

やいまどうんち (170×90)
池城 安武

さわやかな陽光を感じさせる大らかな作品。池城安武さんは、これまで浦添市長賞・うるま市長賞を受賞しているが、今回、初の正賞である奨励賞を射止めた。技法はシルクスクリーンによるモノタイプである。

伸びやかな赤瓦の屋根に太陽を重ね合わせた構成が、この作品を成功に導いている。まるで版画の息苦しさから解放されて、技法の中に、描く手法を取り入れたようだ。鑑賞する側にストレートに伝わる優しい作品に仕上がっている。

技術的には、苦心したであろう部分がいくつか見受けられた。まず、図柄を複数版に分割したことで、刷りながら図柄を繋ぎ合わせる作業が必然的に生じ、そのしわ寄せが刷りに影響したのではないかと。色のカスレなどから受け取れた用紙、紙が使用できない大きさと、特殊のポリエステル系を代用しているのは作者が伸縮に熟知した上での選択である。大作である故の苦心が報われた。

評—大久保 彰（会員）



浦添市長賞

Window Scenery (ウィンドウ シナリー) (85×60)
比嘉 れもん

初出品での浦添市長賞おめでとう。比嘉さんの作品は孔版によるシルク印刷での大作である。受賞作の Window Scenery は全体的に配色や構図、バランスがとれたインパクトのある印象的な作品である。

バックの赤と黒の図形が目を引き、周りに幾何学的な模様とパステル色が色刷りされ、版表現の楽しさと、リズム感のある作品に仕上がっている。

版表現として、6版11色の版色の重なりでのベタ面が、画面いっぱいに広がり図形の構成力と色の対比、コントラストがさらに効果的で、色彩感覚がある。

印刷では版移動によるシャドーや、グラデーションを制作の中で表現技法として生かすのもテクニックの一つである。

今後も、個性や感性を磨きながら、制作意欲を高め、継続的な制作活動を行ない完成度を上げた作品を期待する。

評—新崎 竜哉 (会員)



うるま市長賞

監視—あなたは見てる、あなたは見られてる—
(60.5×45.5) 座喜味 盛亮

版画界も、時代と共に、作品が多様多様化して、ジャンルを超えて変貌している。そんななか、座喜味さんは、一貫して、木版で頑張っている作家である。木版といえば、いまだ一般の方々は学生時代のベニヤ板をバレンでゴシゴシ刷るモノクロの作品を連想するのが大方のようだ。しかし、座喜味さんの木版でこれまでの制作概念を一変させられるものと思う。

一見赤を基調にしたようだが、近づいて見れば目と目の文字が、微細にプリントされた、巧妙な作品である。題名は「監視」さらに副題もつけられている。大変リアルに表現され作者の意図がわかりやすくなっている。画面上のシンメトリックは前回指摘されたと思うがそれがすべて悪いということではない。制作には美の要素という基本的な事があり我々はそれを乗り越えるのに苦労するものである。

座喜味さんには、すばらしい技量があり、この流れで作品に変化をつけ特に構図等工夫してはと思う。うるま市長賞おめでとう。

評—友利 直 (会員)





沖縄教育出版賞

Lessen one two three (85×60) 金城 由季乃

この作品は、孔版印刷でのスクリーンプリントの多色印刷による大作である。画面全体をブロック状に構成し、鮮やかな色彩で構成している。それは、ある音楽のリズムを奏でているかのように感じとれる。寒色と暖色をうまくまとめており、動きの中に情熱が感じられる構成にしている。このような孔版での作品は色面が重要であり、ある程度の経験や表現力がないと難しい。作者は大胆ではあるが緻密にレイアウトし、グラデーションなどスクリーンプリントの特徴を活かした作品にしている。ただ、少し単調にも思える。今回の作品をより良くするには、構図的に広がりや動きを表現し、全面に配置するのではなく余白の取り入れなど、窮屈な画面を工夫をする事により完成度が向上すると考える。若い学生ではあるが、表現力と技術力にさらなる期待をしたい。

評—赤嶺 雅（会員）

彫刻部門

総評一西村 貞雄（会員）

第67回沖展彫刻部の一般応募作品点数は、昨年より7点少なく20点であるが、作風や素材は多様化の傾向がある。

今回は3D プリンター出力作品があったが、小品で既存の製品ともとれるもので著作権に関わる問題があった。創作した作品であればよいが、小物で模造的なものもあり、箱庭を連想し彫刻という範疇から逸脱したものもあった。何を意図しているのかコンセプトが伝わることも必要と感じた。また、大型の作品には全体と部分との関係に一工夫すれば、効果が出たのもあったが統一感に乏しい面が見られた。

受賞した各作品はそれぞれ主張が感じ取れた。沖展賞を受賞した伊志嶺達雄さんは陶芸家であり、造形性とメッセージを生かした作品で存在感のある秀作である。奨励賞の玉城正昌さんは昨年に続き連続の受賞である。今回の受賞作は九つの輪の中から人物が飛び出そうという不思議さがあり、木彫としてユニークな作品である。大城清久さんは鉄の作品で三年間連続の受賞である。猿の表情を捉えての表現で鉄という素材を見事に活かしており、特に手足が見事である。

浦添市長賞の津波夏希さんも連続受賞であり、人体をよく把握しており西洋人の体型を見事に捉えている。この傾向の作品を受け入れるには地域的に抵抗はあると思われるが秀作である。今回は人体像としてテーマ性と大きさが功を奏している。うるま市長賞の吉田俊景さんは、一昨年の奨励賞受賞と同様のテーマで枯葉を題材にしており、造形的な要素を見事に捉えている作家である。

今回の準会員賞を受賞したのは仲里安広さんである。独自の作風であり、一貫して戦後の基地と絡めて沖縄の諸問題をテーマにしている。「ウガン 戦後70年」は過去の集大成とも捉えられる力作である。

さて、準会員の出品者は3名であるが、その中に長年音沙汰がなかった方が出品しているのは彫刻部にとってうれしいことであり、温かく迎えたい。

会員作品

2015 作品 A	上	原	隆	昭
待合せ	上	原	博	紀
命どう宝	上	原	よ	し
散歩道	喜	名	盛	勝
稲から泡盛へ	河	原	圭	佑
頭像	具	志	堅	宏
O 上人	玉	栄	広	芳
Nameless Saudade	玉	那	覇	英
南の神 2015 -風の行方-	知	念	良	智
はらむ	津	波	古	稔
軋轢	富	元	明	雄
「鼓動」	友	知	雪	江
ある予感	西	村	貞	雄
ウェーブのささやき	與	儀	清	孝

準会員賞

ウガン 戦後 70 年	仲	里	安	広
-------------	---	---	---	---

準会員作品

記憶	崎	枝	静	子
女の胸像	高	嶺	善	昇
男の首	高	嶺	善	昇

沖展賞

2015HENOKO この胸を深々と かきむしれ！	伊	志	嶺	達	雄
------------------------------	---	---	---	---	---

奨励賞

嘆いている	大	城	清	久
そこカラ、飛び出せ	玉	城	正	昌

浦添市長賞

全ての受容	津	波	夏	希
-------	---	---	---	---

うるま市長賞

路上の落葉	吉	田	俊	景
-------	---	---	---	---

一般入選作品

一触れることによって得られるー				
「量感の概念」	神	村	吉	次
河梁之吟	菊	内	宏	之助
迷いからの脱却	小	橋	川	共
オオゴマダラ	高	橋	哲	平
地球再生	豊	里	友	一
辺野古の青サンゴとジュゴン	屋	良	朝	敏
ウッチャリ	與	那	嶺	勝



ウェーブのささやき (H200×W100×D60)
與儀 清孝 (会員)



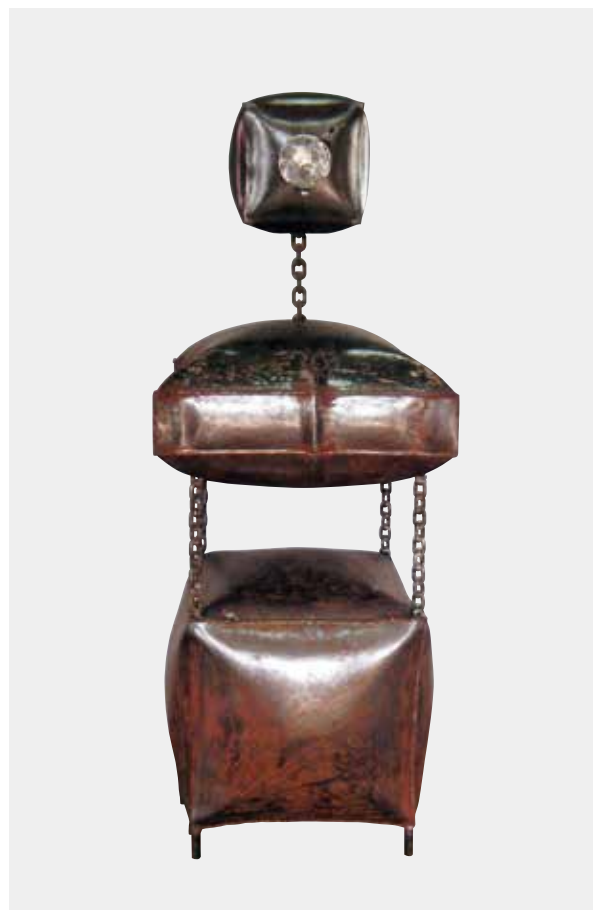
O 上人 (H43×W20×D24)
玉栄 広芳 (会員)



はらむ (H90×W50×D15)
津波古 稔 (会員)



ある予感 (H189×W71×D42) 西村 貞雄 (会員)



輶轢 (H152×W50×D50) 富元 明雄 (会員)

準会員賞

ウガン 戦後70年 (H250×W110×D110) 仲里 安広 (準会員)



沖縄には豊かな亜熱帯の自然と豊かな文化がある。われわれは、それらにより感性や創造力を刺激され、少なからず影響を受けている。

戦後70年がたった今もなお、不発弾処理のニュースは後を絶たず、沖縄の歴史は日本本土とは異なった時間を刻み続け、辺野古の新基地建設問題で揺れる昨今、戦後から打開されない閉塞感が続く。

仲里さんはここ数十年、基地を題材にウガンシリーズを制作し続けてきた。今回の受賞作品は、仲里さんのこれまで表現活動の集大成といえる力作である。合板で形づくられた香炉の周りに不発弾が配置され、不安を誘う。目の前にはフェンス越しに1945年以降、70年間の記録をのぞくことができる。そして、見上げると日常化したオスプレイの存在がブラックキューブの中にひそむ。それらは、平和への願いとは相反するモノとして存在し続ける。仲里さんは、沖縄の閉塞した現状や風景を熟練した技により造形的に表現した。今後のさらなる展開が気になる。

評一玉那覇 英人 (会員)



女の胸像 (H60×W50×D30) 高嶺 善昇 (準会員)

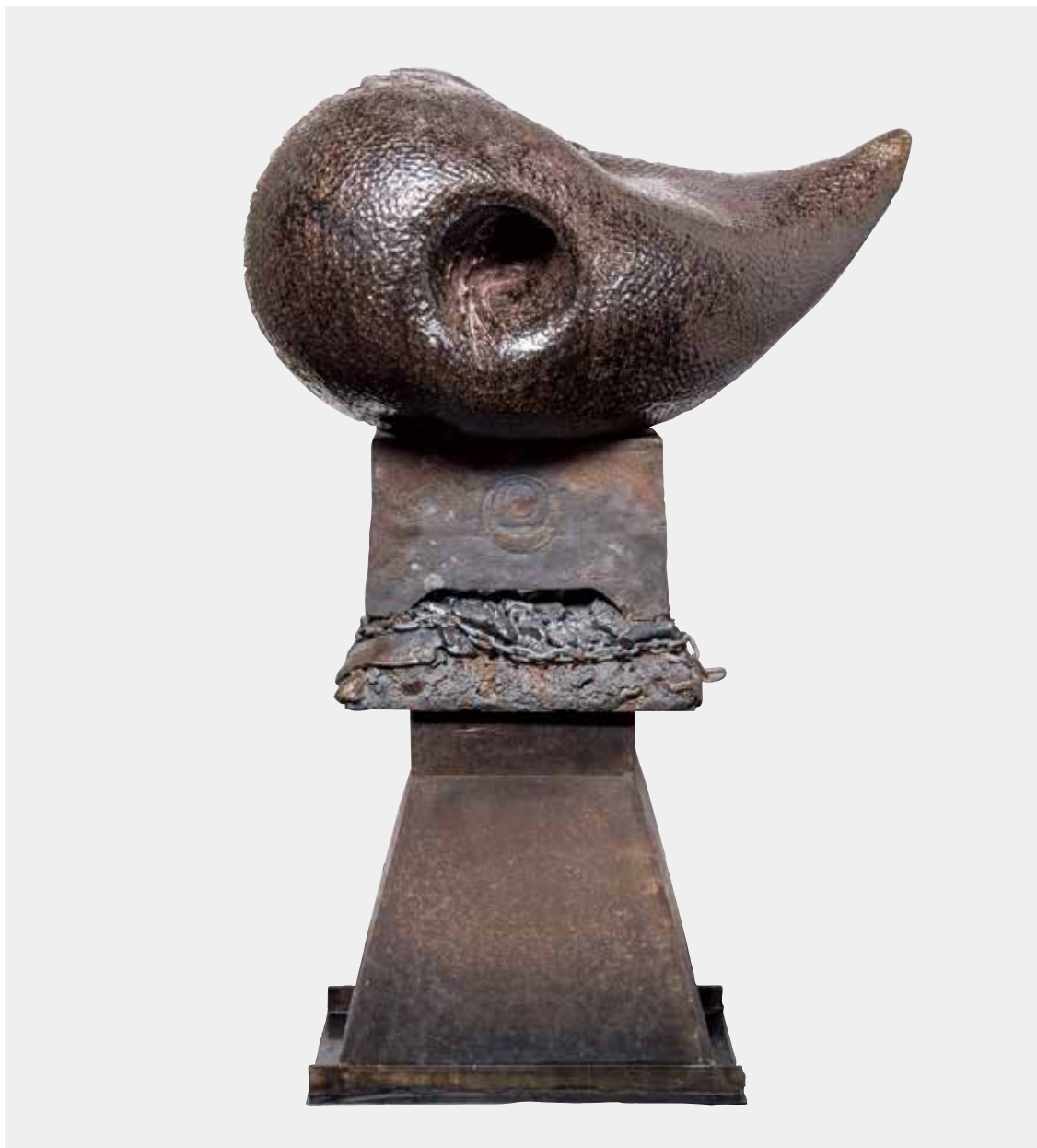


記憶 (H120×W150×D100) 崎枝 静子 (準会員)

沖展賞

2015HENOKO この胸を深々とかきむしれ！（H135×W90×D50）

伊志嶺 達雄



陶土によって制作され焼成された陶彫である。高い技術を駆使した作品には、メッセージ性と造形性がみられる。
台形の鉄の台座の上には陶彫の香炉があり、さらにその上に紡錘形（人の魂？）の物体が横たわっている。香炉には表に沖縄県のマーク、裏の方には巴紋が記されている。また香炉の下には茶碗の欠片が数多くあり、クサリと共に周辺にちりばめられている。以上の内容からメッセージ性が感じられるが、陶彫としての重厚味には量感と緻密な構成感覚がある。特に紡錘形の表面にはブツブツした質感があってより重々しく感じられ、作者が主張するものが表わされている。

評—上原 隆昭（会員）

奨励賞

そこカラ、飛び出せ (H155×W83×D83)
玉城 正昌

九つの輪の中で今にも飛び出そうとするしぐさが、タイトルの作品「そこカラ、飛び出せ」は自分自身の「カラ」を破って新しい世界に飛び出して行こうとの思いではないのだろうか。

米ヒバ材を使った輪のつなぎめの仕口は雇いざね工法などを使い作者の木を知り尽くした技法などが見受けられる。

昨年の賞に続き今回の受賞おめでとう。今後の活躍を期待する。

評－與儀 清孝（会員）



奨励賞

嘆いている (H210×W120×D90)
大城 清久

第64回沖展に初出品、初入選をしてから精力的に創作に取り組んでいる。これまでの作風は自然（樹木）と動物（フラミンゴ、フクロウ）などの組み合わせで構成してきた。今回は木の切り株に目線を高めに鎮座する猿を作った。猿の手、足など指先まで時間をかけ細部まで丹念に作られている。特に猿の表現には時間をかけて丁寧に表情までよく出している。目にコンタクトレンズをはめ込む手法で臨場感が迫る。

人間の欲望から出た自然破壊に対する警鐘と抗議するかのようだ。技法的には鉄材を加熱してハンマーで叩いて形造る鍛造工法をここまで進展させた。作品の大きさからくる迫力にも、圧倒され感激も倍加する。今後、なお一層の展開に期待している。

沖展65回、66回、67回展、連続奨励賞受賞で準会員に推挙された。おめでとう。

評－富元 明雄（会員）





浦添市長賞

全ての受容 (H198×W61×D41)

津波 夏希

昨年は青年の裸像で沖展賞を受賞した。生命感あふれる堂々とした作品であった。

今回は老人（白人）の裸像である。老人は鑑賞者に会話がしたいとほほえみかける。鑑賞者と対峙し、どんな話にも耳をかたむけ、そして全てを受け入れる。作品にはそのようなメッセージがこめられているように思える。

生々しい着色や性器のリアルな表現等、少々ドキッとするところもあるが作者の意図は十分伝わってくる。ただ、今後も写実主義を貫くのであれば、細部の表現、着色の研究等いくつかの課題を感じる。

評—友知 雪江（会員）

うるま市長賞

路上の落葉 (H20×W40×D70) 吉田 俊景

うるま市長賞受賞おめでとう。同テーマで2年前に奨励賞を受賞している。

作者は落葉にどのような魅力を感じ制作しているのか、改めて落葉を拾い観察してみた。枯れて乾いた葉は、無造作に曲がりくねり無限のフォルムを醸し出している。落葉の中には、ヘンリー・ムーアの「横たわる人体」や火炎を連想させるものなどさまざまである。自然の生き生きとしたフォルムが芸術的創作活動の貯蔵庫であることは間違いない。

作品の素材はテラコッタである。素朴で暖かい土の作品は、朽ちて複雑に絡み合った落葉を力強く躍動的に表現している。

形は、量と調和を維持しながらゆっくり変化していくものである。作者は、落葉の中に造形的な変化の美しさを享受しているのであろう。

豊かな感受性を生かした創作活動を期待する。

評—上原 博紀（会員）



グラフィックデザイン部門

総評—金城 正司（会員）

今回グラフィックデザイン部門に応募された作品は一般応募が63点で、昨年を7点上回った。うち学生の応募作品は昨年と同じく20点だが、全部門で最も多く、将来プロのデザイナーを目指す若い人たちの冲展に寄せる関心の高さが継続されていることを喜ぶたい。

準会員の応募は5点で4人が出品した。準会員の半数が出品しておらず、長年の研鑽と努力で得た準会員の資格を危うくしているのは惜しい。審査は会員9人で行われた。応募作は手描きや手描きイラストをデジタル加工した作品、写真を素材にした作品、パソコンで仕上げたコミック風な作品と多岐にわたった。

一般応募の審査は入落の選考を挙手で行い審査員の過半数以上の支持を得た作品を入選とした。入選した作品の中から冲展賞1点、奨励賞3点、浦添市長賞とうるま市長賞を各1点、それに沖縄教育出版賞1点を選出した。

冲展賞は島尻一成さんのポスター、奨励賞は濱口真央さんのイラストレーション、川平勝也さんのポスター、仲里都貴江さんのポスターの3点、浦添市長賞に城間アルベルトさんとうるま市長賞に山里永作さんの二人の作品、学生を対象にした沖縄教育出版賞には比嘉恵万さんのポスターが決まった。準会員賞は幸地のぞみさんが獲得した。幸地さんは29歳と若いですが、一般応募の頃から着実に才能を伸ばし、冲展に新風を吹き込んできた。これからも若い人たちの先頭に立って意欲作を発表し続けて欲しいと願っている。

近年パソコンの普及で手書きイラストもデジタル化し、文字や写真も取り込んでパソコンで制作することが当たり前になっている。レイアウトや色彩、大きさが自在に変えられる事で仕上がりが良くなり、作品のレベルも一段と向上してきた。その一面学生の作品は、実社会のデザインの現場とは距離があるためにクライアントとの関わりもほとんどなく、表現の領域が狭くなっている。他者（友達等）の影響を強く受けるようになり、大半の作品が同一傾向に陥っているのではないかな。

パソコンの機能を使いこなす技術面だけにとらわれず、あらゆる事柄に目を向けて柔軟な思考で発想の輪を広げていけばアイデアは無限に生まれてくるはずだ。

今回落選した皆さんもこれに懲りず、次回チャレンジしてほしい。

会員作品

仮想広告 vol.7 Difference in
[Black] and [White]— ウチマ ヤスヒコ
イラストレーション— 亀 川 康 栄
地球生命体 珊瑚礁「沖縄」— 岸 本 一 夫
イラストレーション①— 金 城 正 司
イラストレーション②— 金 城 正 司
LINE スタンプ— 小 浜 晋
ポスター— 墨象 2015「Reborn」— 玉 城 徳 正
original work— 知 念 秀 幸
TYAWANMUSHI— 知 念 仁 志
ZOURIMUSHI— 知 念 仁 志
ティッシュ BOX デザイン— 本 庄 正 巳
Yasutake Miyagi Graphic Art— 宮 城 保 武
Yasutake Miyagi Graphic Art— 宮 城 保 武
ポスター平和ニゲー— 宮 城 祥

準会員賞

「沖縄と韓国」展— 幸 地 のぞみ

準会員作品

勝連城の戦い— 沖 田 民 行
人生階段・・・ひと休み・・・— キムラ ロメオ
ごちそうさま。— キムラ ロメオ
ソプラノ— 中 井 結

沖展賞

PEACE— 島 尻 一 成

奨励賞

30th ANNIVERSARY ①— 川 平 勝 也
PRAY FOR JUPITER— 仲 里 都貴江
貝拾い— 濱 口 真 央

浦添市長賞

「OKINAWA TIME」— 城間 アルベルト

うるま市長賞

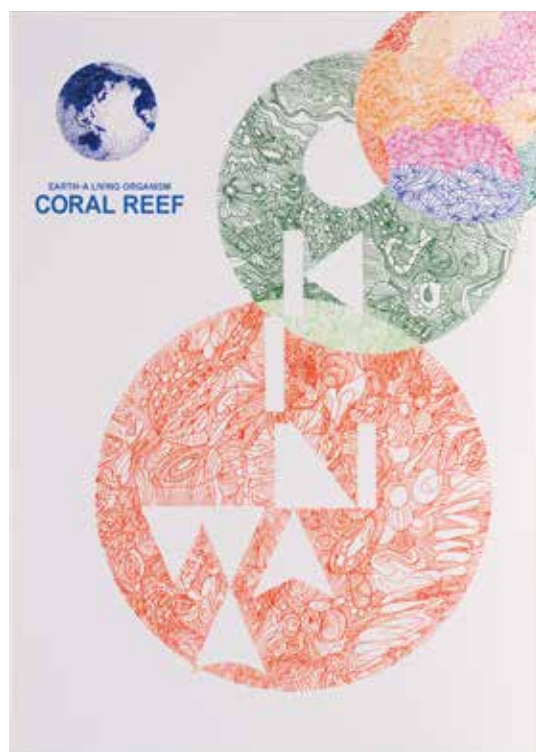
Welcome to my garden— 山 里 永 作

沖縄教育出版賞

虫展— 比 嘉 恵 万

一般入選作品

We must notice— 東 邦 定
未来への海底トンネル— 新 垣 浩 一
教育の島宮古！— 「オール宮古」
で教育推進— 奥 間 洋 子
タイルの可能性(パーツとパターン)— 神 野 俊 一
30th ANNIVERSARY ②— 川 平 勝 也
鳥になって…— 河 辺 友 代
おふくろ、お元気ですか。— 宜 保 定 和
Happy Berry でハッピーに！！— 金 城 由季乃
Jehanne Darc— 具 志 好 規
琉球楽団(共存)No2— 佐久川 由 恭
琉球楽団(共存)No3— 佐久川 由 恭
「八重山古謡の世界～継承される
謡～」表紙装丁案①— 佐久本 邦 華
サン姉妹— 座 波 世 奈
みやらび— 告知ポスター— 島 袋 雅
ミライノトビラ— 瀬 長 洋 一
アプリとろりガブリ— 武 島 美 希
「ユファールとガラサー」(アカショウビンと
カラス)～沖縄の民話より～— 照 屋 カンナ
my favorite things— 當 間 美紀子
my favorite color— 當 間 美紀子
折り紙写真集— 徳 元 亜由美
Respect～敬愛・共に歩み・共に学ぶ～— 仲 里 都貴江
Okinawa Graffiti— 仲 宗 根 至
Gochi' A ! (ゴチャ)— 仲 宗 根 さつき
Line of the memory I— 中 曾 根 靖
Line of the memory II— 中 曾 根 靖
La. nature -ラ・ナチュール— 仲 村 海 香
YYY CLUB iE RESORT
オリジナルポストカード ポスター— 古 堅 直 也
木の種— 松 嶋 玲 奈
わらおう。— 与 儀 一
JAGDA 沖縄グラフィック
デザイン展ポスターイラスト原画— 吉 田 コマキ



地球生命体 珊瑚礁「沖縄」(B0)
岸本 一夫 (会員)



TYAWANMUSHI (B1) 知念 仁志 (会員)



LINE スタンプ (B0) 小浜 晋 (会員)



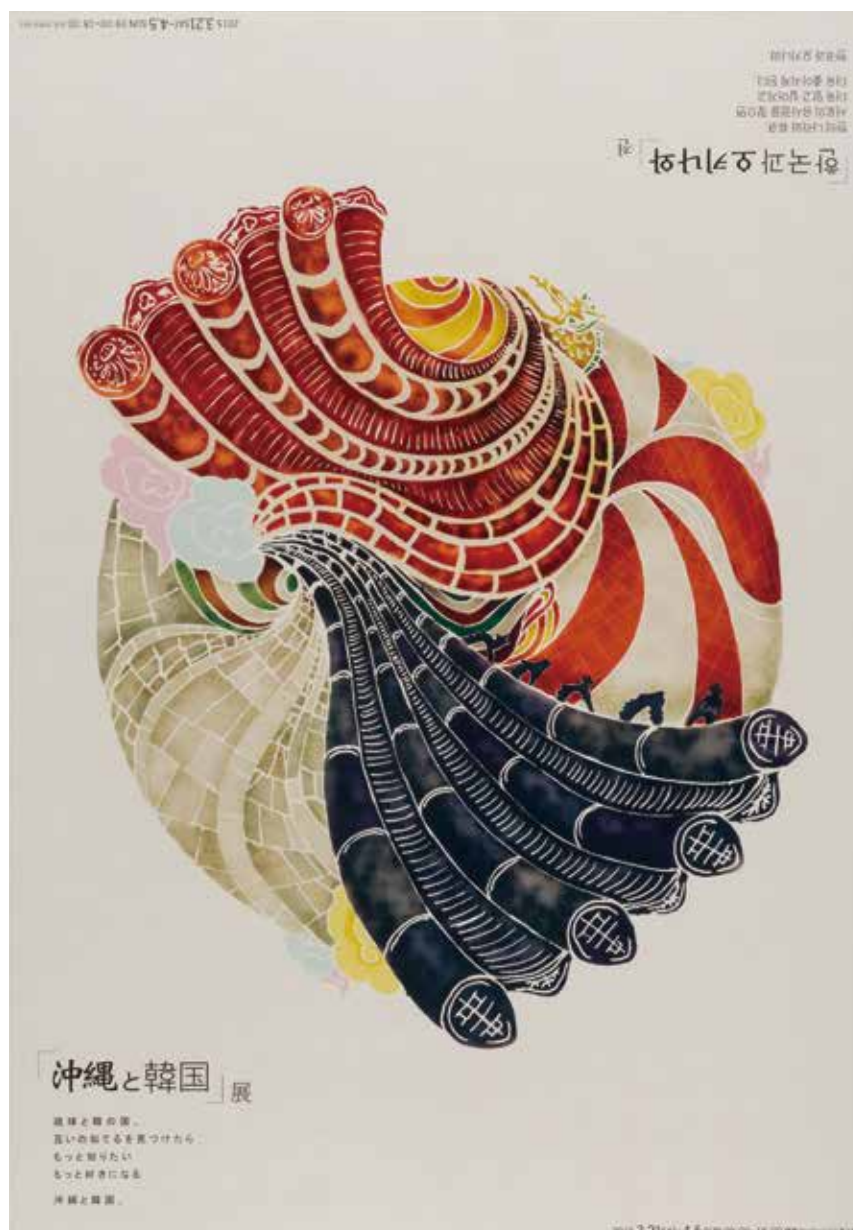
仮想広告 vol.7 Difference in [Black] and [White] (B0)
ウチマ ヤスヒコ (会員)



ポスター墨象 2015 「Reborn」 (B0) 玉城 徳正 (会員)

準会員賞

「沖縄と韓国」展 (B0) 幸地 のぞみ (準会員)



琉球王朝時代でも琉球と韓国は交流があり影響を受けていた。作者は琉球と韓国との関係を首里城正殿と韓国の宮殿で表現している。作品が上下対称となっていて、相違点を表現するうえで、分かりやすいデザインになっている。文字も下が日本語、上が韓国語になっており、逆さにすると韓国の人を対象としたポスターとなる。また、韓国人に文字の内容を確認するなど、デザインの仕事の基本がしっかりしている。

首里城正殿と韓国宮殿の瓦屋根を大海原の波のようにダイナミックな曲線で表現している事と、色彩も赤と青で対称的であるので、画面構成の面白さと瓦屋根の迫力を出すことができている。

首里城正殿や韓国の宮殿前にある石畳の役割が共通である事も知っており、琉球と韓国を良く理解し、制作された作品である。

作品は手書きに見えるが、パソコンの表現技術を駆使し制作されており、作者が得意とする表現で、個性と温もりを感じる作品に仕上がっている。

評—知念 仁志 (会員)



ソプラノ (B1) 中井 結 (準会員)



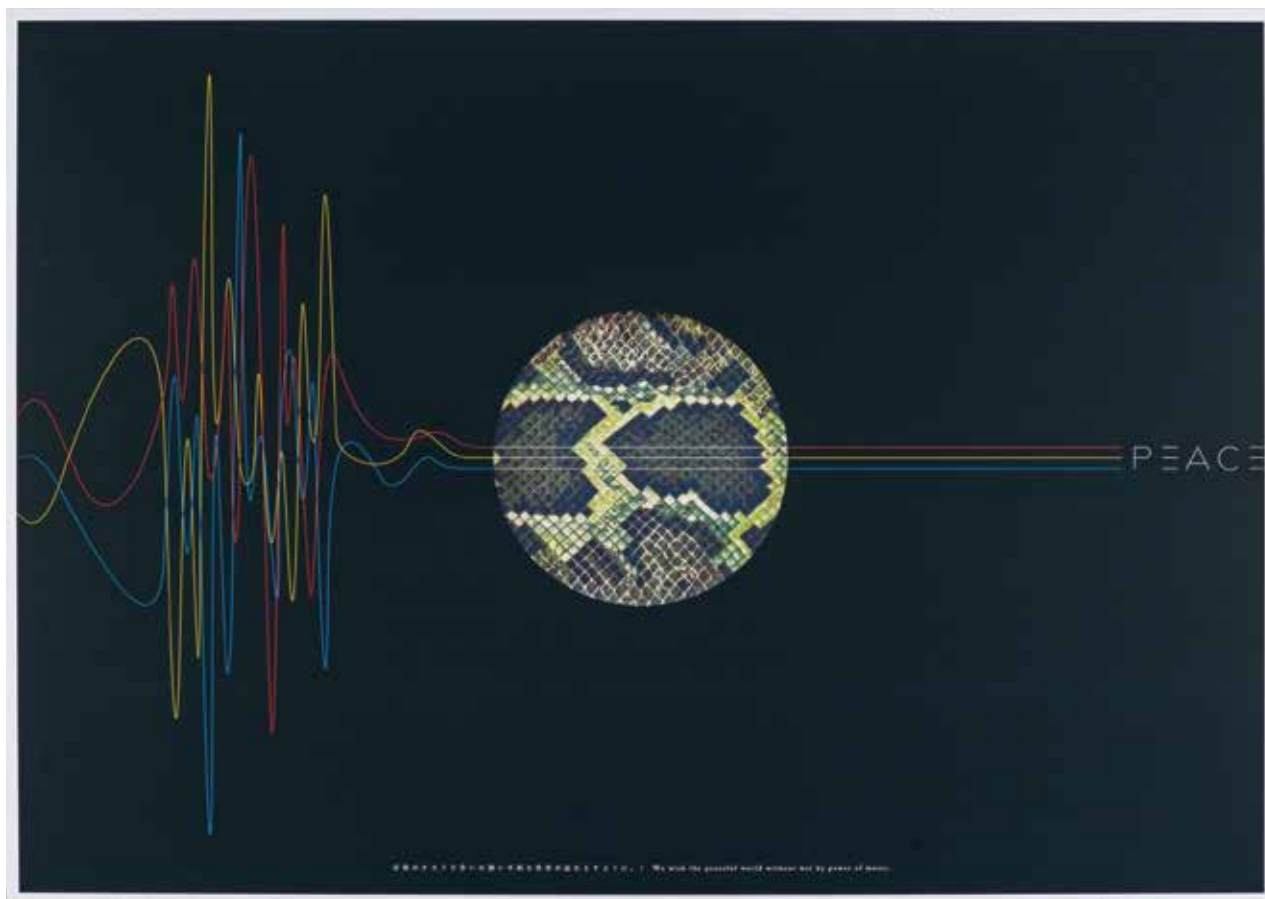
ごちそうさま。 (B1) キムラ ロメオ (準会員)



勝連城の戦い (73×147) 沖田 民行 (準会員)

沖展賞

PEACE (101×143.6) 島尻 一成



横位置の B0サイズの平和（PEACE）ポスター作品。

三線をモチーフに、ポスター全体のバックをダークグレー色にし、黒色に近い画面を表現している。

三線の第一絃、つまり男絃、第二絃中絃、第三絃女絃を、それぞれ赤、黄、青の色彩で表わし、三線の奏でる音色を、赤、黄、青の三色による音波表現のように振動した響きを視覚デザイン化したポスターである。

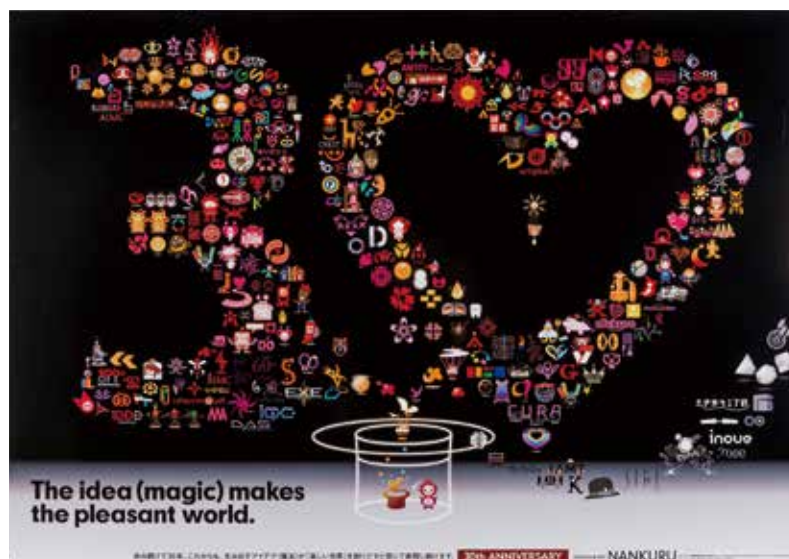
この繊細で静かに見える画面は反面、緊張した空間の中で、赤、黄、青の三つの線がダイナミックに表現されていることだ。

静と動、そこから琉球古典音楽が聞こえてくるようだ。

「音楽のチカラで争いの無い平和な世界が訪れますように」という制作者の思いが表現されている。その日が、一日も早く訪れることを私たち、世界の人々は願っている。

沖展賞おめでとう。さらなる表現に期待する。

評—岸本 一夫（会員）



奨励賞

30th ANNIVERSARY ① (B0)

川平 勝也

発想や表現のユニークさ、レイアウトの確かさ、色彩と色調の良さ等々が、総合的に主題のコンセプトを強く表出した秀作である。

画面右下方のトリックハットの中から、続々とわき出する多種多様の、ロゴマークやロゴタイプの個々の個性豊かな作品等は、喜々としてはじける宝石の感がする。作者の創造の努力や情熱と達成感が作品と共に輝いている。ロゴマークやロゴタイプは、企業や団体のアイキャッチシンボル、イメージキャラクターとして、大衆伝達の為に重要である。それぞれの作品達が大きな効果を発揮していると推測される。

川平氏の創作努力の30年という歴史の成果は、このポスター作品に魅力的に表現されており、感動を覚える。

奨励賞受賞おめでとう。今後ますますの活躍を期待する。

評—宮城 祥（会員）

奨励賞

PRAY FOR JUPITER (B1)

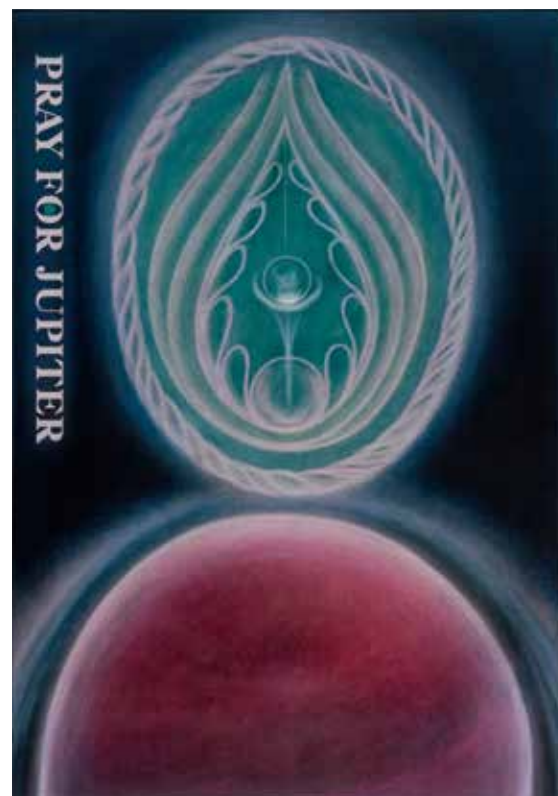
仲里 都貴江

第63回浦添市長賞、第65回奨励賞、第66回浦添市長賞、今回67回奨励賞と4度受賞している。今回も自然界をモチーフにした作品である。

審査で仲里都貴江さんのパステルで表現した惑星の作品が目にとまった。PRAY FOR JUPITER「ジュピターへの祈り」木星をモチーフにした発想の作品である。美しい模様をもつ木星の様子を、愛と調和の祈りを感じさせる。幾度も幾度もパステルを手の平と指先で塗り込んで、何日間か間隔はあくものの、約一年がかりで仕上げた作品のようである。ジュピターの立体感を出し、宇宙感を表現している。パステルを布にジュピターの深いディープな色合は全色塗り込んでいるようだ。

モチーフが斬新に表現され全体の構図も良い。宇宙は常に新しい星を生み、変化し続ける……受賞おめでとう。

評—宮城 保武（会員）



奨励賞

貝拾い (A0) 濱口 真央



第63回、65回展絵画部門奨励賞受賞につづく、濱口真央さん、三度目の受賞作である。「貝拾い」と題されたこの作品は、観るものに、さまざまなことを想起させる。横たわる二人の少女の腕は、臙脂色のリボンで結びつけられ、その視線は、苦悶の荒野を彷徨っているようにも見えれば永遠の涅槃会の彼方で、微笑みを浮かべているようにも見える。

作家の心の奥底に潜む心象風景をキャンバスに投影するアートと、観る者にメッセージを、ある意味ストレートに投げかけるデザインと、その両者を否定しているかのような、この作品を理解する糸口は、レース地の海上に展開された、デカルコマニー（転写）の織りなす波紋とこの少女の左手から転げ落ちた瓶のラベルに刷り込まれた文字以外には、最早見当たらないような気もする。

観るものに、問題を投げかける作品は、もう一つのデザイン表現の方向性となりうるのか。

「See you mao」

今後の作者の動向に注目したい。

評—ウチマヤスヒコ（会員）

浦添市長賞

「OKINAWA TIME」(130×92) 城間 アルベルト

ミュージシャンであり、アーティストであるアルベルト城間さんの昨年の「うま市長賞」受賞につづく、二年連続の受賞作である。

今回の「OKINAWA TIME」という作品は、沖縄に流れている独特のゆるやかな時間の流れと、今の沖縄の置かれている状況の両者を、それぞれ縦軸、横軸に置いて表現されている。

その沖縄独特の時間軸が、世界中に旅立っていった沖縄の人々によって世界中に伝播し、その土地土地で新たな文化や歴史を育んでいることを、世界地図になぞられたキャンバス上に表現している。一つひとつの数字に描かれた、紅型や紬の文様、琉球を象徴する龍のフォルムに混じって、軍服を想起させる迷彩柄が入ってくるカラージュは、過去・現在の沖縄であり近い将来、その状況がどう変化していくのかを暗示しているようにも見える。

鮮やかなラテンの色と、厳かな伝統文様、そこに見え隠れする異国のアイコン。アルベルトさんの表現は、デザイン、音楽、アートを超え、見るものに迫りながら、さまざまなモノ、コトを想起させる。

アルベルトさんの、今後のますますの進化に期待する。

評—ウチマヤスヒコ（会員）





うるま市長賞

Welcome to my garden (B1) 山里 永作

透明水彩絵の具で描かれたボタニカルアート（植物画）で構成されたポスターである。山里さんは昨年、熱帯果実や野菜を描いてポスターとし、奨励賞を受賞している。

今年の作品は、沖縄でも身近に見られる草花をモチーフとして正確な緻密さで、植物の形や色や特色を観察した上で、写実的に克明に描いている。それぞれの植物は花が咲きよく観察され、正確に立体的に特徴をとらえ美しく表現されている。

ボタニカルアートの語源は、英語のボタニーの形容詞のボタニカル（Botanical= 植物の、植物学の）とアート（Art= 芸術、美術）が結びついた言葉。直訳すれば、植物学の美術と訳することができる。ボタニカルアート発祥の地、ヨーロッパでは17世紀あたりから発展し、19世紀のナポレオンの時代では黄金期で代表的な傑作が描かれている。

ポスターとして、デザインされた山里さんの画はイラストレーションという形式になり、構図や構成も魅力的に仕上がった。次回も植物や草花などの自然な姿をビジュアルとして表現された、美しいポスターデザインが見られることを期待したい。

評一知念 秀幸（会員）

沖縄教育出版賞

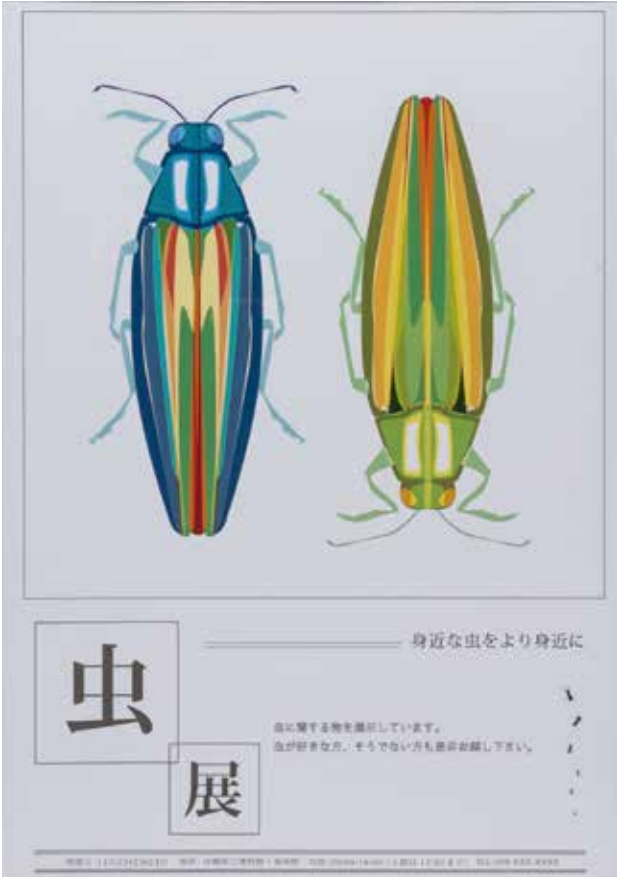
虫展 (B1) 比嘉 恵万

受賞作「虫展」ポスターは、レイアウトが整理され、メインビジュアルのイラストがシンプルに表現された展示会告知ポスターである。デフォルメされたイラストは、シンプルでカラフルな仕上げで若々しいエネルギーを感じるが、技術的な面でもう少し工夫するとよい課題もいくつかあった。

自主制作ポスターだが、誰か誰に対して告知するポスターなのかもう少し掘り下げるともっと分かりやすく良い作品になったと感じる。展示会の内容が、イラストの個展やグループ展なのか、または生物としての虫の展示会なのか標本展示なのか分かりづらく、伝えるべき要素の整理が必要と感じた。これはコピー表現も同様である。このポスターでは、伝えるべきメッセージが弱く、せつかくのユニークなイラストビジュアルの効果が薄い。

ポスターデザインの目的は、何らかのメッセージを伝えるコミュニケーション手段なので、今後も幅広く感性を研ぎ社会と向き合いながら若さを生かした作品づくりに取り組み、楽しくクリエイティブしていくことを期待する。

評一玉城 徳正（会員）



書芸部門

総評一仲村 信男（会員）

第67回沖展の書芸部門の審査は、これまで2日がかかりだったが、1日の日程に変わり審査員一同かなり緊張したなかで行われた。

一般応募総数は、275点で昨年300点に比べ25点の減である。最も応募数の多かった60回展（2008年）の554点と比べると279点の減であり、年々応募数が減ってきている状況である。書を志す者にとって沖展、その他諸々の公募展は日頃の書活動の発表の場として位置付け、入落に一喜一憂することなく果敢に挑戦して欲しい。沖展は質・量ともに県内最大の美術・工芸公募展であり郷土文化を象徴する総合美術展である。沖展は書を志す者にとって登竜門でありもっと多くの方々が沖展に関心を持ち、盛り上げていく気概を持つ事を願う者である。

今回の応募作品は、全般的に技量が一段と向上し、いずれも力作揃いで、作品も漢字、仮名、調和体、篆刻とレベルの高い作品群で審査は、極めて厳しいものとなった。

一般公募の審査は、34名の審査員の挙手によって行われ、1点ずつ審査員の厳しい目で鑑別され183点の入選以上が決定した。賞の選考は、高得票入選作品の中で特に優秀とみなされ各会員の推薦により13点を賞候補とし、3回の投票を経て、沖展賞1点（漢字）、奨励賞4点（漢字1、仮名2、篆刻1）特別賞の浦添市長賞（漢字）、うるま市長賞（漢字）、沖縄教育出版賞（漢字）、が選出された。入賞作品はいずれも、構成、用筆、紙、墨など工夫がなされ、練度が高く、見る者を引きつけた。特に今回は、仮名作品のレベルが高く、入賞作品が2点も出た事は、特筆すべきことである。

準会員賞の審査は、30点の作品の中から選考され、厳選の結果、我部幸枝さん（漢字）、兼次律子さん（仮名）が選ばれた。準会員の作品は、流石に長年研鑽努力してこられた方々の熟達した作品が多い中、その書活動が大輪の華となつて見事準会員賞の栄冠に輝いたのは、入賞の2氏である。審査後、規定により我部さんは会員に、石津さんは準会員に推挙された。

書は、線の芸術であるといわれている。作品の制作に当たって心すべきことは、文字の形態（デフォルメ等）は勿論大切であるが、その線質に、より留意すべきであると考え。生きている線とは作者の息遣いが感じられる線であり、呼吸している線である。「玉は、琢磨によりて器となる。人は錬磨によりて仁となる」（正法眼蔵随聞記）。書においても同じ事がいえる。たゆまぬ努力、錬磨を重ねる事により、生きた線が身につくものと思う。

今回、惜しくも入賞、入選を逸した方々は、一層精進され捲土重来を期し、怯むことなく挑戦していただきたい。

<前後・後期>

会員作品

わたしの恵みはあなたに

対して十分である——東 江 順 子
磨杵作針——安 里 牧 子
かざしたる——阿 部 田鶴子
一鳴人を驚かす——新 城 弘 志
嵐——泉 朝 信
蓬萊——運 天 雅 代
琉球漢詩(蔡温)二首 千手院頼全上人
泛許田湖——大 城 武 雄
豊楽亭游春——大 城 稔
漢詩——大 山 美代子
荀子句——我 喜 屋 明 正
監——神 山 律 子
良寛のうた——小 杉 紘 子
美しや……砂 川 米 市
金蘭之契——砂 川 榮
従軍北征——高 良 房 子
聡明——田 名 洋 子
自詠句——茅 原 善 元
語句——渡 名 喜 清
吉祥——豊 平 信 則
常楽我淨——名 嘉 喜 美
鳳仙花——長 浜 和 子
偶然欲書——仲 村 信 男
朝霧——中 村 裕 美
ゆめ——仲 本 清 子
墨戲妙心——仲 本 朝 信
陳薦夫詩——西 蔵 盛 英 雄
松竹梅——比 嘉 千鶴子
廓然無聖——比 嘉 安 子
飛耳長目——比 嘉 勝 弘
螳螂之斧——東 恩 納 賢 二
逆耳 孳孳——前 田 賢 美
慶祝七字聯——眞 喜 屋 美 佐
孤掌難鳴——宮 里 朝 尊
喜盈——盛 島 高 行
月下獨酌——山 城 篤 男
今日のみと——山 城 美智子

準会員賞

里の春——兼 次 律 子
王士禎詩 秋柳四首——我 部 幸 枝

準会員作品

千字文之一節——天 久 武 和
蔡大鼎詩——上 門 かおり
田家留家行——上 地 徹
李益詩四首——上 原 孝 之
良寛詩——上 間 志 乃
懷仙歌(李白詩)——我 喜 屋 ヤス子
書芸——漢 那 治 子

有職故実 頂天立地

敦篤虚静 万物逆旅——金 城 多美子
江行——幸 喜 石 子
王陽明先生詩——幸 喜 洋 人
寒山詩——島 尚 美
七言律詩三首——島 崎 サダエ
蔡大鼎詩——城 間 律 子
友に贈る 他二首——新 垣 敏 子
賀の歌 三首——新 里 明 美
桐江二首——新 里 智 子
日暮進帆富春山 他三首——友 利 通 子
杜甫詩「哀江頭」——豊 平 美奈子
宿詠公房曉起偶成——仲 里 徹
萬國津梁之鐘銘——福 原 兼 永
「宇宙洪荒」——松 田 征 子
寒山詩——松 堂 康 子
銅鑼鳴りて——宮 城 政 夫
百人一首抄——村 山 典 子
茂吉のうた——本 村 晴 美
石鼓歌(韓愈詩)——吉 里 恒 貞
百人一首——吉 田 優 子
霽夜——与 那 嶺 典 子

沖展賞

辛酉上巳即事 他八首——新 垣 恵津子

奨励賞

源氏物語より——石 津 陽 子
不學牆面 小人間居爲不善
無所不至——上 原 善 輝
やなぎ桜——渡 慶 次 喜代美
楊思敬東郭草亭讌集
他二首——松 川 美智子

浦添市長賞

三月三十日題慈恩寺
他五首——島 袋 園 子

うるま市長賞

李白詩——仲 宗 根 司

沖縄教育出版社賞

秋興——國 吉 真 吾

一般入選作品 <前後>

<漢字>

周新命詩——安里弘子
高青邱詩 他二首——安座間澄子
七言律詩三首——天久美津枝
入境寄集賢林舍人 他一首——新垣絹枝
漢詩二首——池原米子
蔡大鼎詩——伊佐直美
李白詩六首——石川美智代
初入轅過惶恐灘 他一首——伊野前喜美子
謝維焜詩——伊波エツ子
得内子見月寄懷詩卻寄二首——上里牧子
杜甫詩——上門靜子
高青邱詩集 他——上江洲トヨ
早發巢縣暮宿金城寺 他一首——上原香奈
晚泊岳陽 他二種——上原啓子
破山寺後禪院 他三首——上原妙子
由臨川北道抵餘干山行五首——上原千枝美
河陰河朔望 他——上原敏夫
律詩二首——上間智子
蔡大鼎詩——内間カズ子
杜子美詩——浦崎康哉
故事成語——栄野川栄子
旅次武林期叔剛修撰不至
他一首——近江幸子
漢詩四首——大城加代子
漢詩三首——大城さやか
漢詩二首——大城百合子
漢詩——太田美枝子
游嶽麓寺 他二首——大田安子
送家立菴太常歸皖山其一、二——大見謝京子
七言律詩四首——小川和美
蘇東坡詩——奥濱喜美子
出独山湖至江口作 外一首——嘉手苅陽子
高青邱詩集六首——神里和子
漢詩二首——嘉味田朝信
柴静儀 他一首——神谷希
客中元旦望拜国主
他三首——神山直子
丁和承詩——香村春乃
杜甫詩——川上タケミ
杜甫詩——川上秀子
周新命詩——川中留美
雨後 外一首——川満廣子
月下自寒山還至蓮花峯
下外二首——喜久山安子
杜子美詩——宜保かおる
寫扇贈明上人——儀間有沙
漢詩——金城功
程德望司部登月亭 他二首——金城翔太
宿龍興寺 他三首——金城真理子
漢詩——金城美恵
西句橋 他一首——金城めぐみ
七言古詩抄——桑江恭子

過維揚作 他一首——小橋川町子
漢詩三首——島津和美
西江晚泊 他一首——島袋敬子
杜甫詩——島袋ひろみ
唐詩——島袋光子
次韻奉酬樊榭先生 他一首——下里真智子
與伯貞或華二友會 他一首——下里佳恵
桃源漁父行 他三首——謝名堂奈緒子
漢詩三首——城間ハツエ
書懷 其一 他一首——城間美香
大別——砂川恭子
漢詩三首——平良久子
漢詩二首——田場博
寄友人 他二首——田端喜代
十七夜月 他一首——田福宏美
白居易詩——玉元庄弘
漢詩二首——田港玲子
宿瑩公禪房聞梵——知念一正
己卯十二月二十日感事——知念レイ子
草堂詩 他一首——津嘉山純枝

<調和体>

黃碧 他二首——赤嶺隆子
燕に贈る 外一首——稲嶺法子

<仮名>

梅の花——赤嶺弘子
八重桜——安里友子
天の川——安座間賀子
やよいに鶯——新垣任紀子
夜の星の・・・——大城幸子
ふるさとの・・・——岸本弘子
風韻——儀間洋子
月さゆる——喜友名正子
朝の原——志慶真幸代子
なつのよも・・・——島袋侑律子
時雨そむる——島袋杏奈
さくら貝——城間杏奈

<篆刻>

楽天知命 冲静得自然 先憂後樂
厚積而薄発——赤嶺悦子
望雲之情 優游以卒歳 吾道
一以貫之 明々無悟法——安里涼子
尊尚親愛 詩中有畫
積善余慶 異路同歸——伊佐澄子
萬物殷富 破竹之勢 流翠欲滴
敢為邁往——嘉納京子
陰德陽報 和神養素 以和為貴
驚天動地——桑江慶子

一般入選作品 <後期>

<漢字>

郭明甫作西齋於穎尾請

予賦詩 他 當 間 綾 子
 送陸蕙晦 當 真 洋 子
 寒山詩 德 里 美代子
 杜甫詩二首 渡 口 真 理
 勝宇嶽 渡 口 葉 子
 高青邱、白居易詩 德 松 恵 子
 孟冬朔日菊尊小集次韻答
 賓谷丈 外一首 富 盛 朝 秀
 杜甫詩 富 山 美智子
 酬張器判官泛溪 友 寄 恵 子
 漢詩 豊 平 美栄子
 思田園 他一首 長 堂 加代子
 蘭亭故居 他一首 長 浜 まさ子
 蘇東坡詩 仲 舛 由美子
 東平道中 善才岫夜坐 長 嶺 こず枝
 唐詩 仲 本 一 郎
 蔡大鼎詩 永 山 マサ子
 漢詩二首 仲 村 渠 良 雄
 題密雲州學壁 外一首 名 渡 山 千恵子
 由臨川北道抵餘干山行三首 根 路 銘 昭 子
 蘇軾詩二首 濱 川 栄 優
 魏允相に贈る 他一首 比 嘉 麻 巳
 飲酒 (その五) 比 嘉 徳 史
 叔徳昌詩 比 嘉 勝 子
 杜甫詩 比 嘉 さつき
 漢詩二首 日 高 俊 彦
 漢詩二首 日 高 米利子
 漢詩四首 終 崎 ケイ子
 月夜泊虎山橋 福 地 恭 子
 自湘東驛邊陸至蘆溪 古 堅 直 子
 高青邱詩 平 識 勝 子
 寒食思友小酌 平 敷 律 子
 雨宿潼關 外 間 早 智
 客堂秋夕 他一首 前 田 多賀子
 立秋後夜起見明月
 他一首 真 栄 田 ミネ子
 蘇軾詩 真 栄 田 義 之
 高青邱詩 真 壁 恵 子
 漢詩三首 真 謝 幸 代
 高青邱詩 外四首 松 本 弘 子
 銭起詩 嶺 井 律 子
 杜甫詩 宮 城 孝 子
 漢詩二首 宮 城 則 子
 漢詩 (崔曙・放言詩) 宮 城 政 子
 蔡大鼎詩 宮 城 みち子
 滙湖山寺 宮 城 有 希
 感冬 外一首 宮 城 洋 子
 杜甫詩 三首 宮 城 律 子
 杜甫詩 宮 里 恵美子
 蔡大鼎詩 宮 里 えり子
 唐詩 宮 里 博 子
 漢詩二首 宮 平 妃女花

送人使河源 他四首 宮 良 明 美
 和答登封王晦之登樓見寄 他 森 さゆり
 程順則詩 盛 島 洋 子
 李白詩五首 森 根 和 子
 張説詩 山 内 南々子
 感懷雜詩 外一首 山 里 美代子
 雨宿潼關 山 城 敦 子
 漢詩三首 山 城 綾 子
 漢詩四首 山 城 捷 明
 高青邱詩 山 城 英 子
 陳瑾詩 屋 良 知絵未
 初到黃州 外一首 与 儀 ふじ江
 歲暮田居 他二首 与 儀 政 子
 杜甫詩 他一首 与 儀 好 子
 李白詩 与 儀 好 子
 鄭山啓に簡す 外一首 吉 田 英 子
 歙県懷古 外一首 與 那 城 千恵子
 鄭虞臣詩 與 那 霸 律 子
 春日登鼓山 他四首 湧 田 市 子

<仮名>

牧水の歌 三首 瀬 長 由美子
 新古今和歌集 田 場 ツル子
 水の音に・・・ 田 場 啓 子
 新古今和歌集三首
 (花さそふ・・・) 玉 那 覇 節 子
 茂吉の歌二首 渡 久 地 美佐子
 四季 仲 昌 代
 かぐわしき 新 田 千賀子
 梅が枝 比 嘉 栄 子
 さみだれ 比 嘉 優 花
 春の月 眞 栄 城 涼 香
 柳原 宮 城 多佳子

<帖・卷子>

冬の歌 諸 見 里 史 子

<篆刻>

祥雲麗碧空 醉眠花
 盡力竭智 福如雲 小 林 好 生
 日月星辰 吳 屋 純 媛
 春風得意 和神養素 百事楽嘉辰
 臨機応変 雲龍風虎 田 頭 節 子
 群賢雅集 秉燭夜遊
 飲天喜地 百鍊成鋼 仲 村 愛
 雪月風華 有無相生
 見性成仏 陰徳陽報 福 本 真理乃
 商旅野宿 遊嬉宴楽
 視聴言動 輕妙洒脱 山 城 千恵子

特別展示

萬物生光輝 定 歳 實 勇



磨杵作針 安里 牧子(会員)

(137×70)



語句 渡名喜 清(会員)

(135×70)



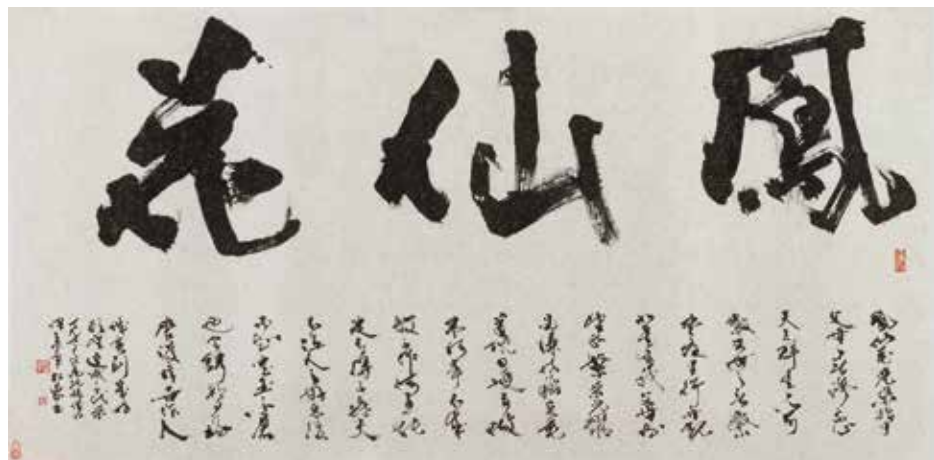
蓬萊 運天 雅代(会員)

(135×70)



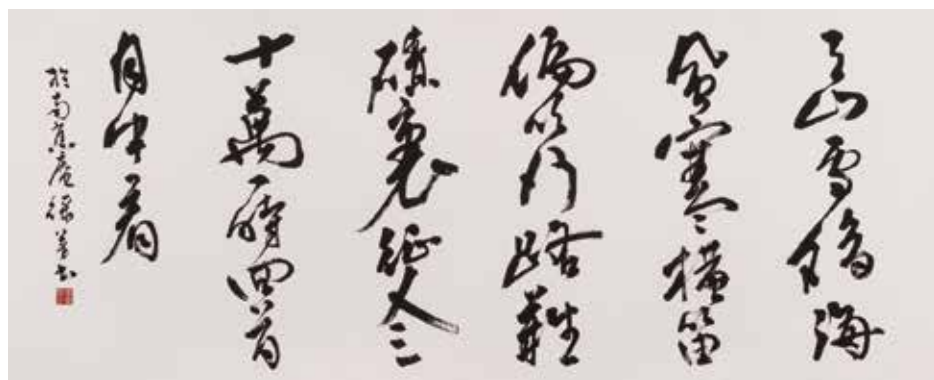
聡明 田名 洋子(会員)

(136×70)



鳳仙花 長浜 和子（会員）

(62×137)



從軍北征 高良 房子（会員）

(70×170)



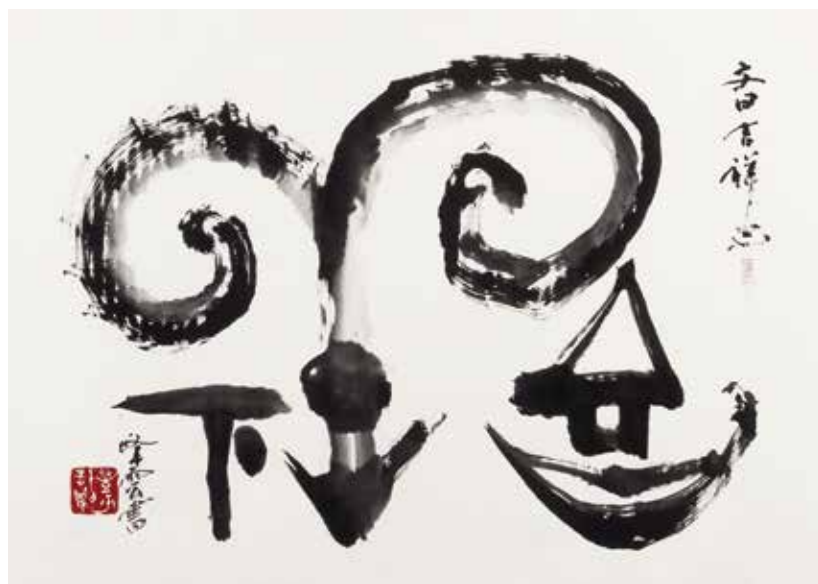
嵐泉 朝信（会員）

(70×136)



松竹梅 比嘉 千鶴子（会員）

(228×53)



(91×129)

吉祥 豊平 信則(会員)



(97×53)

一鳴人を驚かす 新城 弘志(会員)



(180×65)

喜盈 盛島 高行(会員)



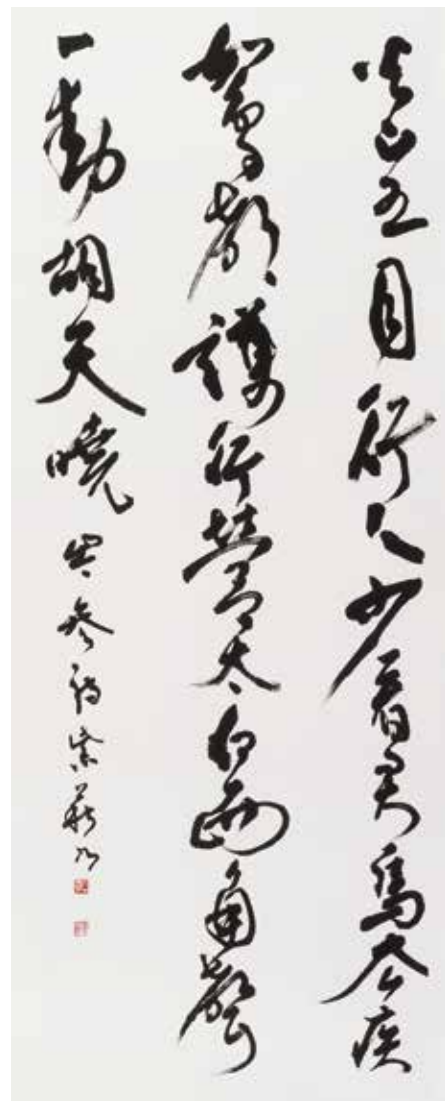
(63×63)

荀子句 我喜屋 明正(会員)



慶祝七字聯 眞喜屋 美佐（會員）

(135×70)



漢詩 大山 美代子（會員）

(170×70)



墨戲妙心 仲本 朝信（會員）

(154×53)



廓然無聖 比嘉 安子（會員）

(171×44)



(70×135) 琉球漢詩（蔡温）二首 千手院頼全上人 泛許田湖
大城 武雄（会員）



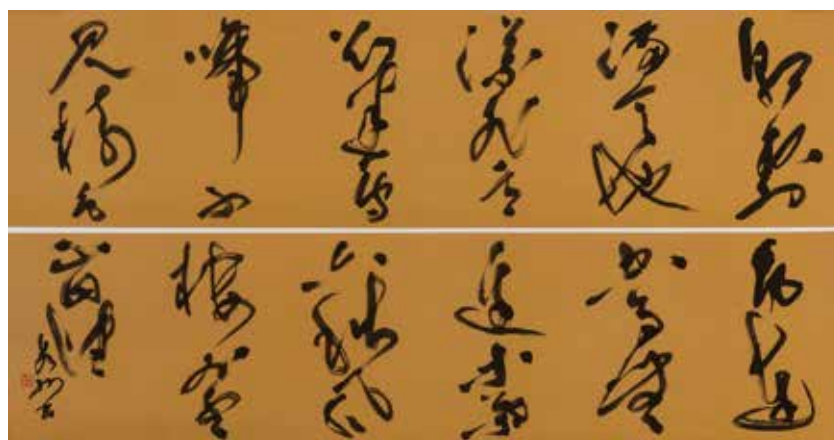
(135×70)

監
神山 律子（会員）



(170×70)

豊楽亭游春
大城 稔（会員）



(70×135)

朝霧 中村 裕美（会員）



陳薦夫詩
西藏盛 英雄 (會員)
(240×60)



常樂我淨
名嘉 喜美 (會員)
(234×53)



月下獨酌
山城 篤男 (會員)
(240×60)



金蘭之契
砂川 榮 (會員)
(240×60)



自詠句 茅原 善元(会員)

(78×189)



美しや： 砂川 米市(会員)

(136×70)



偶然欲書 仲村 信男(会員)

(226×53)



孤掌難鳴 宮里 朝尊(会員)

(227×53)



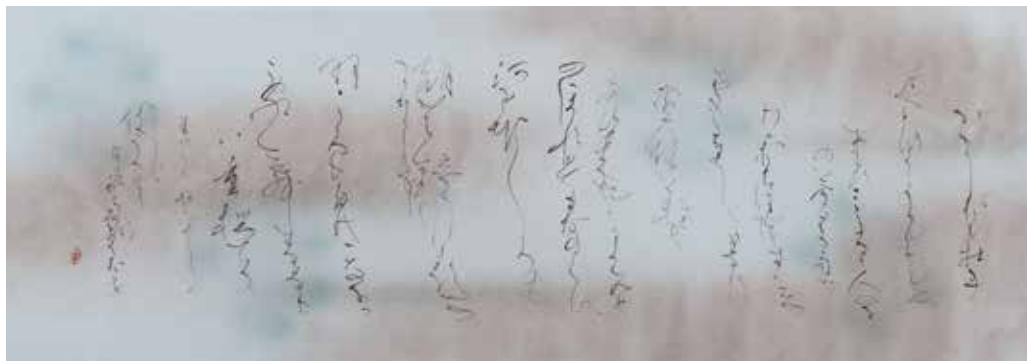
(30×360)

良寛のうた 小杉 紘子 (会員)



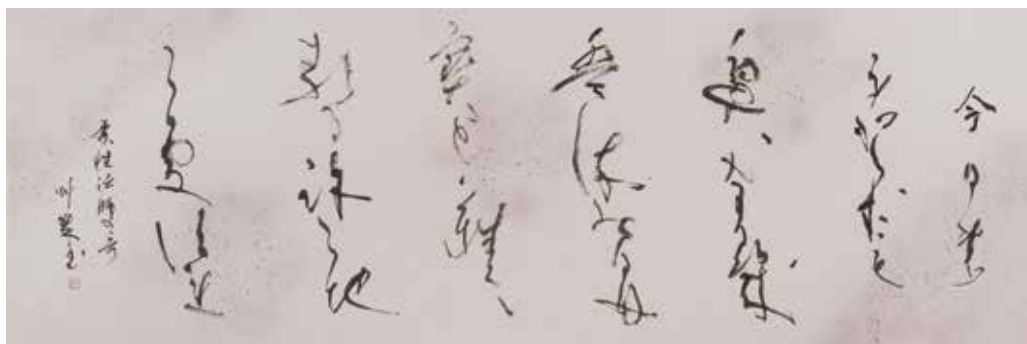
(224×53)

ゆめ
仲本
清子 (会員)



(60×180)

かざしたる 阿部 田鶴子 (会員)



(60×182)

今日のみと 山城 美智子 (会員)



(40×70) わたしの恵みはあなたに対して十分である 東江 順子 (会員)



(42×31)

蟠螂之斧 東恩納 安弘 (会員)



(52×32)

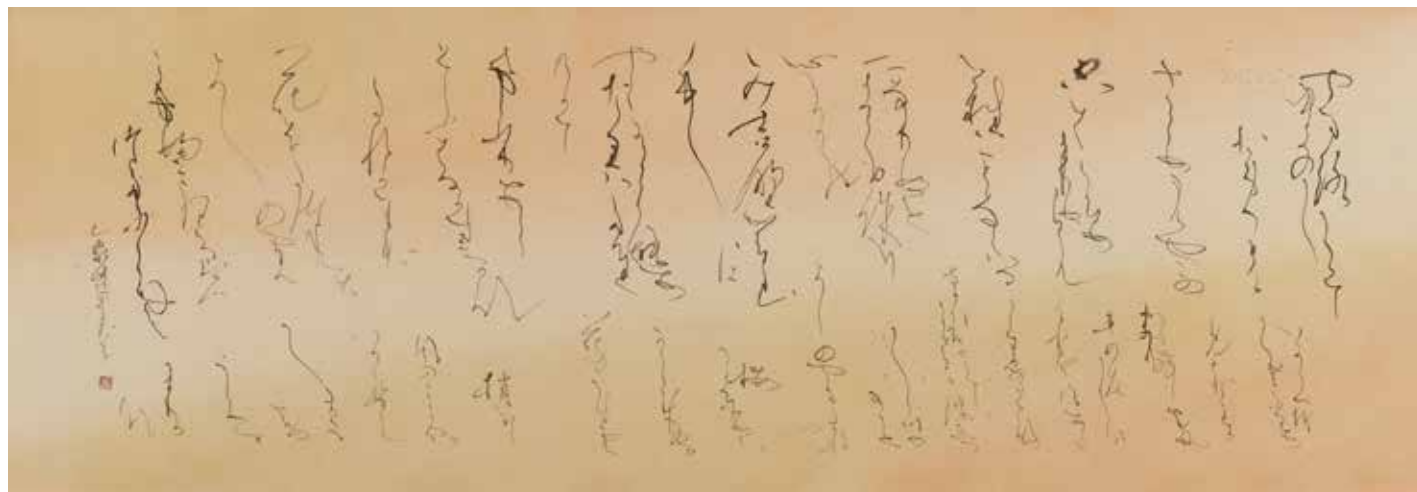
飛耳長目 比嘉 良勝 (会員)



(68×48)

逆耳 孳孳 前田 賢二 (会員)

準会員賞



(60×180)

里の春 兼次 律子(準会員)

この作品は、上段の大きめの文字群と下段の小さめの文字群で構成されている。

この作品の良さは、全体として線に力み、気負いが全くなく、ゆったりとした線の動きを観ることが出来る。作品名は「里の春」。その雰囲気がよく出ている。

書き出しの「やま路へのし」の二行を一つの群れにし、三、四行で間を取り、五、六行で群れを作っている。十行目まではやや「白」で構成し、紙面の中央部「み吉野農」から「希ふ利あらそふ」は、濃い大胆な筆致で「黒」の見せ場を作り「多徒年天よしのや末」まで筆の墨を絞り出し「白」にし中央部との対比を作り出している。下の段は全体的に「白」で構成し、上の段を引き立たせており、料紙の色と相俟っていい作品に仕上がっている。

ところで、兼次さんは八年前に沖展賞を受賞している。そのときの構成雰囲気に似ていなくもない。中央部「黒」の部分も「もしはや久有ら能あ」のあたりに、もう少しの工夫が欲しいところである。

「行間の響き合い」「行と行の呼び合い」というのは仮名作品においては重要な要素となり得る。さらなる研鑽と精進を期待したい。

評—砂川 米市(会員)

準会員賞



(32×350)

王士禎詩 秋柳四首 我部 幸枝（準会員）

2013年に続き二度目の準会員賞そして会員推挙、おめでとう。これまで日展入選、諸中央公募展での活躍や長年培った研鑽が今回大きく花開いたと思う。

まさに“作品”！書芸としてその魅力を十分醸し出している。卷子を書く上で行間、字間、字の大小、墨色、線質の妙味、流れそして料紙の質、色と多くの要件が重要である。作品には絶妙な行間から生まれる心地よい緊張感がある。元璐調を背景にした線質は潤渇、肥瘦に気を配り、終筆の筆先まで気が入っていて、一字の中での変化に富んだ線質に書技の確かさを感じる。料紙の山水画模様が墨色と調和し風趣に富んでいて、じっくり鑑賞したい作品である。

作家の好きな俳句「生きることは一筋がよし寒梅」が想起された。本後も魅力的な作品に出合えることを期待する。

評—長浜 和子（会員）



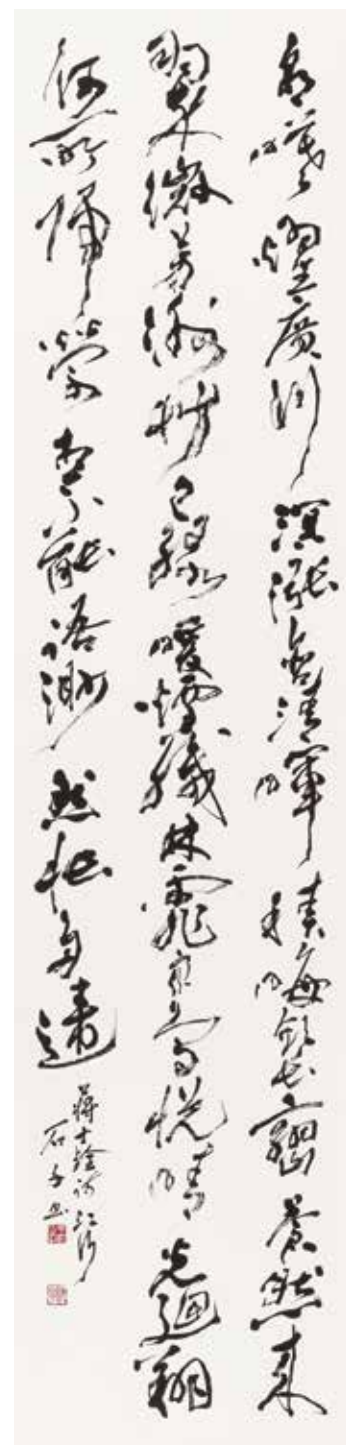
宿詠公房曉起偶成
仲里 徹 (準會員)
(242×61)



友に贈る 他二首
新垣 敏子 (準會員)
(228×53)



寒山詩
松堂 康子 (準會員)
(225×53)



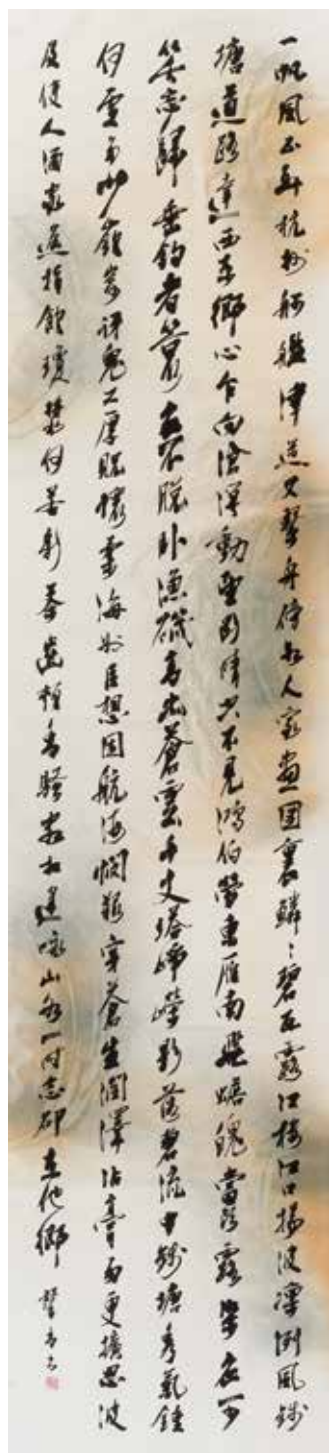
江行
幸喜 石子 (準會員)
(227×53)



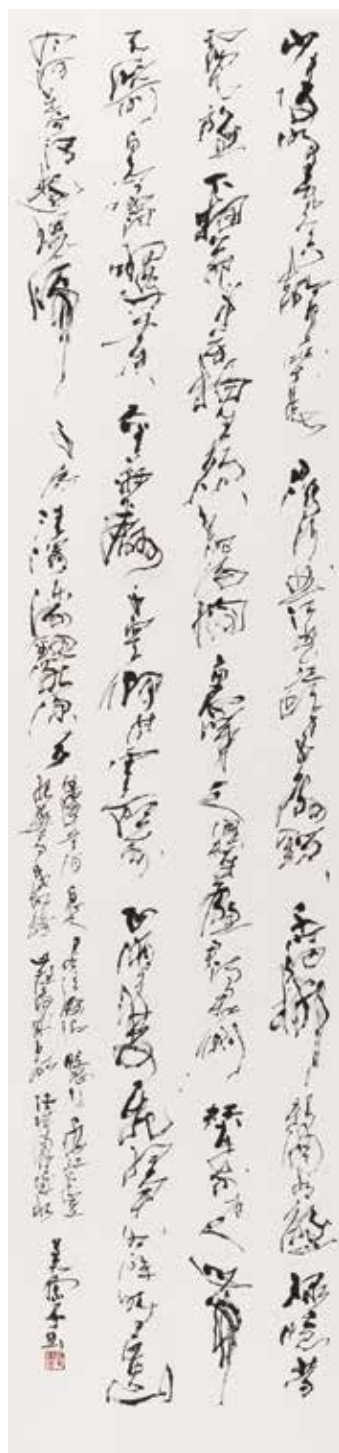
懷仙歌（李白詩）
我喜屋 ヤス子（準会員）
(227×53)



桐江二首
新里 智子 (準会員)
(227×53)



上門 蔡大鼎詩
かおり（準会員）
(230×52)



杜甫詩「哀江頭」
 豊平 美奈子（準会員）
 (228×53)



蔡大鼎詩
城間律子（準會員）
(228×53)



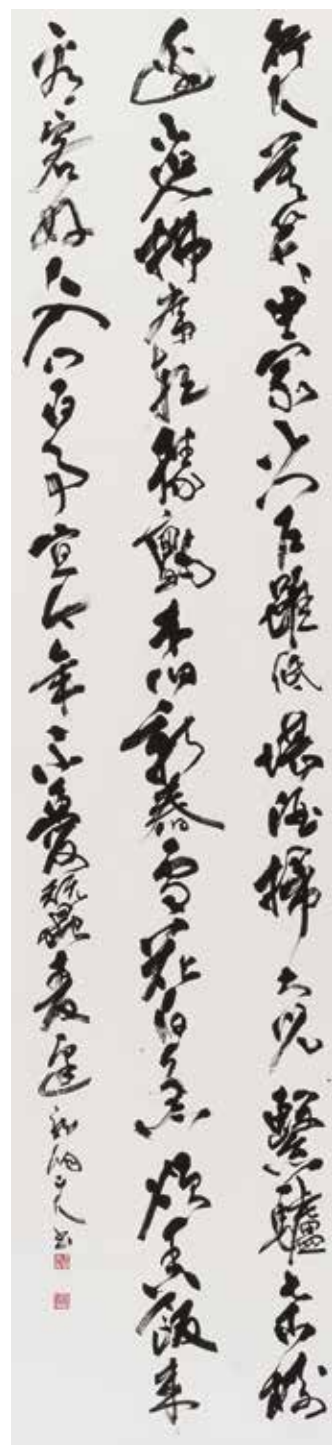
寒山詩
島尚美（準會員）
(240×53)



七言律詩三首
島崎サダエ（準會員）
(228×53)



石鼓歌（韓愈詩）
吉里恒貞（準會員）
(230×53)



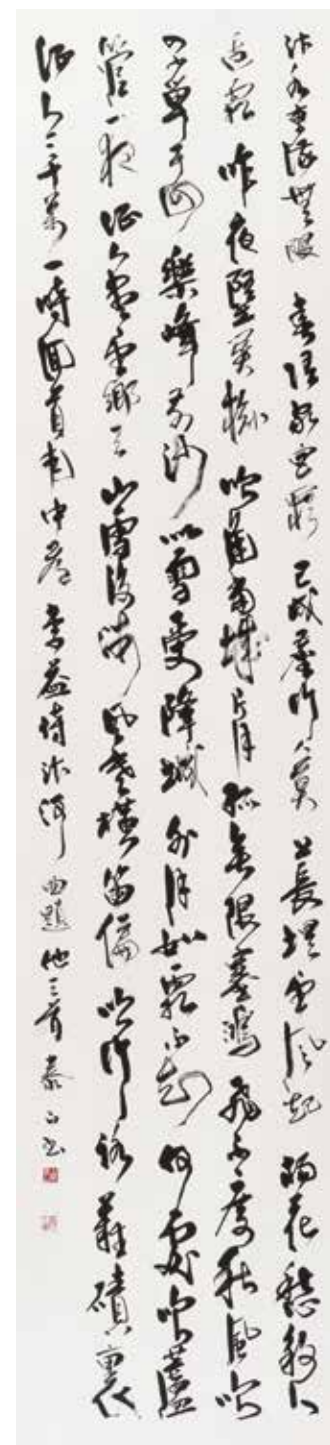
田家留家行
上地 徹 (準會員)
(227×53)



日暮進帆富春山 他三首
友利 通子 (準會員)
(228×53)



王陽明先生詩
幸喜 洋人 (準會員)
(234×53)



李益詩四首
上原 孝之 (準會員)
(227×53)



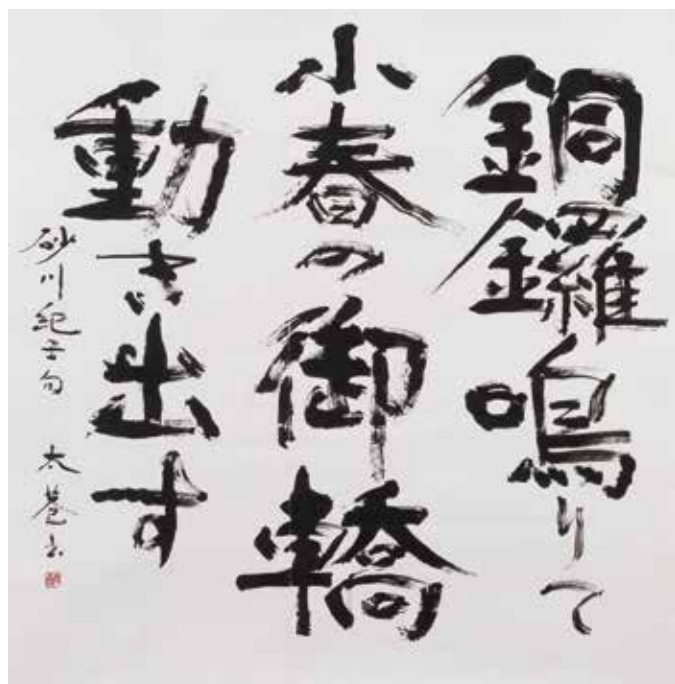
(180×36)

百人一首 吉田 優子 (準会員)



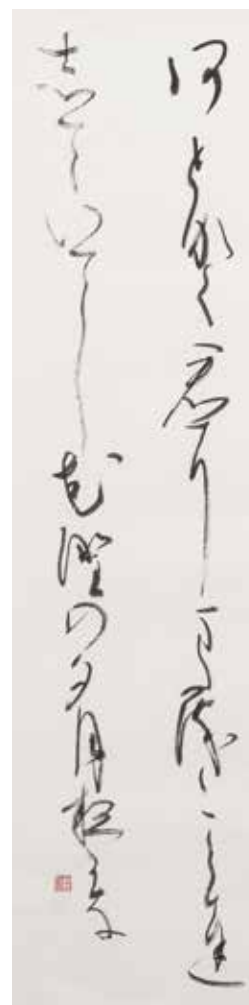
(60×180)

「宇宙洪荒」 松田 征子 (準会員)



(125×125)

銅鑼鳴りて
宮城 政夫 (準会員)



(140×35)

書芸 漢那 治子 (準会員)

準会員作品



(27×305)

百人一首抄 村山 典子 (準会員)



(60×178)

賀の歌 三首 新里 明美 (準会員)



(76×151)

茂吉のうた 本村 晴美 (準会員)



(70×40)

有職故実 頂天立地 敦篤虚静 万物逆旅 金城 多美子 (準会員)

沖展賞



辛酉上巳即事 他八首 新垣 恵津子

(227×53)

久米出身!!いわゆる唐榮（クニンダ）で通訳官として、福州や北京で活躍した蔡大鼎（サイタイテイ）の紀行漢詩九首を大字四行細字二行でまとめた隸書作品。

前半四行は後半二行に比べ大字で太く書き横への広がりを意識しながら、左右の行へ響き合い、なおかつ強靱な線で運筆されている。

後半二行の細字は、前半四行を支えるべく、主張しすぎ淡々と、極めて繊細な線で書き上げ、互いの相乗効果をあげている。また加工紙との相性もよく、見る者を魅了する。

「書は人なり」といわれている。明るく前向きで書に対する真摯な姿勢が今回の沖展賞へと導いたと思われる。

奇しくもこの作品に取り組んだ平成26年は「久米崇聖会創立100周年」にあたり、蔡大鼎の漢詩に出会えたのも縁といえよう。

今後も古典学習に励み、「自己の世界」を追求するよう、さらなる精進を期待する。

評－運天 雅代（会員）



(225×53)

楊思捷東郭草亭讌集他二首 松川 美智子

奨励賞

この作品から受ける印象は大自然を流れる小川のせせらぎを彷彿させる。微細の羊毛を使用し文字の多様化はもとより、文字群の楽しさ、墨色の潤濁の響きが絶妙である。字粒の大小が変化に富み見る者を心地良くさせる要素を十分に持ち合せている。

書は平面の芸術であるが、如何に立体的に表現するかで作品の出来が決まってくる。墨色の表現は、潤筆は優しさの表現になり渴筆は激しさとスピード感を表現し、醍醐味を増すのである。用紙は加工紙を使用、周囲の線質の囲みも効果を増した。

評—豊平 信則（会員）

奨励賞



(59×34)

受賞作は、氏の創り出す重厚な刻線と、余白美の表現が高く評価された。35年余の篆刻の研究による成果である。二顆の印は、篆書の修練に裏打ちされた揺るぎない刀法が魅力的だ。刻線は深く、一気呵成に運刀したと思われる。「不學牆面」（朱文）は、鄧散木を意識した作。「不」時の疎と、「學」「牆」「面」の密の処理は知的で、調和している。辺縁は、左辺下辺を厚くし、右辺上辺は軽く（欠けを多用）し、白を引き立たせ、明るい印に仕上げている。

「小人…不至」（白文）は、漢印を基調としている。多字数を巧みに布置し、刀法の切れも安定感がある。「善」字及び数箇所の撃は効果的に施されており、印面に緊張感を与えている。印影下部に配したそれぞれの側款は、造像記調でまとめ、統一性を強調している。また、「不學牆面」の側款には、印製作を楽しく取り組めた旨が記されている。側款の装飾を避け、本来のあるべき姿を指針してくれた。印の政策は、篆書の学習なくして、成果はほど遠い。さらなる精進と作品展開を待ちたい。

評—前田 賢二（会員）

不學牆面 小人間居爲不善 無所不至 上原 善輝

奨励賞



(60×180)

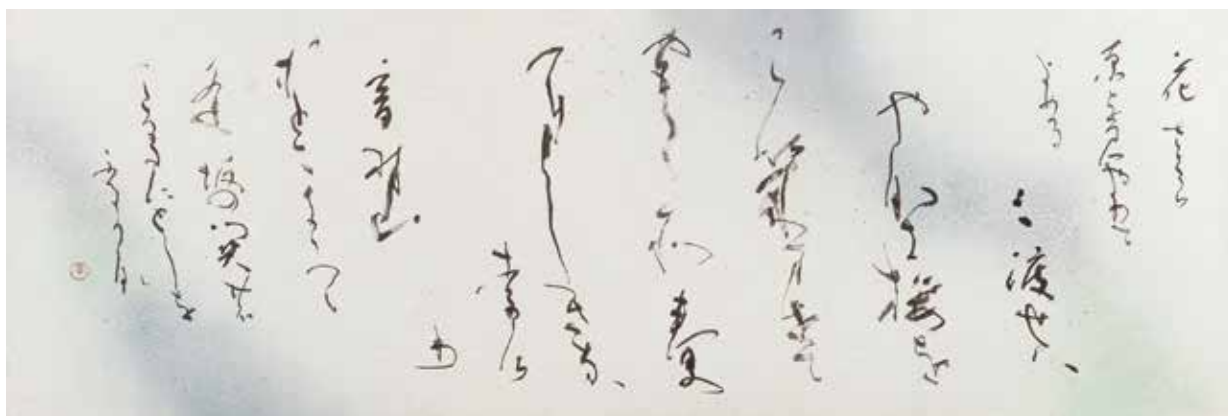
源氏物語より 石津 陽子

3回目の奨励賞受賞おめでとう。今回の受賞作品は、源氏物語の冒頭部分を美しい料紙に載せて品良くまとめ上げており、日頃の勉強ぶりが遺憾なく発揮された仕上がりになった。おだやかで伸びのある線質は観る者をかな書の世界に引き込み、ホッと一息つける暖かさを感じさせる。小さめの字粒、控え目の墨量で静かに書き出し、2・3行目のゆったりした行間も効果的であり、中央に向かって徐々に盛り上げてゆき、8行目『ぬかす』～9行目『き面記』を墨量多く山場としている。13行目からの3行も字粒を小さくしたことで終りに向かってのまとめに相応しく、周囲の空間が美しい。文字の大小の組み合わせ、隣の行との響き合い、脚部の処理等、全体構成もよく考えられた力作である。

今後も原点である古典臨書にしっかり取り組みながら、書に限らず多くの事から刺激を受け、感性を磨き、さらに精進を重ねてほしい。期待したい。

評一 小杉 紘子（会員）

奨励賞



(60×178)

やなぎ桜 渡慶次 喜代美

この作品の見所は、歌の詞書きを遠景にして控え目に入り、歌二首を近景と中間大に分け各々に強弱の変化を持たせたことで、一つの風景を作り出すことに成功した点にある。かな作品といえども、平がなのみを列挙しては全体的に軽くなり、落ち着きのない作品となってしまう。故に、漢字や変体仮名を適度に配分し、墨量にも気を配り調和させなければならない。この作品は、どの群においてもその度合が丁度良い。また、行間の凹凸も自然で、特に中央の「こ幾万世て」と「宮こそ春の」は字型をよく考え、隣を意識しながら運筆しているのがよくわかる。「耳しき」の「し」は中でも伸びと強さを兼ね、全体を引き締める大事な一本となった。そこに響く「音羽山」が後半の主役となり、ドラマを展開させている。「山」はやや急いだか。不安定な点も否めないが、最後まで続く微妙な変化の傾斜に作者の集中心と書き込み量を垣間見る事が出来る。

今後ますますの精進を期待したい。

評一 仲本 清子（会員）

浦添市長賞

日頃の臨書研究そして中央展への挑戦の成果を見る思いがする。受賞作は3行の大字と2行の小文字の5行構成の作品で、大字は主役となり小字は引き立て役となっている。書作表現の要素である文字の大小・肥瘦・潤渇・余白・疎密性の要素が内包され、それを料紙と墨色がマッチし作品効果を倍加している。また、練度の高い線質と潤渇の変化で奥行が出、見る人々を引きつける好作に仕上がっている。そして力味の無い淡々とした筆致が自然で好感もてる作となった。臨書の研鑽を重ね書技の向上を期待する。

評一大城 稔（会員）

三月三十日題慈恩寺
他五首 島袋 園子



(227×53)

うるま市長賞

李白の詩3首を、4行構成でまとめた作品である。きりりとした行間と、勢いのある力強い線、線と線の響きが印象的である。

また、筆の開閉、墨の潤滑をうまく組み合わせ、見る者を飽きさせない作品になっている。最後の行を、途中から細字の2行構成にしたことは、全体に満ちあふれるリズムミカルな動きを、静かな余韻をもって納める効果が最大限に発揮されたと思う。

顔真卿の臨書を続けた事が、線の強さにつながり、地道な努力が結果として現れたことを共に学ぶ者としてうれしく思う。今後のますますの精進を期待する。

評一田名 洋子（会員）



(227×53)

李白詩
仲宗根 司

沖縄教育出版賞

豊かな感性の持ち主だと思われる。

全国高校・大学書道展においても二度グランプリの大賞を受賞し、表現力・技量共に兼ね備える若手であり、現在大学四回生。

作品は、五十六文字の七言律詩。中国の明代を代表する王鐸を基調に書いたもので、筆者がこれまで培ってきた筆致や墨量の気づかいにより、文字群が、遠くに見える風景、近づく景色を情感豊かに表現されている。

展覧会サイズに取り組み七年目というが、歴代の入賞者の中でも稀有な存在といえる。これからも、さらなる高みを目指して精進して欲しい。

評—中村 裕美（会員）



(227×53)

秋興
國吉 真吾

写真部門

総評一翁長 盛武（会員）

一般応募は、178人301点。前回比で20人28点減。79人95点が入賞・入選し、入選率は31.6%で、昨年より上昇した。8人で審査し、挙手で入選95点を決めた。その後15点の賞候補に絞り込み、投票で沖展賞を含む6点の賞を決めた。今回の受賞で、東邦定さん、山内昌昭さん、池原徳明さんが準会員に推挙。一度に3人の準会員推挙は稀であり、大変喜ばしい。実力のある準会員が多数揃うことになり、次回のすばらしい作品を期待したい。学生は2人3点で1点増だが、入選がなく、沖縄教育出版賞は該当なし。準会員は8人8点が応募で、吉直新一郎さんと渡久地政修さんが、準会員賞を受賞。二人とも意欲・実力申し分なく、次回も、連続受賞を期待する。残念ながら、会員推挙はなし。

審査で印象に残ったことは、下記のとおり。

1. 写真が大型化。
2. 野鳥写真が多く、ある区域の池での写真が目立つ。
3. プリント技術が、前回より向上。

沖展賞の「激闘」は、画像に粒子を加えることで、迫力が増した。奨励賞の山内さんの「舞踏会」は、意図的に背景を暗く落とすことで、主役の鳥が浮かび上がり、評価が上がった。

まずは、見たままの自然なプリントができることが大切。しかし、上記両氏のように、もっと「表現」を前面に出して、見せたい主役を「強調」する、インパクトの強いプリントも効果的である。（但し、やりすぎると不自然になる）

写真歴の浅い方から、「どう撮れば良いか」の質問を、時々受ける。以下は、私の撮影時の注意事項。少しでも参考になれば、うれしい。

1. 光と影—早朝または夕方の斜光は被写体を立体的にし、黄色い光はドラマチックに。
逆光は、背景が暗くなり整理され、ラインライトも魅力的。影もうまく使う。
2. 物語性—物語ができた時、想像がふくらむような場面で撮る。
3. 動き—何かをしているとき、表情、しぐさが良い時、その場の雰囲気が出ている時。
他にもいろいろあるが、基本的には以上を常に意識して、いい構図で撮る。

おわりに、写真を思う存分に楽しんで、沖展にもどんどん応募してほしい。

会員作品

ストルトフィッシング	上	地	キミ子
ツェチュ祭り	大	城	信吉
廃車水面で光る	翁	長	達夫
うらめしや～	翁	長	盛武
祈り	金	城	幸彦
駐車場	崎	山	洋子
仲村家	島	元	智
なんくるないサ	末	吉	はじめ
やんばる路	普	天	間直弘
種子取祭の奉納芸能	前	原	基男
比地のウンガミ	山	川	元亮
歩道	山	田	實

準会員賞

風の盆	渡久地	政修
生きる！	吉直	新一郎

準会員作品

流氷にオジロワシ	上	地	安隆
パワースポット	仲宗根		直
ブルーインパルス	平	井	順光
カワセミの捕食	前	田	貞夫
日課	真栄田	義和	
祈り	宮	城	和成

沖展賞

激闘	東	邦定
----	---	----

奨励賞

十三夜の竜骨船	池	原	徳明
覗き見	大	川	盛安
舞踏会	山	内	昌昭

浦添市長賞

マジックアワー	天	久	ゆういち
---------	---	---	------

うるま市長賞

ママ友	小	出	由美
-----	---	---	----

一般入選作品

憩い——安 里 涼 子
 出発！——安 里 涼 子
 屋下がり——安 次 嶺 まり子
 視線——東 邦 定
 風の盆——新 城 直 美
 辺境の民——石 垣 末 子
 想いを繋ぐ——稲 福 晃
 秋日——稲 福 晃
 我家の野鳥——稲 福 政 吉
 絶好調——今 村 守
 窓際のくつろぎ——伊 禮 正 二
 古城伝説——伊 禮 宗 信
 孤独な咆哮——上 原 聡
 添い寝——宇 栄 原 格
 怪獣捕えた！——宇 栄 原 格
 熱演——上 間 美奈子
 静かな夜明け——宇 久 田 全 正
 69年目の供養——内 間 秀太郎
 二十歳（はたち）——内 間 秀太郎
 朝日を浴びて——おおきゅうこう
 浮き橋と散策——大 城 勝 子
 連動——大 城 勝 子
 平和の光——大 嶺 自 栄
 夜空に咲く花——我 喜 屋 明 正
 夜空の競演——加 藤 晴 美
 太古の森——兼 島 正
 春——亀 島 重 男
 ニューモデル——亀 島 重 男
 超ハブニング——金 城 文 子
 北国——金 城 光 男
 ファンタジー——金 城 光 男
 鏡像——具 志 明
 里山情景——幸 喜 あかり
 もみじ物語——幸 喜 あかり
 水影——島 尻 郁 美
 長寿へのご褒美——島 袋 進
 おねだり——城 間 千代江
 人・人・人——城 間 由美子
 氷上の暮らし——城 間 由美子
 光の向こうにある幸せ——しんざとえいじ
 秋日和——新 里 ゆきえ
 彼方へ——祖 慶 良 勇
 MS瞬間——高 田 和 泰
 街角——高 良 拓
 雨中翺翔——田 畑 智 義
 悠久の島のアート——玉 城 律 子
 鎮魂の祈り——知 念 和 範
 寒い朝——知 念 信 雄

大地の鼓動——知 念 嘉 和
 アカショウビンの朝食——当 真 嗣 和
 海面宙返り——渡 嘉 敷 清 子
 空中散歩——渡 嘉 敷 清 子
 森のステンドグラス——渡 具 知 武 美
 陽だまり——長 堂 哲
 栄光をめざして——仲 原 功
 何があるの——仲 原 功
 向こうに見える風景——並 里 和 子
 サキカタミヤー——西 平 守 光
 残してネ——花 城 雅 孝
 一心不乱——花 城 雅 孝
 異次元空間 in Paris——原 国 政 裕
 雪国の暮し——比 嘉 源 栄
 冠水のなごり——比 嘉 功 助
 晩秋の陽ざし——比 嘉 佐智子
 影——比 嘉 聡
 日々の暮らし——比 嘉 盛 昭
 視線——平 田 善 信
 絆——福 増 俊 夫
 三者三様——福 増 俊 夫
 パレード——本 庄 和 子
 いにしえの宴——真 栄 城 浩
 母のぬくもり——真 栄 田 静 子
 朝ぼらけ——前 田 正 重
 光景——又 吉 英 男
 太古の履歴——松 門 重 雄
 記憶の彼方へ——松 田 光 子
 なかゆくい——嶺 井 時 光
 夢の回廊——宮 城 昭 夫
 魚“ギョウ”——宮 城 文 正
 自然の活け花——宮 城 米 子
 ぶくぶくしゃぼん玉——みやら 文
 木漏れ日に魅せられて——銘 莉 節 子
 アイムハングリー——森 江 直 子
 青春の息吹——諸 見 里 恵 子
 アートで遊ぼう——安 田 正 昭
 天空の舞い——山 内 弘 子
 激戦——山 内 弘 子
 水辺のハンター——山 内 昌 昭
 異空間ゲート——米 田 恵 子



うらめしや〜 (79×144) 翁長 盛武(会員)



廃車水面で光る (82×110) 翁長 達夫(会員)



比地のウングミ (59×80) 山川 元亮(会員)



駐車場 (87×62) 崎山 洋子(会員)



ストルトフィッシング (93×123)
上地 キミ子(会員)



ツェチュ祭り (62×81) 大城 信吉(会員)



種子取祭の奉納芸能 (82×113) 前原 基男(会員)



仲村家 (90×150) 島元 智(会員)



なんくるないサ (81×57)
末吉 はじめ(会員)



祈り (115×84) 金城 幸彦(会員)



歩道 (52×63) 山田 實(会員)

準会員賞

生きる！(80×110) 吉直 新一郎(準会員)

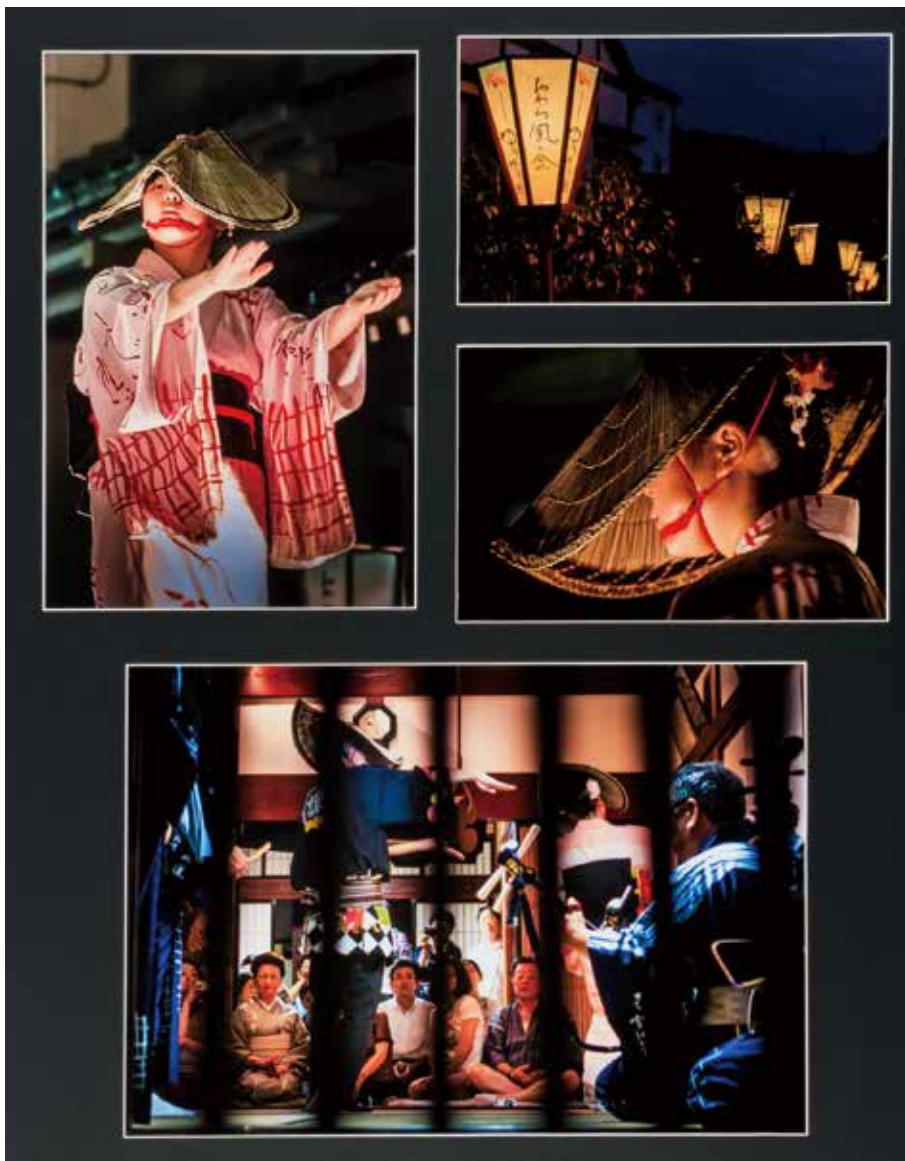


吉直さんは、ヤンバルクイナを撮り始めて7年目になる。週末になるとやんばるの森にこもり去年はヤンバルクイナの夜の生態「時」で沖展賞を受賞し準会員に推挙され、今回はヤンバルクイナを撮影中に背後の「バサッ」と言う音で枯れ枝に止まっている「リュウキュウコノハズク」を見つけ、すかさず5カットほど飛び去るまでに撮影したと言う。ピントを確認するためモニターの画像を拡大すると片目がつぶれているのに気づき、再度周辺を捜したが発見できずその後も幾度となく現場周辺の撮影では気に留めているが出会いは叶えられていない。どのような理由で片目を失ったのか、暗闇の中片目で餌を捕らえるのは困難だろうに厳しい自然界で「生きる」希少種の貴重な記録写真となった。一期一会を大切にし瞬時の判断で的確なシャッターを切るのは容易ではない。加えて写真表現として丹念にレタッチをして幾種類ものペーパーでテストプリントを重ねて「生きる！」は完成した。

評—大城 信吉(会員)

準会員賞

風の盆 (120×90) 渡久地 政修(準会員)



菅原洋一が歌う。「あんな悲しい夜祭が世界のどこにあるだろうか」と。9月1日～3日の期間に40万人が訪れるといわれる、富山県八尾市の「風の盆」祭りの起源、由来など当日のローカル紙は詳しく解説していた。元禄15年（1702）3月が起源、二百十日前後の台風到来時節に、稲の被害回避、豊作祈願の祭りを「風の盆」と言う。日暮れとともに、どこからともなく一人また一人現れて、やがて歌い手、三味線、胡弓、踊り手、の一团が「街ながし」という練り歩きを始める。いくつもの一团がどこかで、明け方までながす。「夜ながしを追いかけて下駄の鼻緒も切れるだろう」歌に誘われ神秘的な「夜ながし」に引きつけられても、「風の盆」をカメラにおさめるにはそれ相当の技能、執念が必要な超難関の祭りと言えらると思う。ストロボ禁止、薄明りの街頭やぼんぼり、何より人、人、人の波。あの中で、入賞に値する写真を撮った、作者の作品に対する意気込みに、感嘆の息が漏れる。心からおめでとの言葉をおくる。

評—島元 智(会員)



祈り (66×128) 宮城 和成(準会員)



ブルーインパルス (70×72) 平井 順光(準会員)



パワースポット (56×82) 仲宗根 直(準会員)



日課 (76×62) 真栄田 義和(準会員)



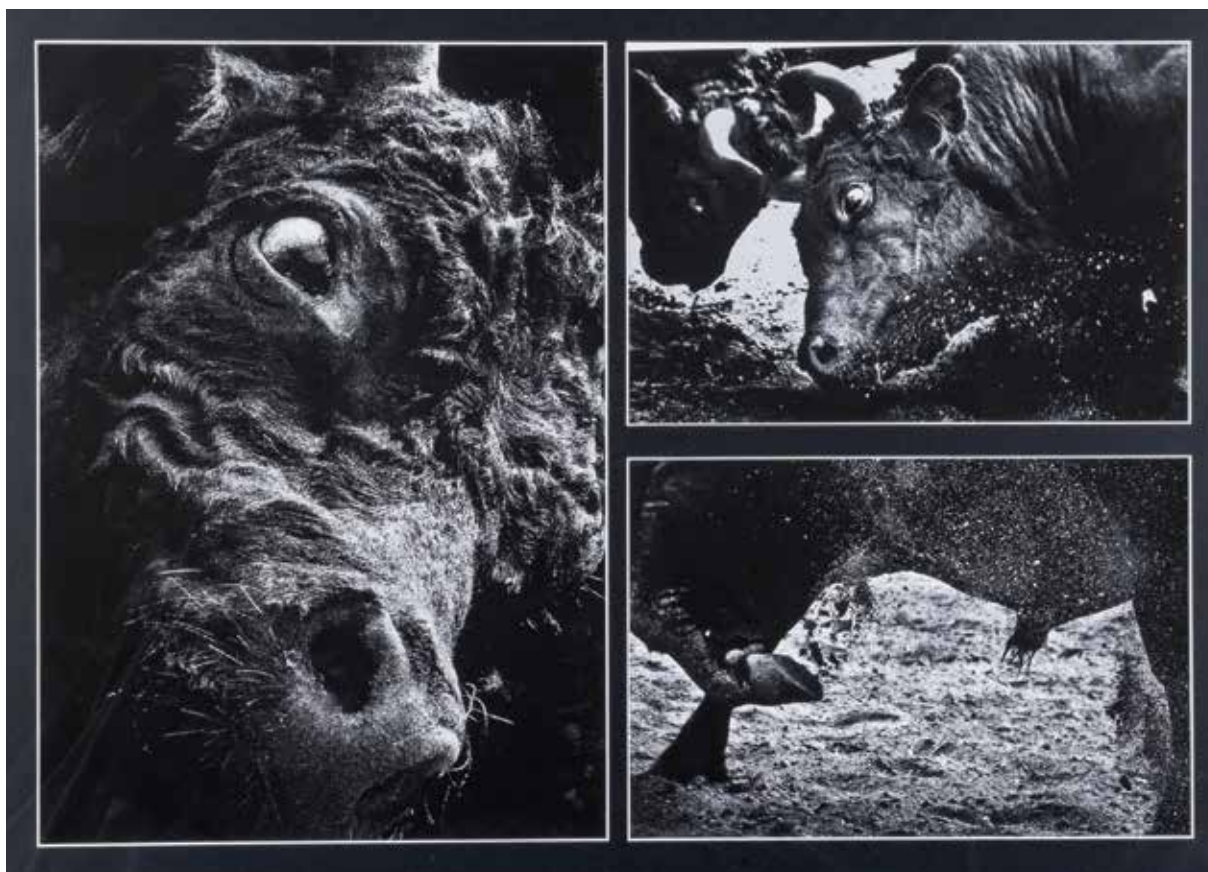
流水にオジロワシ (117×92) 上地 安隆(準会員)



カワセミの捕食 (103×73) 前田 貞夫(準会員)

沖展賞

激闘 (86×106) 東 邦定



闘う眼力のすごさを強調しつつ、闘う前の土をかきあげる一瞬を捉えた力作だ。素粒子とハイコントラストの表現効果によるリアル感と緊迫感が作者をして、しっかり表現できたと解する。これまで発表されてきた闘牛写真と明らかに違う点は、左のアップ写真の捉え方で、眼力を中心に、顔全体の毛並と光の強弱による立体感を如実に表現したところである。光の状態と角合わせそして眼や体の動き等瞬時の観察力と決断力がなければ傑作をものにするには厳しい。

氏は2011年、2013年に奨励賞を受賞した。この度の沖展賞で、準会員へ推挙された。山原から新しい風（作風）を吹き込むことを期待する。おめでとう

評—金城 幸彦（会員）



奨励賞

舞踏会 (81×108) 山内 昌昭

豊見城市の三角池で早朝に右からの斜光を受けスポット側光で露出(補正-2)をつめて黒くしたらしい。サギの形、くちばしの赤、羽の白と美しさ、繊細さ、そしてダイナミックさを際立たせる光線状態を選ぶことでより立体的表現ができています。

水面の舞台で何を思い踊っているのか獲物をみつけたのか。作者は踊っているように見えたらしくタイトルを舞踏会としている。

何度も足を運びチャンスをキャッチしたと思うカメラアングル、シャッターチャンスともに非の打ちどころのない作品。

評-翁長 達夫(会員)

奨励賞

十三夜の竜骨船 (115×84) 池原 徳明

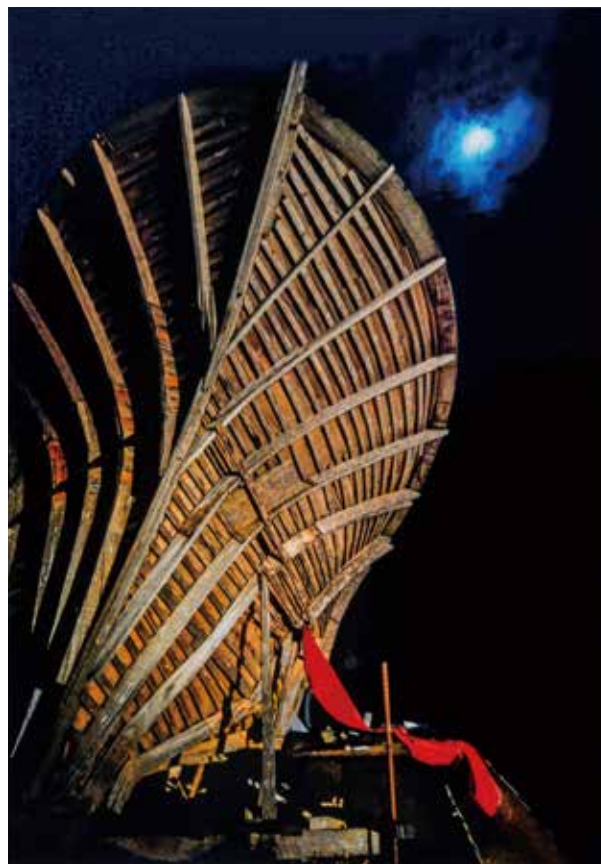
池原さんは初出品の第62回展で浦添市長賞。第64回展で奨励賞。昨年は奨励賞。今回の連続受賞で準会員への推挙が決まった。

今回の受賞作も一貫した作風で、モチーフの選定や表現意図である色彩や構図、画面構成が技巧的に表現されていると思う。カメラの撮影位置を低くした、ローアングルで、船首を見上げるように、縦位置構図で撮影している。また、船体の右下に、流れるように置かれている赤い帯。十三夜の月を情緒的に撮影し、被写体の脇役にした画面構成が良い。

作者は、竜骨船を撮影するために、何度も現場に通ったが、日中の自然光では意図する作品が撮れないことから月が最も地球に接近するスーパームーン2014の月夜に、自家用車のヘッドライトを船首に当て、照明の角度を変えながら、月の座標位置と被写体との位置を考慮しながら夜間撮影している。

作者の思考の深さや意欲と執念が連続の受賞になったと思う。

評-前原 基男(会員)





奨励賞

覗き見 (56×74) 大川 盛安

楽器店のシャッターに描かれている顔。有名なアルバムのジャケットである。目、鼻、口とインパクトのある顔だ。特に目は凄い。女の子が持っているスマホを覗き見している視線もバッチリ合い、ユーモラスでもあり不思議な感覚である。

今回は、視線を女の子に向けるのが一番のポイントで、タイトル通りうまく表現されている。

シャッターの閉まった、ひと気の少ない時間帯の商店街、絵になる題材をうまく見つけた。

大川さんは写真を始めて、わずか2年で入賞を射止めた。グループで出かけたり個人で撮影に行く事もあると思う。カメラのシャッターを多く押し続け、また、いろんなジャンルの違う被写体にも挑戦する事で、自分の得意とする被写体を見つけることができる。これからも斬新なアイデアで益々の活躍を期待したい。

評—崎山 洋子（会員）

浦添市長賞

マジックアワー (57×82) 天久 ゆういち



夕景や朝景の入選はかなり難しい沖展。その中で脚光を浴びたのがこの作品だった。北谷町美浜の象徴として君臨する観覧車は、写真愛好家が一番多く撮影する被写体である。観覧車の写真はたくさん見てきたが、今回のようにたくさん様相を入れて撮った臨場感を彷彿させる写真は少ない。映り込みの優雅さ、観覧車の動きと形、雲の流れる様子、街燈の四方に広がる光等まさに美浜の今の情景を夕焼けと観覧車と海面反射をコラボ表現した感性と撮影意欲に賞賛を贈りたい。特に観覧車上方のグリーンがポイントになり、スローシャッターを駆使した表現が奏功した力作。入賞まことにおめでとう 次回作品にも期待したい。

評—金城 幸彦（会員）



うるま市長賞

ママ友 (62×51) 小出 由美

あるプロの方が、審査する基準について述べていた。「見えないものが写っている」。それがいくつかの基準の中のひとつだと。テクニック至上主義的な写真が多く見られるご時世、述べられている基準が頭から離れないまま、今回の審査に当たった。小出さんの作品にはサルが写っている。が「見えないもの」も写っている。“ママ友”は決して見えるものではないがそれが写っている。このテーマが心に掛りシャッターを切ったと聞いた。人間のママ友が引き起こした悲しい事件を知っている小出さんであったからこそ、この「見えない」ママ友が見えたのかも知れない。この一枚の作品から、人間社会も見えるような気がする。厳しい制限時間の中での撮影であったと聞いたが、強いテーマが先にあったことが、この作品を生んだと思う。テクニックは大事だが、それはあくまで「道具」であり、それを使うのはやはり感性だと思う。作者の感性に惜しめない拍手をおくる。受賞おめでとう。

評—島元 智（会員）

工芸部門(陶芸)

総評—玉城 望 (会員)

陶芸部門は、応募数74点、入選・入賞51点だった。審査員14人の過半数の挙手により、入落を決定した。入選が決定した作品の中から審査員が投票をくりかえし、厳選の結果各賞が決定した。

今回も多種多様な幅広い作品が揃った。近年の作品傾向としては、沖縄独特の技法を用いた作品が減ったように思われる。

昨年に比べ応募点数が減った事は残念であるが、それでも準会員賞・大宮育雄さん、沖展賞・田里博さん、奨励賞・照屋晴美さん、町田智彦さん、浦添市長賞・谷口室生さん、うるま市長賞・玉城若子さんと各賞が選出される作品の出来ばえであった。

準会員賞「唐草模様染付大皿」の確かな技術力・沖展賞「壺2015-1」の技術力に加え、シルエットの美しさは、やはり審査会場において存在感があった。

各受賞作品選評については、各担当者に委ねる。

沖展は、春を彩る県内最大の美の祭典である。伝統的作品、現代的作品、オブジェ、シーサー等であれ、土と向き合う事に何ら変わらない。多くの方に土と向き合い挑戦する作品を出品してほしいと思う。

今回学生の出品がなかった事を大変残念に思う。ぜひとも出品し来年度は、「沖縄教育出版賞」が出る事を大いに期待している。

最後に会員推挙・大宮育雄さん、準会員推挙・田里博さん、おめでとう。

会員作品

俵型花器	新垣	勲
窯変壺	新垣	修
厨子甕	上江洲	茂生
シリーズ銀河 060	親川	唐白
マンガンにこし獅子頭	小橋川	昇
粉引壺	島	常信
うふ面シーサー	島袋	常栄
呉須釉指描皿	島袋	常秀
嘉瓶	玉城	望
半胴	松田	共司
藍釉鉄絵壺	山田	真萬
立型親子シーサー	湧田	弘

準会員賞

唐草模様染付大皿	大宮	育雄
----------	----	----

準会員作品

掻き落とし花器	新垣	寛
焼締壺	伊禮	邦夫
焼シメ シーサー	山内	米一

沖展賞

壺 2015 - 1	田里	博
------------	----	---

奨励賞

黒対獅子	照屋	晴美
赤絵皿	町田	智彦

浦添市長賞

染付鉢	谷口	室生
-----	----	----

うるま市長賞

三彩シーサー	玉城	若子
--------	----	----

一般入選作品

龍巻壺	栗國	輝男
緑の造形	新垣	栄
スウヌ華 (潮の花) 釉壺	新垣	安隆
花三島大皿	新垣	安隆
赤絵魚文尺皿	池野	幸雄
赤絵唐草文尺皿	池野	幸雄
黒彩獣足菓子器	石倉	一人
黒獅子	石倉	広之
藍塩釉孔付三足器	伊志嶺	達雄
緑塩釉孔付三足器	伊志嶺	達雄
深海シリーズ	伊良波	幸繁
「夜明けの海」 青白組鉢	宇土	秀一郎
搔落自由人文尺鉢七寸鉢セット	江口	聡
金獅子	大石	美智子
岩獅子	大海	陽一
南蛮荒焼大徳利	大城	雅史
南蛮荒焼甕	大城	幸男
焼き締め呉須鉛釉刷毛打ち流しかいらぎ		
尺五皿	小原	高弘
鎗抱瓶	金城	彩子
凜	具志堅	興人
瑠璃釉掛花器	幸地	良丈
アメ釉厨子	小林	恵
睨み	佐野	壽雄
流昇	座間味	昌彦
シーサー	座間味	昌彦
三彩組鉢セット	下地	葉子
シーサー	新里	みお
黒彩筒描幾向文壺	田中	淳貴
緑釉花型祝宴組盛皿	玉城	若子
花火	渡嘉敷	勇
サガリバナ	仲村渠	哲夫
キビ釉・面取壺	坡座	真善
三島扇型魚文抱瓶	濱崎	悟
サンゴ礁内の魚群	比嘉	正徳
花器	比嘉	孝雄
面シーサー	比嘉	武夫
キビ釉壺	比嘉	裕之
嘉瓶「滄海」	前原	常男
彩の想い No2	前原	常男
希望	松尾	暢生
龍の如く。	神谷	幸江
黒釉搔落し耳壺	宮城	三成
花三島四方口壺	宮城	健二
唐草文皿	山城	尚子
嘉瓶	吉村	明
南蛮荒焼き透かし彫り	與那嶺	大輔



俵型花器 (H23×W17×D24) 新垣 勲(会員)



呉須釉指描皿 (H12.2×W54×D54) 島袋 常秀(会員)



窯変壺 (H24.5×W28×D28) 新垣 修(会員)



マンガンにごし獅子頭 (H45×W45×D40) 小橋川 昇(会員)



シリーズ銀河 060 (H48×W32×D24)
親川 唐白(会員)



立型親子シーサー 口開(H28×W35×D23) 口閉(H27.5×W35×D23)
湧田 弘(会員)



粉引壺 (H29×W30×D30) 島 常信(会員)



半胴 (H40×W47×D47) 松田 共司(会員)



藍釉鉄絵壺 (H60×W33×D33) 山田 真萬(会員)



厨子甕 (H62×W47×D35) 上江洲 茂生(会員)



うふ面シーサー (H50×W50×D25) 島袋 常栄(会員)



嘉瓶 (H47×W20×D20) 玉城 望(会員)

準会員賞

唐草模様染付大皿 (H14×W60×D60) 大宮 育雄(準会員)



大宮さんはこれまで確かな轆轤引きの力量と優れた絵付けの技術で何回も準会員賞候補に上がってきたが、その手馴れた絵付けの仕事が豪快な轆轤引きを弱いものになっている面があり、今一步という所だった。しかし大宮さんは長年、沖縄の土味や釉薬を生かした仕事を追求してきており、今では沖縄独自の焼物の良さを表現できる素晴らしい作り手の一人である。

今回の唐草模様染付大皿は豪快な轆轤引きに呉須釉染付模様のリズムカルさが心地良く、迷いの無い仕事から、これまでの作者の真摯な姿勢がうかがえる大作となっている。

今後はその豪快な轆轤の力量に大胆な絵付けが伴うと、もっと力強い作品が生まれてくるものと思う。

評—新垣 修(会員)



焼シメ シーサー (H50×W30×D30)
山内 米一(準会員)



焼締壺 (H58×W38×D38) 伊禮 邦夫(準会員)



掻き落とし花器 (H27.5×W47×D39) 新垣 寛(準会員)

沖展賞

壺 2015 - 1 (H44×W46×D33) 田里 博



田里さんは、2012、13年の奨励賞に続いての沖展賞受賞である。審査員全員一致で準会員に推挙された。おめでとう。

受賞作品は彼が得意とする多面体の壺である。2013年の作品に比べ、この作品は角がとれて全体にふっくらとした器面になっており、釉葉は明るい辰砂釉が一方に掛けられ、辰砂釉の縁に銅の青が発色したために重量感がありながらより華やかになっている。器形は、方形になった小さめの底面から次第に膨らみを持たせているが、膨らみの左右が上下に微妙な高低差があることから、バランスが崩れてしまいそうだが口が中央にしっかりと収まっているために緊張感を保っている。器の膨らみに沿って楕円にした鉄釉に正確に入れられた銀彩の縦の線が現代的な雰囲気を表現しており、多面体の器とよくマッチしている。全体に高い技術が駆使された出色の作品である。田里さんは毎回意欲的な作品を出品しており、その制作姿勢に大きな期待を寄せる若手の一人である。今後も目が離せない作家である。

評－親川 唐白（会員）

奨励賞

黒対獅子 (H65×W53×D32) 照屋 晴美



照屋晴美さんは過去に浦添市長賞と今回、奨励賞二度目の受賞である。

作品の黒対獅子は高さ、幅、左右のバランスがとても良く、マンガン釉の色艶も良かった。獅子作りでは本人の父親や祖父の作品に倣いその丁寧さ細かさバランスの良さなどしっかりとした形を自分のものになっている。

さらなる精進を期待したい。

評—小橋川 昇（会員）

奨励賞

赤絵皿 (H13×W53×D53) 町田 智彦

一昨年はうるま市長賞受賞、昨年は沖縄賞受賞、今年の奨励賞と連続3回目の受賞である。今回の受賞作品赤絵皿は直径53cmの大皿でロクロ成形技術と上絵付の巧みさとがうまく一致表現されている作品である。

この種の作品はしっかりしたロクロの成形力が必要である。無地の白化粧透明釉の全面にフリーハンドで赤絵幾何学模様（本人）を表現していく力量はなかなかの努力家である。これまでの受賞出品作からもこのようなデザインの流れがある。これからも自分の得意な面を生かしながらさらに意欲的な作品を出品される事を期待したい。

評—島袋 常栄（会員）



浦添市長賞

染付鉢 (H14×W44×D44) 谷口 室生



谷口さんの染付鉢は今回増えてきた白化粧掛けの作品の中でも重厚な形と大らかな染付けで存在感があった。一見、重たそうな形だが手に取ってみるとさ程重くも無く、程良い深さが用の器として安心感を感じさせる。

染付けも器の形に合った大胆さが良い。しかし筆さばきにスピード感が無く、躍動感に乏しいのが残念だった。筆さばきは大胆な程躍動感に欠けると、絵付けがやばったく見えるので難しい仕事のひとつと言えよう。

筆さばきのスピード感、躍動感は数多く仕事とこなすことで身に付いてくるので、今後もこのような仕事を続けて、さらに素晴らしい作品が生まれてくる事を期待したい。

評—新垣 初子（会員）

うるま市長賞

三彩シーサー (H40×W26×D36)
玉城 若子

赤土で作り上げたシーサーの巻き毛の先端が、やたらととんがっているが、化粧掛けや釉薬を施すことによって、温かみが出た。明るく、力強く、生命力に満ちた躍動感を感じる。そして、大きな鼻にぎょろっとした目、大きな口が一見恐ろしそうに見えるが、その風貌が愛嬌を秘めている。また、両足をしっかり前に踏みだし、胸の張りの強さを出すことで、何ものにも動じない、威風堂々とした、迫力のあるシーサーに仕上がったと思う。

評—島 常信（会員）



工芸部門(漆芸)

総評一系数 政次(会員)

一般応募8点(7人)、準会員作品3点での審査であった。審査の結果、準会員賞1点、奨励賞1点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点、入選5点となった。受賞作品については、会員が詳しく講評しているので、ここでは今後の琉球漆芸を盛り上げていくためには、どうすれば良いかについて述べたい。

琉球王朝時代には献上品として制作されていた煌びやかな漆器。昭和初期には中央や海外を市場とした製品の製造を積極的に行い、デザインの斬新さ、狂いがなく堅牢であることで、輸出に最適な漆器であると評価された。1983年には通商産業大臣からグッドデザイン商品選定、部門別大賞も受賞するなど、輝かしい実績があった。今、製作者の悩みとして、狂いがなく堅牢な漆器を制作するにあたって木地であるデイゴやエゴノキ、拭漆技法に適した材であるセンダン、テリハボク、ガジュマルの入手困難、堆錦加飾をしたいが堆錦餅が作れないなどの課題がある。今後、木材店との連携で原材料を確保し共同で購入できる体制、業界や作家から堆錦餅を購入できる体制を構築することができれば、県産材による拭漆作品や堆錦加飾作品なども増えるのではないかと考える。

来年3月には県立芸大の漆芸分野1期生が卒業する。卒業生が中央や海外に羽ばたくための登竜門としての沖展にするためにも、会員、準会員、漆芸を志している皆で切磋琢磨し漆芸を盛り上げ、往時の琉球漆芸に負けられないように頑張りたい。それから、琉球漆芸だけではなく日本漆芸の作品も鑑賞することによって学生が勉強できるので、ぜひとも出品して頂きたいと願う。

最後に、受賞者の皆さんおめでとう。

会員作品

黒漆丸小箱「星間飛行」	赤	嶺	貴	子
朱漆丸小箱	赤	嶺	貴	子
梯梧造黒塗盤	糸	数	政	次
芭蕉雀台付三段丸重	金	城	唯	喜
堆錦総張り料紙箱「竜」	後	間	義	雄
春の器	前	田	國	男
朱塗螺鈿鉢集散	前	田	孝	允
紅漆塗螺鈿蒔絵盛器	松	田		勲

準会員賞

チトセラン蒔絵(虎/尾)乾漆緑漆塗水指 大見 謝 恒 雄

準会員作品

蒔絵棗「春に」	照	喜	名	朝	夫
螺鈿堆錦厚手鉢(海)	前	田		栄	

奨励賞

浮遊(ふゆう) 宇 野 里依子

浦添市長賞

螺鈿乾漆花器 津 波 静 子

うるま市長賞

櫨拭漆盛器 大 城 清 善

一般入選作品

堆綿桜塗立て菓子器	嘉	手	納	ゆ	かり
乾漆蒔地尺碗瑠	玉	城	昌	代	
乾漆花器ゆしびん	津	波	敏	雄	
乾陶胎水さし3点セット	津	波	敏	雄	
葉書入レ木彫木地呂塗	與	那	嶺	勝	正



堆錦総張り料紙箱「竜」(H4.5×W15.5×D21)
後間 義雄 (会員)



紅漆塗螺鈿蒔絵盛器 (H8×W32×D32) 松田 勲 (会員)



芭蕉雀台付三段丸重 (H38×W29×D29)
金城 唯喜 (会員)



黒漆丸小箱「星間飛行」(H12.5×W15.5×D15.5)
赤嶺 貴子 (会員)

準会員賞

チトセラン蒔絵（虎ノ尾） 乾漆緑漆塗水指（H17×W19×D19） 大見謝 恒雄（準会員）



作品は身の部分を乾漆素地で蓋はデイゴ材を用いて、葉にまだら模様があるところから虎ノ尾と呼んで親しまれている和名「チトセラン」という植物を、緑漆地に研出蒔絵技法で表現した水指。緑漆地を庭の芝生に見立ててチトセランをひと塊ではなく、前後左右にちりばめ奥行きのある模様を配している。まだら模様の部分は、銀粉をベースに少々金粉を蒔いて表現し、葉は乾漆粉の緑と黄色を使い19cmの円柱の曲面にバランスよく配置されている。蓋は、デイゴ素地に琉球下地であるニービ下地を施した、狂いがなく堅牢な作りになっている。外側を研出蒔絵に身の内側と蓋は蝋色漆による花塗で仕上げており優れた作品である。審査では、全員一致での受賞となった。準会員賞受賞おめでとう。

評一条数 政次（会員）



螺鈿堆錦厚手鉢(海) (H4×W25×D25) 前田 栄 (準会員)



蒔絵棗「春に」 (H6×W8.5×D8.5) 照喜名 朝夫 (準会員)

奨励賞

浮遊（ふゆう）（H25×W25×D25）
宇野 里依子



今回漆芸部は冲展賞がなく、この作品が唯一奨励賞になった。漆芸のこれまでの常識を覆し、風船のような球体に仕上げている。宙に浮いたように見せるため、ピアノ線を使い宙づりにしている。製作はゴム状の球に麻布等何度も塗り重ねる乾漆の技法で、つまり布と漆のみで仕上げている。模様は青貝と卵殻を使い右巴紋として球体を引きたてている。漆芸部の出品も毎回少なくなる傾向にある。特に今回は、テンプス館において18名の漆芸展があり、そのことが影響しているのではないかと考えられる。同時期であったことが残念に思う。特に若い人たちであった。次回からは若い彼らの出品に期待している。工芸は物を入れたりする器だけでなくこの作品のように飾り物も工芸である。それがこの作品が評価された理由である。

評一前田 孝允（会員）

浦添市長賞

螺鈿乾漆花器（H14.5×W76.5×D17）津波 静子



毎回乾漆という難しい技法で出品し、作品への意欲が感じられる。さらに今回の作品は造形・加飾などに工夫・進歩がみられた。

造形の面でラインをゆるやかに変化させることで、冷たくなりすぎず、やさしい印象となった。朱と黒の塗り分けも効果的である。

内側に溝を入れることは技術的に難しく、今回はその効果が弱かったが、高度な技術に挑戦し創作面において細かいところに工夫がなされている。

全体的に仕上げの面でもう少ししっかり艶上げをすると、微塵貝の加飾もより生かされたと思う。次回も意欲のある作品を期待したい。

評一赤嶺 貴子（会員）

うるま市長賞

櫟拭漆盛器 (H10.5×W42.3×D42.3)
大城 清善



拭き漆盛器はケヤキの木で作られた大きめの盛器で漆塗り、拭き、磨きと数十回くり返して極限の光沢が出ている。それが審査員の目に止まり初受賞となった。ただ木工芸か漆芸かと考える作品ではあるがそれは今後会員を含めた課題でもある。

大城さんは自ら木工をたしなんでいないので漆芸に出品したと聞いた。浦添美術館で行われている漆芸講習会で螺鈿、沈金、堆錦とすべて受講されており、加飾も出来ると思うのでワンポイントでもよいから入れてみてはどうかと思う。作品のバリエーションを広げる事で新しい発想も生まれて来ると思うので頑張ってほしい。

評—後間 義雄（会員）

工芸部門(染色)

総評一外間 修(会員)

今年の染色部門では一般の応募者及び応募点数15点、その内、学生の出品が1点であった。また準会員の出品も1点と少し残念な出展となっている。出品作品の内容は帯地7点、着尺1点、着物6点、タペストリー2点であった。作品としての表現は皆、創意工夫して取り組んでいるが、例えば着物ならば着た人がどう美しく見えるか、帯を締めた際どのように柄が出てくるか、タペストリーはどのような空間に飾る等の事も考えて制作に取り掛かるとより豊かな表現ができるのではないと思う。

受賞作品も今回は準会員賞1点、奨励賞1点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点と少ないが技術や表現ともに良く制作されている。特に準会員賞の紅型着物「美ら海浜」は作者の努力した経緯がみてとれた。その他の受賞作品については第67回沖展図録にて審査に参加した会員がそれぞれの評を書くため割愛させていただく。なお、出品作品全体の評として今回落選はなかったが、細かな点での技術的な経験の浅さから出るミスや、創作模様に果敢に取り組む姿勢は評価できるが着る際に模様がはたしてどのように効果的に出てくるのか、どのような場面で使用されるかを工芸品としてもう一度考慮して取り組む必要がある。分からない事が有れば会期中に作品の解説会等も予定しているので参加し質問して頂きたい。

会員作品

紅型着物「珊瑚華火」—— 城 間 栄 市
紅型着物「南懐路」—— 城 間 栄 順
紅型帯「唐花模様」—— 外 間 修
紅型着物「フクシャの花 模様」外 間 裕 子
タペストリー(筒引両面染)
「牡丹」—— 宮 城 守 男

準会員賞

紅型着物「美ら海浜」—— 仲 松 格

奨励賞

紅型着物「山咲群星」—— 迎 里 勝

浦添市長賞

紅型着物「クリスマスローズと
山カンダの花遊び」—— 瑞慶山 和 子

うるま市長賞

紅型帯「満開のブーゲン
ビリア」—— 平安山 由 美

一般入選作品

紅型帯「南洋こもれ日」— 安 里 昌 泰
紅型染舞踊衣装
「やんばる讃歌」—— 大 橋 伸 正
紅型帯「山や川や」—— 幸 喜 明 子
紅型帯「宝づくし」—— 近 藤 裕 子
紅型帯「さわふじの幻惑」— 城 間 弘 子
紅型帯「東ぬむいから」— 染 谷 唯
紅型着物「丸藤花文様」— 知 念 冬 馬
琉服(ウッチャキー) 筒描き両面染
「南島旅情」—— 筒 井 慶 子
タペストリー
「思い出の風景」—— 當 山 雄 二
紅型着尺「微温む」—— 永 吉 剛 大
タペストリー「ざわわ、ざわわ・・・
伸びるよ伸びる！」—— 真境名 照 子
紅型帯「とっくりきわた」— 山 本 ふじの



紅型着物 「珊瑚華火」(178×138)
城間 栄市 (会員)



紅型着物 「南懷路」(178×138)
城間 栄順 (会員)



タペストリー 筒引両面染「牡丹」
(200×90)
宮城 守男 (会員)

準会員賞

紅型着物「美ら海浜」(178×130)

仲松 格 (準会員)



沖縄の美しい海岸を思い浮かべる風景に、古典紅型を連想させる図案の構成で海の生物やサバニ（漁船）等の漁に用いる道具といったモチーフを斜め模様にとめて表現している。海や海岸をイメージさせる模様はこれまで、いろいろな作家に取り上げられてきたモチーフなので審査の際は厳しく見られがちだが、今回の作品では以前からの課題であった柄合わせや配色の濃淡、海の題材を染める生地にもこだわった麻生地を使って仕上げてあり、作者の作品に懸ける意気込みがうかがえ2回目の受賞となった。

準会員賞おめでとう。次回から会員として運営の方にも携わってもらう事になるが伝統工芸としての紅型をより良い形で残せるよう共に努力していただきたいと思う。

評—外間 裕子（会員）



奨励賞

紅型着物「山咲群星」(180×140)
迎里 勝

5度目の奨励賞受賞で準会員推挙である。おめでとう。確かな技術と構成力が評価されて今回の受賞になった。今回惜しかったのは、地染めの後に施した隈取りの表現が今ひとつだったこと。新しい技法に挑戦する事はとても勇気がある事だが、その中で自分らしい表現を確立して行ってほしい。

評一城間 栄市（会員）

浦添市長賞

紅型着物「クリスマスローズと山カンダの花遊び」
(170×170) 瑞慶山 和子

昨年の上り市長賞に続き今年の浦添市長賞。二年連続での受賞は素晴らしいと思う。

作品は昨年に次いで着物の制作で本人のやる気が感じられた。黄色地にクリスマスローズと山カンダの図案を用いている。沖縄ではあまり聞かれないクリスマスローズは冬のイングリッシュガーデンに用いられる植物で知られ、紅型の図案では初めて見た気がする。このように本人の好きな花を図案化するのは作品に思いを込めるためには良い手段だと思う。また、この作品は総柄の着物に見えるが部分的に配色を変えて絵羽模様を作っている。ただこの技法は難しく、出来れば仮縫いで印を付けて型置きをする事を勧める。

技術的なことを言えば柄合わせや配色等の注意する所もあるが、積極的に出品してきた作者の前向きな姿勢が感じられた作品となり今回の受賞となっている。

評一外間 修（会員）





うるま市長賞

紅型帯「満開のブーゲンビリア」(536×36)
平安山 由美

ブーゲンビリアをパターン化し、ヌージグマを効果的に配した優しい色合いで、さわやかな安定感のある作品に仕上がっている。

一部、型のつながりのズレが気になった。その点を改善するだけでも、全体の印象がより良くなると思う。

仕事をしながら作品を作るのは大変なことだが、様々な意見を聞く事は、よい成長の機会になると思う。頑張してほしい。

次回作も期待している。

評—宮城 守男（会員）

工芸部門(織物)

総評一多和田 淑子(会員)

織物は経糸と緯糸が交差し布となり、色は織色として現われ、模様は経糸と緯糸が織り成す景色といえよう。作者の想いとたゆまぬ努力で得た技術によりイメージ通りの作品を織りあげることができる。

今回の応募作品は技術の向上と作者の制作意図がみてとれ、多種技法の併用も多くみられレベルは年々上がっていると感じる。

応募作品は一般26点、学生0、準会員3点であった。一般応募では最高齢85歳の方の作品もあり、伝統的な仕事の素晴らしさ、創作への情熱、製作意欲を持ち続ける大切さを教えていただいた。若い方々も負けずに頑張ってください。

沖展賞「空に咲く」は機の上で緯経糸を引きずらし、模様を作る手法で織られており、ビーマ紜の面白さ、軽やかさが際立ち全体の調子も良く好感のもてる作品である。

準会員の作品はいずれも力量が発揮された作品である。準会員賞「星の子」は作者の繊細な感性が織りあげた個性が輝く作品であり、太さの異なる苧麻糸の上手な組み合わせ、紜をくっきりと染め上げる綿使いなど創意工夫があり美しい織物である。他奨励賞2点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点が選出された。

織では素材である経糸・緯糸の選択、織度にあった箆目の使用、適正な緯糸の打ち込みは基本であり十分に考慮して制作にあたってほしい。

仮仕立て作品は仕付け糸を取ることと着物の畳み方に十分配慮をお願いしたい。

会員作品

八重山上布着物「緑風」——新垣幸子
八重山上布 星の舞——糸数江美子
琉球紺藍染付下風十字 20 玉——大城一夫
絹紜に花織 スティナ衣裳——祝嶺恭子
響(宮古上布)——新里玲子
煮綴芭蕉布着尺「九年母色花織」——平良敏子
花織帯地——多和田淑子
はなむすび——長嶺亨子
紜織着尺「マユビチー」——真栄城興茂
首里花織着物「ひな祭りⅢ」——ルバース・ミヤヒラ吟子
福木地両面浮花織着尺——和宇慶むつみ

準会員賞

「星の子」——仲宗根みちこ

準会員作品

梅花の香りにほっこり(読谷山花織) 新垣隆
両面浮織 菱形文地 青緑色の光景——宮城奈々

沖展賞

空に咲く——島袋知佳子

奨励賞

芭蕉布九寸帯地「タタマシトゥヤー」——鈴木隆太
琉服ウッチャキー(打掛)「珊瑚の海」——能勢玲子

浦添市長賞

知花花織着尺「その先へ」——花城美香

うるま市長賞

浮き草——島袋領子

一般入選作品

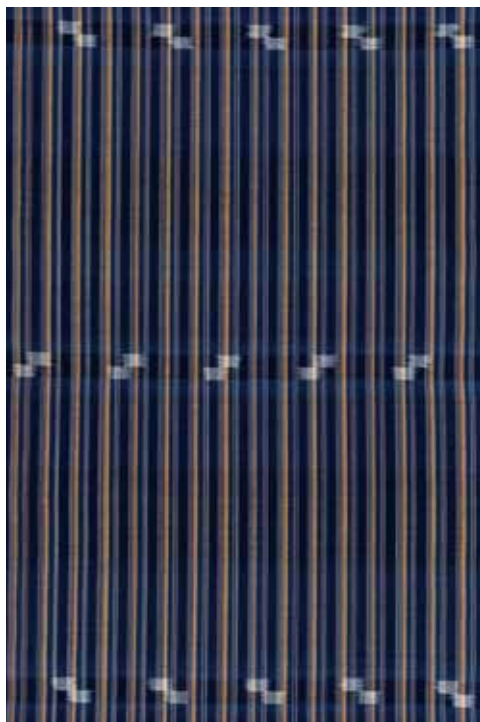
ハテの浜——川前和香子
春の風——川前和香子
久米島紜(チョーバン重び)——高坂エミ子
宮古上布十字紜 21 種着尺——島袋朝子
知花花織帯地「葉」——新門伊咲美
宮古上布——洲鎌ツル
心象墨彩——高良智子
花倉織帯地「うららか」——玉木由香
久米島紜——桃原禎子
揺れる穂花——中野夢
早春の風香——中野夢
八重山上布 竹の葉——中村澄子
「ミクロコスモス」——花城美弥子
「早春の風」——羽地美由希
首里花(紜)織帯地——比嘉瑠美子
ぶどうの木——比屋根千晴
市松花紜織着物 花筏——深石美穂
知花花織六通柄帯地——又吉朝江
首里花織帯地(若菜摘む)——吉本敏子



煮綴芭蕉布着尺「九年母色花織」(1280×38)
平良 敏子 (会員)



八重山上布 星の舞 (1400×39)
糸数 江美子 (会員)



紺織着尺「マユビチー」(1300×38)
真栄城 興茂 (会員)



はなむすび (1350×39)
長嶺 亨子 (会員)



絹緋に花織 スディナ衣裳 (128.5×141.8)
祝嶺 恭子 (会員)



琉球緋藍染付下風十字 20 玉 (185×175)
大城 一夫 (会員)



準会員賞

「星の子」(1400×39)

仲宗根 みちこ (準会員)

昨年、今年と二度目の準会員賞で会員推挙おめでとう。

良質な手績苧麻糸の減少している現状で、いつもながら糸を大切に使用し作品に生かしている。私も織手の一人として大いに学ばねばと思っている。

細目の地糸に太目の糸や、紺糸を染色するために白に漂白された糸が、おたがいに重なった格子柄の地模様に織り出され、良い効果となっている。しかし、紺柄のデザインにおいて今回の作品は商業的イメージが感じられ、もっと創意工夫がほしいと思う。力量を発揮されることを願っている。

評—新垣 幸子 (会員)



両面浮織 菱形文地 青緑色の光景 (173×142)
宮城 奈々 (準会員)



梅花の香りにほっこり (読谷山花織) (170×170)
新垣 隆 (準会員)



沖展賞

空に咲く (540×36)

島袋 知佳子

八重山の白上布、手績み苧麻。素材の美しさが存分に発揮されている逸品と評された。地括りという難度の高い技法で白地に藍の紺を浮かばせている。図柄の構成も上下向きを変え反転させるなど効果的である。経の縞文も若者らしい斬新な表現で空間を補っている。

評—祝嶺 恭子（会員）



奨励賞

芭蕉布九寸帯地「タタマシトゥヤー」(500×35)

鈴木 隆太

作者が住む、宜野座の民話を題材に今回制作したとことで、「タタマシトゥヤー」とは、主人公の漢那ヌールという女性の別名らしい。

従来の沖縄の絣柄で言えば、井形の中に銭玉（お金）という事になるが、作者は題材にそって、御膳とお碗に見立てて絣制作を行い琉球藍と車輪梅で染め分けて、デザインに心地良いリズムをつけている。そして、芭蕉の糸づくり、地括りの絣づくりなど、手間のかかる地道な作業を自分のイメージを大切にしながら制作している様子が作品から伝わってくる。

今回、準会員に推挙された。真摯な制作姿勢は誰もが認めている。今後とも精進されて創作力や技術が、さらに向上される事を期待している。

評—真栄城 興茂（会員）

奨励賞

琉服ウッチャキー（打掛）「珊瑚の海」(170×145)

能勢 玲子

奨励賞、受賞おめでとう。能勢さんの今回の作品「珊瑚の海」は古典的な柄「シチガーラー」を取り入れ染色や柄配置などに工夫が感じられる。特に印象的なのはシチガーラーの中にパンジヨー柄がうまくマッチしている点。斬新で全体的に引き締まった高品質な作品に仕上がっていると思う。

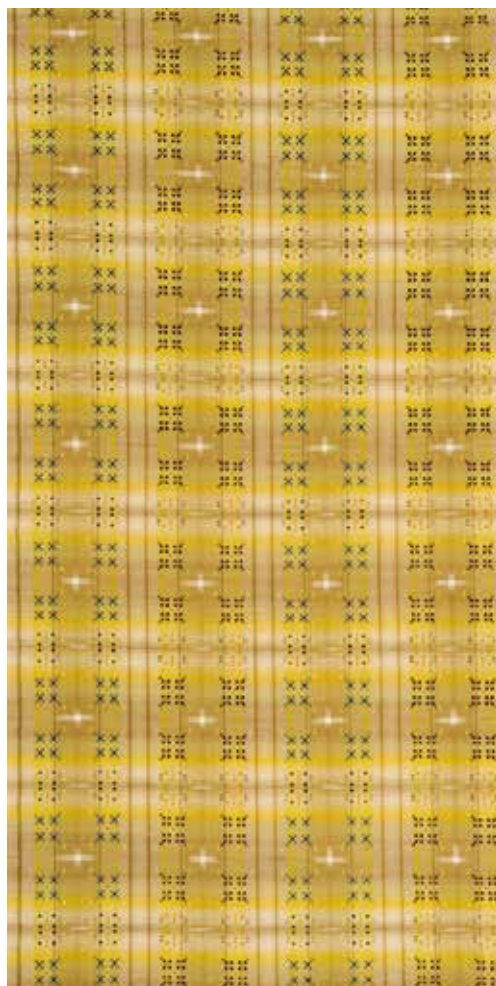
今後さらに精進し優れた作品作りを期待している。

評—大城 一夫（会員）



浦添市長賞

知花花織着尺「その先へ」(1280×39)
花城 美香



第64回の奨励賞、昨年の第66回のうるま市長賞受賞に続き今年度も高い技術で丁寧な製織された作品が評価された。

連続した経浮の花織と緯縞のデザイン構成はやや堅く、凝り過ぎた感はあるが、植物染料のやさしい色相いが、全体を柔らげていると思う。創作意欲の伝わる作品に織り上がっている。

評一和宇慶 むつみ(会員)

うるま市長賞

浮き草 (1300×39)
島袋 領子



明るいグレーを基調にこまやかに配色された縞や線、小花を散らした「浮き草」は春の陽ざしを浴びた水面を思わせる。

爽やかな雰囲気作品は透明感があり、品の良い美しさがある。

丁寧に織られた花織は控え目で、もう少し空間処理を考慮した方が良かったのではないと思う。作者の個性をより一層発揮してほしい。

今後の活躍を期待する。

評一長嶺 亨子(会員)

工芸部門(ガラス)

総評一宮城 篤正(会員)

ガラス部門は従来吹きガラスが主流であったが、近年は電気ガマ使用やバーナーワークによる作品の応募が増え多種多彩である。ガラス工房以外にワークショップなどで制作するガラス愛好家の増加によるものと考えられる。

前年比で一般応募者、点数共に微増傾向にある一方、準会員出品の減少が悩みの種となった。今回久しぶりに沖展賞が出た。準会員賞共に力作であり、レベルアップを実感させた。まず準会員賞大城尚也作品「荒海」(高さ40cm)、沖展賞我謝良秀作品「大地の恵み」(高さ65cm)で、いずれも堂々たる大作で存在感がある。奨励賞照屋大海作品「土紋青緑鉢とグラスセット」は若者のフレッシュさに溢れている。

一方の奨励賞古賀雄大作品「薫風」はデザインと技術がうまく調和している。浦添市長賞村石信茂作品「紫陽花」は6個の球状の花を自由自在に配置出来て遊び心も演出可能である。彼は今年の奨励賞に続く受賞である。うるま市長賞比嘉奈津子作品「白影」はベネチアングラスの技法を駆使した繊細さが際だつ作品である。

ガラスの特性を生かした楽しさや遊び心も欠かさない要素である。また、作家の創作性や工芸本来の用と美の追究に加えて個性豊かな意欲作を次回も期待したい。

会員作品

金彩飾皿(ハイビスカス)	池宮城善郎
三彩泡花器	稲嶺盛吉
土紋三彩鉢	稲嶺盛吉
大地	平良恒雄

準会員賞

荒海	大城尚也
----	------

準会員作品

うみのね	比嘉裕一
------	------

沖展賞

大地の恵み	我謝良秀
-------	------

奨励賞

薫風	古賀雄大
土紋青緑鉢とグラスセット	照屋大海

浦添市長賞

紫陽花	村石信茂
-----	------

うるま市長賞

白影	比嘉奈津子
----	-------

一般入選作品

蠱惑	伊敷寛光
春、うらら(花器)	伊敷寛光
銀舞	大城尚之
霞桜	恩蔵善教
流光	恩蔵善教
滴り、宿る	梶川聡子
あじさい	兼次貴恵
ダイバーズバブル	兼次直樹
マンサクノハナ	兼次直樹
Kerama blue(ケラマブルー)	寿紗代
ホタルガラス紅 尚と葉	坂本長七
ホタルガラス翠 千の明	坂本長七
晶玉グラスセット	柴田尚実
Spiral(飾り皿)	平良直之
カプセルボウルセット	竹内祐貴
水滸の灯	竹内祐貴
春風小鉢セット	玉城晃
土紋花入れ	照屋大海
ガラスの昆虫(イサトウ、ハサマー、カラジキュー)	當山みどり
祝(褐色大皿)	友利龍治
雪の妖精(水差しセット)	中野幸治
青流	仲本庄吾
グラスセット	野原智
黄緑花鉢セット	松田将吾
レインボーボトル・ワイングラスセット	松田英吉
心色	宮城辰喜
ニンジングラス	宮城友紀
珊瑚の塔	宮城雄治
珊瑚皿	宮城雄治
sea fruit	森上真
トンボ玉 タマサイ(北海道アイヌ、装飾品)	吉岡基
化石×ガラス	吉田栄美子
植物×ガラス	吉田栄美子



金彩飾皿（ハイビスカス）（H8×W62×D62）
池宮城 善郎（会員）



三彩泡花器（H27×W25×D20）稲嶺 盛吉（会員）



うみのね（H21×W32×D20）比嘉 裕一（準会員）

準会員賞

荒海 (H40×W40×D40) 大城 尚也 (準会員)



受賞作、荒海は存在感のある大ぶりの器で、色彩、バランス共に無難に仕上げられている。大物に見られがちな、細部の欠点やぐらつき等もなく、作者の力量の高さがうかがえる大作である。今回で二度目の準会員賞受賞であり、会員推挙となった。今後もますます精進し、創作活動に取り組んでほしい。

評—池宮城 善郎 (会員)

沖展賞

大地の恵み (H65×W40×D40) 我謝 良秀



受賞作、大地の恵みはタイトル通り、アンバーをメインに自然の大地からの生命力をランプに表現した大作である。ベース部分に対して笠の部分の弱さや、銀箔の使い方等課題も残るが全体的にうまく仕上がっており沖展賞に値すると評価された。作者は2009年の浦添市長賞以来の受賞だが力量は着実に向上しており、今後の創作活動に期待したい。

評—池宮城 善郎（会員）

奨励賞

土紋青緑鉢とグラスセット

中鉢 (H9×W30.5×D30.5) グラス (H10×W9×D8.5) 照屋 大海



緑色とブルーを基調とした土紋鉢グラスセットは、大らかで好感がもてる作品である。形状も陰りがあり、深々しい色調をかもし出している。

今後一層の精進を期待している。

評—稲嶺 盛吉（会員）

奨励賞

薫風 (H6×W17.5×D17.5)

古賀 雄大

古賀雄大作品「薫風」にはフレッシュな感覚があふれている。

昨年「漁火想」を出品して入選、今回が初めての奨励賞受賞の快挙である。組鉢のサイズを均一にする技術や蝶や花をサンドブラストで黒線だけを残し、鉢全体に紫や水色、黒などで渦巻状に施した文様の調和は見事である。さらに鉢の高台を工夫するなどアイデアも評価される。

色彩の派手さを極力抑え、黒線を強調した図柄が品位を高め、より印象深い作品に仕上がっている。

次回作も期待したい若手ガラス作家である。

評—宮城 篤正（会員）



浦添市長賞

紫陽花 大(H12×W15×D19) 小(H10×W12×D15)
村石 信茂



昨年の奨励賞に続き今年は浦添市長賞である。受賞作は電気炉を使った技法で紫陽花をランプの色形で表現された作品である。吹きガラスの表材を3センチほどにカットして電気炉で温めて球本体に重ねて付ける。こうした技法を加えることで宙吹ランプとは、また違う味わいがある作品。全体の印象としては三色の色合が部屋の環境によって選ぶことができる作品でもある。今後の創作活動に大いに期待したい。

評—平良 恒雄（会員）

うるま市長賞

白影 (H49×W11.1×D11.1)
比嘉 奈津子

受賞作「白影」はクリアガラスの特性をうまく引き出し、部分的に、ベネチアン技法も組み入れた秀作である。白影のタイトルを意識して器のサイドをサンドブラストする等、ホットワークとコールドワークをバランスよく駆使して仕上げてはあるが、カッティングした上部の接着物が強度的に課題として残る。

初出品で初受賞でもあり今後の創作活動に期待したい。

評—池宮城 善郎（会員）



工芸部門(木工芸)

総評一前田 孝允(会員)

沖展に木工芸が設置されたのは2010年、第62回展で最も新しい部門である。これまでは芸術の総合展に相応しくなく選外になる作品があったが、回を重ねるごとに優れた作品が増えた。ただ毎回出品点数が少ないのは寂しい。今回は落選1点であったことは全体的に内容がよくなったと思う。また、新しい技法が導入され、木工の進歩を感じた。沖展賞の水ガラスや、入賞にはならなかったが、木粉を樹脂で固める技法はじめてみた。また、浦添市長賞のパン皿は全体にミジン貝塗りになっているが注意深く見ないと気がつかない。他にも珍しい技法があった。

入賞作品について軽くふれたい。沖展賞の金城修さんは大宜味の特産シークワサーの木で皿や碗等小物が多かったが今回は、沖縄で最も木目が美しいとされ、船の骨材にも多く使われた堅い木を使い仕上げは水ガラスの新しい材料を使っている。直径45cm 高さ42cm の大きなヤラブが入手できた事は驚いた。木工は木との出会いがあってこそのことである。奨励賞の平良勇さんの椅子は数種の県産材を使い造形的にも優れた作品で、仕上げはオイル塗りである。人の体に優しい塗料を使っている。彼の優しさが伝わってくる。同じく奨励賞の津波敏雄さんの文庫は二段重である。ふたが桐箱のように静かに空気を抜いて落ちるのは見事な技術で、材も木目が美しく入手困難なタモ材が使用されている。これも木とのめぐりあいである。

会員作品

M家の椅子たち(4点セット)—— 崎 山 里 見
ミンサー柄象嵌入り花台—— 戸 眞 伊 擴

沖展賞

ヤラブの大壺—— 金 城 修

奨励賞

ZAI—— 平 良 勇
拭漆呂色仕上文庫—— 津 波 敏
書道用小道具3点セット—— 與 那 嶺 勝 正

浦添市長賞

栓空螺鈿夫婦パン皿—— 親 川 勇

うるま市長賞

飾り棚(象嵌)—— 奥 間 政 仁

一般入選作品

柄空家族鉢—— 親 川 勇
MEMOホルダー(見てほシーサー)
と菓子皿5点セット—— 漢 那 憲 次
出合い—— 玉 城 正 昌
テーブル—— 松 田 忠



ミンサー柄象嵌入り花台 (H9×W43×D30) 戸真伊 擴 (会員)



M家の椅子たち (4点セット)
左から (H72×W52×D52) (H111×W53×D80) (H103×W58×D75) (H73×W54×D52)
崎山 里見 (会員)

沖展賞

ヤラブの大壺 (H42×W45×D45) 金城 修



沖展賞は挽物（ひきもの）による「ヤラブの大壺」である。素材はテリハボク、ヤラブによるものであり、塗料は「水ガラス」となっているが、摺り漆ふうにしり込んだものである。挽物による大物の壺であるが、内側までていねいに挽いている。難しい技を駆使していることが分かる。金城さんはこれが初めての受賞であり、今後大いに期待できる人であろうと思われる。受賞、おめでとう。

評—崎山 里見（会員）

奨励賞

書道用小道具 3 点セット (H10×W45×D40)
與那嶺 勝正



クワディーサー（和名モモタマナ）材を用いた筆箱、硯、水差の3点セットである。この材を用いた物作りは、極めて珍しい。戦後、仏桑華がハイビスカスと呼ばれるようになってイメージが大きく変化したように、この木もまた平和の礎とともに近年注目されるようになった木である。しかし、この木の持つ負のイメージを完全に払拭するにはまだ時間が掛りそう。材質は重厚で比重はリュウキュウコクタンやソーシジュに近く魅力がある。作品の硯は乾漆粉を蒔いてマサツ強度を高めている。塗りは摺り漆で20数回塗り重ねられ、ツヤに深みがある。しかし、木ハダの仕上げの荒さが塗りムラとなっているのは残念。筆箱のフタ裏のルーター加工跡が適度の模様となっていて面白い。全体として技術の安定した優れた作品として評価できる。

評－新垣 吉紀（会員）

奨励賞

ZAI (H109×W61.5×D66)
平良 勇

昨年の第66回展ではロッキングチェアを出展して奨励賞を受賞、それに続いて2度目の奨励賞である。最近の創作は椅子をテーマに精力的に続けておられる。

作品名を「ZAI」としたのは木材の「材」からとって名付けたと聞く。今回はとりあえず自分の身の回りにある材料だけで、諸々を駆使して制作に励んだと語る。

椅子の全体像は面長で直線を主にした構成となっている。色彩は渋色にまとめられ、どっしりと落ち着いた感じである。そのなかでも座面に使用した琉球松の白色はひときわ目立った役割を果たしている。なお、その座面には自然木の節穴があり、それが全体的に多い直線に対する和らげになっている。

ひとつ不思議に思ったのはこの椅子には肘掛けが片方しかないことである。肘掛けは左右にあるものだと決めつけていたが、左側の肘掛けだけで右側がない。しかし実際に座ったり立ったりする動作を繰り返してみても、不思議と違和感がなくスムーズにできた。作者に聞くと木工芸の世界ではよくあることだと知らされた。

図面に裏打ちされた材と材の繋ぎはジョイントを意識して制作したと思われる。豊かな感性と秀でた木工技術にこれから多いに期待している。

評－富元 明雄（会員）



奨励賞

拭漆呂色仕上文庫 (H12×W31×D20)
津波 敏雄



見たとたんだれもが木目の美しさに目を引かれるであろう。タモ材は木工製品には決して少なくないがこのような木目の美しい材は、そう多くはない。彼は友人に特注してめぐり合えたようだ。二段の重箱であるが、それぞれの段をずれない様に作り、最後にフタをかぶせた時、空気がぬけるようにゆっくりと閉まる。それは桐箱ダンスが下を閉めると上段が飛び出すように、それをタモ材で仕上げたのは、よほどの技術が必要である。彼は昨年にも沖縄展賞を、漆で仕上げていた。彼は工芸に境界線はないとの考えで、漆で出来るあらゆる分野にチャレンジするという哲学を持っている。従来の考えにとらわれず、常に新しい製品の開発につとめている。今回の作品は木目の美しさに目をうばわれがちだが決してそうではなく技術と木とのめぐり合いで製作された優品である。その実力をかわれて準会員に推挙された。

評一前田 孝允（会員）

浦添市長賞

栓杓螺鈿夫婦パン皿 (H1.5×W21×D21)
親川 勇



ロクロ技術による栓（セン）材を用いたパン皿2点セットである。栓材の持つ明るくて清潔なイメージと薄くてシンプルな造形が心地良く調和して完成度の高い仕上がりとなっている。塗装にはガラスコートの技法が用いられ、混入された微塵貝のさりげない発色が透明感のある杓目をより強調している。

沖縄の伝統的な挽物技術は主に漆器素地作りが中心であったため加工法も小口材を用いた横挽きに限られていたが、近年は透明塗装が主流となっており、用材にもそれほどこだわらなくなった。今後は加工技術の多様化と共に創作アイテムの広がりも注目される。

評一新垣 吉紀（会員）

うるま市長賞

飾り棚(象嵌) (H70×W54.5×D22)
奥間 政仁



沖展に木工芸が創設されて今年で6年目になるが、奥間氏は初回から出品し奨励賞2回、浦添市長賞1回を受賞し、今回はうるま市長賞という快挙である。木工芸の常連であり、これまでに出品された作品には縦横に細かい木質の違う素材を組み合わせて裏表に微妙な模様を造る質の高い技術や象嵌の技法を取り入れて、毎回工夫された作品を出品されている。今回は機能性とデザイン性を加味した「飾り棚」である。樟・西洋センダン・米檜葉という材質の違った素材を活かした構成である。材質には硬軟や質感があるので、その特徴が分からなければ出来ない。感覚と経験によって創作された作品である。象嵌のデザインに一工夫する必要があると感じた。

評—西村 貞雄（会員）

物故会員 略歴

【書芸】 定歳實勇 (号：静山) (1927～2014)

1927年（昭和2年）石垣市生まれ。八重山研墨会の初代会長、日本書道連盟石垣支部長、書道玄海社八重山支部長、八重山美術会会長を歴任。書道の後進育成にも励み、沖縄書芸部門の審査員を務めた。

日本書道院展、東方書道展、玄海展、墨滴展でも活躍された。

1986年（昭和61年）沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞

1990年（平成2年）八重山研墨会設立

1996年（平成8年）八重山毎日文化賞正賞を受賞

1997年（平成9年）藍綬褒章を受章した

2014年（平成26年）9月15日没（享年87歳）

●沖縄

第13回（1961年）奨励賞

第14回（1962年）沖縄賞

第15回（1963年）沖縄賞・準会員推挙

第16回（1964年）準会員賞・会員推挙

第17回（1965年）沖縄会員

【絵画】 奥原崇典 (1950～2014)

日本中国水墨画協会理事・沖縄会員／沖縄県立芸術大学非常勤／絵画、手作り瓦、漆喰シーサー等

のアーティスト活動／2010年5月には、東急ハンズ渋谷店での漆喰シーサー教室／2012年5月関西大学にて琉球建築、講演・シーサー教室などの様々な場での活動を行う

1950年（昭和25年）与那原町生まれ

1977年（昭和52年）国立台湾師範大学卒業展国画部佳作賞

1981年（昭和56年）亜細亜現代美術展日本現代水墨画展（会員）出品

1991年（平成3年）首里城復元（瓦担当）

1994年（平成6年）第12回個展・奥原崇典水墨画展

2005年（平成17年）沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞

2014年（平成26年）3月12日没（享年63歳）

●沖縄

第36回（1984年）沖縄賞

第37回（1985年）奨励賞・準会員推挙

第42回（1990年）準会員賞

第46回（1994年）準会員賞・会員推挙

沖 展 会 則

第一章 名 称

第1条 この会は「沖展」と称し、沖縄タイムス社がこれを主催する。

第二章 目的及び活動

第2条 この会は、「沖展」の展覧会活動を主軸として現代美術工芸の創造発展につとめる。この目的のために次のことを行なう。

- ①. 春季に公募「沖展」を開催する。
- ②. 優秀な新人の推奨につとめる。
- ③. この目的のために必要あるときは、他の団体、機関と協力する。

第三章 方 針

第3条 沖展は、その伝統と歴史的な歩みのうえに各自の作品傾向を尊重し、その進展を期して運営される。

第四章 構 成

第4条 沖展は、絵画・版画・彫刻・工芸（陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸）書芸・写真・グラフィックデザインの七部門で構成する。

第5条 会の運営を円滑にするため、「沖展運営委員会」とその中に「企画委員会」を設ける。

第五章 会員・準会員

第6条 会員・準会員を各部門におきその数については定めない。

第7条 会員は、準会員中より推挙することを原則とする。推挙は、沖展審査終了後会員の合議によって行われる。

第8条 準会員は一般出品者中より推挙される。推挙は、会員推挙と同時に会員の合議によって行なう。

第9条 会員・準会員は、準会員賞又は沖展賞を2回以上受賞した者を対象とし、その他の受賞及び特別の推挙も考慮することができる。

第10条 会員・準会員は未発表の主要作品を沖展に発表し、又この会の維持運営に協力する。

第11条 会員・準会員は、希望意見を企画委員会に具申することができる。

第12条 客員・会員死去のときは、沖展会場に主要遺作を陳列するのを原則とする。陳列の場合、展示法、点数はそのつど企画委員会が協議する。

第13条 沖展に連続2回に亘って不出品を続ける会員・準会員は、その理由を運営委員会に知らさなければならない。病気その他の理由による不出品以外は運営委員会で審議の結果、会員・準会員を失格することがある。

第14条 会員・準会員のうちに、会の名誉を損う不適当な行為のあったときは、運営委員会はこれを審議し、該当者に対し除名又は適宜の処置をとる。

第六章 沖展運営委員会

第15条 運営委員は沖展運営委員長が会員中から委嘱する。

第16条 沖展運営委員長は沖縄タイムス文化事業局長がこれにあたる。

第17条 沖展運営委員会は沖展の運営ならびに公募作品の審査にあたる。

第18条 運営委員はそれぞれの所属部門の運営にあたる。

第19条 沖展運営委員会は毎年沖展募集要項を審議決定する。

第七章 企画委員会

第20条 企画委員会は各部門の運営委員中より選出された委員によって組織され、沖展運営の企画とその推

進を担当し、又は各種の審議権を運営委員会から委託される。その決議事項は運営委員会の承認を得なければならない。

第21条 企画委員長は沖展運営委員長がこれを兼ね、必要に応じ企画委員会を招集する。

第22条 企画委員会は「沖展」を定例的に企画し、又はこの会の発展のための企画をたてる。その他「沖展」会期中に処理すべき事項にあたる。

第23条 企画委員会は、欠席の部門に関する事項の決議は行わない。又委員の出席数が委任状を含めて定数の過半数に至らないときは、協議の決定は行わない。

第24条 企画委員会は、会員・準会員の中から下の係りを若干名ずつ委嘱し、「沖展」運営の円滑をはかる。

- ① 搬入、搬出係（作品の保護管理の指導を担当する）
- ② 審査係（審査の進行、記録、入選通知、発表等を担当する）
- ③ プロ作成係（沖展プログラムの編集及びデザインを担当する）
- ④ 会場構成係（沖展会場内外及び周辺の構成を担当する）
- ⑤ 受賞係（賞状、賞品等の準備、作成を担当する）
- ⑥ 懇親会係（贈呈式、懇親会の運営を担当する）
- ⑦ 推挙事務係（被推挙者の資料作成を担当する）
- ⑧ P R 係（報道対策、沖展盛り上げ企画等を担当する）

第25条 企画委員の定数は、絵画3、版画2、彫刻2、工芸6、書芸3、グラフィックデザイン2、写真2名、計20名とする。

第26条 企画委員の任期は、2年とし、運営委員会において各部で選出する。その選出に当たっては委員の半数が交替することを原則とする。

第八章 審査及び陳列

第27条 公募作品は審査を行ない運営委員および運営委員長がその審査に当たる。

第28条 審査委員長は運営委員長がこれに当たる。

第29条 審査委員長は、運営委員会の協議による基本案をもとに審査方針をたて、審査を主導する。又審査を円滑に運ぶための決定権をもつ。

第30条 ① 作品の陳列は、各部門から部門別の陳列委員長を選出して行なう。

② 陳列委員長は、各部審査会終了と同時に選出する。

③ 陳列は各部陳列委員長の下に、若干名の陳列委員を置いて行なう。陳列委員は、陳列委員長の意向を参酌の上、会員・準会員の中から、審査会の席上で決める。

④ 陳列は陳列委員長の責任において行なう。

第九章 顧問及び客員

第31条 本会に顧問及び客員をおく。

本会の維持と発展に功績のあった人を顧問又は客員としておくことができる。

第十章 賛助会員

第32条 本会に賛助会員を置く。

第33条 賛助会員は運営委員会によって推挙されたもので、沖展に招待出品することができる。

1. 本会則は1971年2月9日より実施する。
2. 1984年4月3日改正
3. 1986年12月2日改正（第4条、第25条）



2014年4月6日 撮影

廣告

古美術 親宝堂

骨董品・美術品誠実高価買入、無料鑑定も致します。
お気軽に御相談下さい。

本 店 沖縄県那覇市松山1-23-1（福州園正門前）
TEL (098)863-2643 FAX(098)863-0583

東京店 東京都港区南青山4-23-6（根津美術館横）
TEL・FAX (03) 3499-5056

書道

峰雲書道院 豊平峰雲

沖縄県書作家協会木筆会会長
那覇市田原 1-10-4 ☎098-858-9155

一般の時間割

火		13:30~15:00	
水	10:30~12:00	13:30~15:00	19:00~20:30
木	10:30~12:00	13:30~15:00	19:00~20:30
金	10:30~12:00	13:30~15:00	

随時入会することができます。

城間びんがた工房

代 表 城 間 栄 順

那覇市首里山川町 1-113
(ホテル日航那覇グランドキャッスル東側)

電話 885-9761

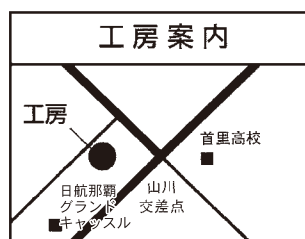
芭蕉布織物工房

平 良 敏 子

大宜味村字喜如嘉 1103
☎(0980)44-3202 FAX(0980)44-3251

琉球紅型

玉那覇紅型工房



玉那覇 有 公

那覇市首里山川町1-66
☎ 884-1184

首里の織物

宮平織物工房

宮 平 初 子

〒903-0806 那覇市首里汀良町 1-24-5
☎ (098) 887-6559

イベント会場設営・大型テント・レンタル

SST

砂辺松福テント(株)

代表取締役 砂辺 昭伸

ハナノ テントウヤ

本社 877-1028

<http://www.sunabe-tent.co.jp>

額縁のことなら



合資会社 前田額装商会

代表者 前田 茂

〒900-0014

那覇市松尾2丁目7番地29号(浮島通り)

TEL (098) 867-4811

FAX (098) 861-0367

写真・映像・音楽を創造する
モリヤマグループ

東町へ
リニューアル
オープン

カメラ・プリント・写真撮影のことなら

カメラのモリヤマ

TEL 098-867-7368

出張写真・映像撮影、音楽収録のことなら

Okinawa Media Art Center
oMac
沖縄メディア・アート・センター
音と光の工房

TEL 098-862-1554

音楽イベント企画・演奏のことなら

 **oMac**
oMac Entertainment

TEL 098-861-7322

那覇市東町19-22
カメラのモリヤマARTビル

<http://www.e-okinawa.co.jp/mips>

沖縄タイムスのご試読キャンペーンのご案内

沖縄
タイムス OKINAWA TIMES が 日刊水木金土 7日間 **0円** 
読んで試せる
無料お試しキャンペーン!!

本紙
+
副読紙

ほ〜むぷらざ(木曜日)
タイムス住宅新聞(金曜日)
ワラビー(日曜日)
らくら(偶数月第一日曜日)

ご試読された方には、
ワラビーグッズを
プレゼント!!

お問い合わせ・お申し込みは



0120-21-9674 (平日9:00~18:00)

FREE DIAL

FAX:098-861-8661 (24時間受け付け)



hanbai@okinawatimes.co.jp

シーサー各種

壺屋焼



湧田陶器

壺屋陶器事業協同組合会員

那覇市繁多川 5-23-25

Tel/098-853-5855

各種宴会、会議、研修、宿泊は

一般
財団法人

沖縄県青年会館

レストラン アレグリア



〒900-0033 那覇市久米二丁目15番23号

TEL.098-864-1780

FAX.098-864-1783

沖縄県市町村職員互助会 沖縄県教職員共済会指定

那覇市職員厚生会 沖縄県市町村職員共済組合

出張パーティ承ります。ご予算に応じます。

オードブル・寿司盛り合わせ出前いたします。

おかげ様で 60 周年

アスクル代理店



本社/浦添市字港川458番地 TEL(098)878-7878(代)

那覇支店 北部支店 八重山支店
中部営業所 南部営業所 宮古営業所 嘉手納営業所

美術品・文化遺産の梱包輸送

～引越のことなら日通～



琉球物流
RYUKYU LOGISTICS

〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-17-13

TEL (098)861-5151

FAX (098)861-5158

<http://www.ryukyu-logi.com>

筆・墨・硯・紙・書道専門書
裏打・表装・貸額

書道用品専門店

丸正

南風原町字新川 505-1

☎(098)851-3985 FAX(098)851-3986

*油彩画・アクリル画用品 *水彩画・デッサン用品
*コミック・デザイン用品 *油彩額縁・デッサン額縁

Green Note

グリーンノート

● 営業時間/
AM9:00~PM7:00

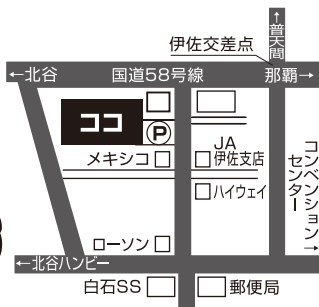
● 定休日/日曜日・祝祭日

■ 宜野湾市伊佐3-1-2

☎ 897-1066

FAX.897-1136

<http://www.green-note.biz/>



安心・安全を提供して46年!

これからも提供し続けます
人とシステムでより確かな安心を



(株)琉球保安警備隊

代表取締役社長 宮里 和政

本社 沖縄県沖縄市与儀1丁目7番5号 ☎098(983)8811
那覇営業所 沖縄県那覇市首里末吉町4-6-1 ☎098(887)1818
浦添営業所 沖縄県浦添市宮城1-35-7 ☎098(878)9065
うるま営業所 沖縄県うるま市字大田321 ☎098(975)0105
北部営業所 沖縄県名護市字田井等652番地1 ☎0980(58)3096
宮古営業所 沖縄県宮古島市平良字西里768-13 ☎0980(73)4650

お客様のニーズに合わせ、
企画・編集から、デザイン・印刷を
トータルサポート。

東洋企画印刷

検索

<http://www.toyo-plan.co.jp>



(株)東洋企画印刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町 4-21-5

Tel.098-995-4444 FAX.098-995-4448 E-mail : info@toyo-plan.co.jp

- 主 催 沖縄タイムス社
- 協 力 浦添市・浦添市教育委員会
- 協 賛 オリオンビール(株)・(株)沖縄教育出版
(株)大川・沖縄食糧(株)・(株)かりゆし
- 後 援 沖縄県・沖縄県教育委員会・琉球放送
琉球朝日放送・NHK沖縄放送局
エフエム沖縄

第67回 沖縄プログラム

定価 1,000円
(税込み)

■発行日：2015年3月

■印刷：株式会社 東洋企画印刷

発行 沖縄タイムス社文化事業局

■表紙デザイン：諸見 朝敬

■沖縄ロゴタイプデザイン：宮城 保武・我喜屋 明正

■写真撮影：LaLa Film's (ララフィルム)

沖縄タイムス社